

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第89集

大和田遺跡群

かわ はら ばた  
川原端遺跡

長野県佐久市大字鳴瀬字川原端遺跡発掘調査報告書  
(弥生時代中期～古墳時代後期集落)

2001.3

佐久市土地開発公社  
長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第89集

大和田遺跡群

かわ はら ばた  
川原端遺跡

長野県佐久市大字鳴瀬字川原端遺跡発掘調査報告書  
(弥生時代中期～古墳時代後期集落)

2001.3

佐久市土地開発公社  
長野県佐久市教育委員会



川原端遺跡航空写真（○が川原端遺跡、北を望む）



川原端遺跡航空写真（西を望む）



川原端遺跡航空写真



川原端遺跡航空写真



作業風景



H 21 号住居址 (北西より)



H 21 号住居址カマド (西より)



H 52 号住居址出土剥片石器



H 54 号住居址出土遺物



## 例 言

1. 本書は平成8年度の佐久市土地開発公社による宅地造成工事に伴う発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は佐久市土地開発公社の委託を受け、佐久市教育委員会埋蔵文化財課、文化財課（平成11年に変更）が担当した。
3. 本書に掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000）、佐久市発行の基本図（1：2,500）を使用した。
4. 発掘調査は佐々木宗昭・須藤隆司・小林真寿・森泉かよ子が主に担当し、本書の編集は堺益子・森泉、執筆は森泉が行った。
5. 航空写真・全測図は共同測量社に委託し、それを使用している。
6. 自然科学分析・鑑定関係は次の方々に依頼した。  
 獣骨鑑定 群馬県立大間々高校教諭 宮崎重雄氏  
 樹種鑑定 パリノ・サーヴェイ株式会社
7. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。






## 凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。  
 H－竪穴住居址、D－土坑、P－単独ピット、M－溝址
2. 遺構番号は発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため欠番がある。
3. 挿図中の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は図中に明記してある。
4. 挿図中の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は図中に明記してある。
5. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

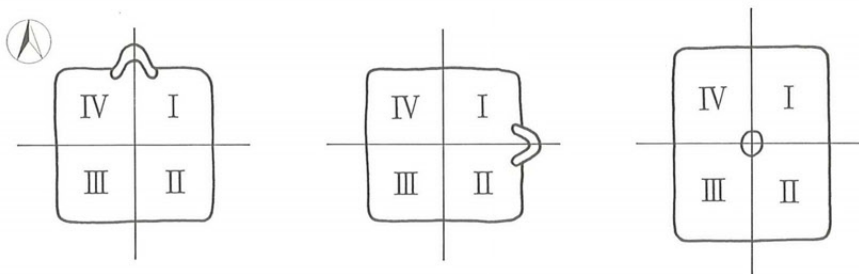
### 遺構

地山断面		焼 土		粘 土	
柱 痕		堀 方			

### 遺物

須恵器断面		黒色処理		礫	
淡い赤色塗彩		濃い赤色塗彩			

6. 遺物の出土地点は下図の住居址分割によるものである。



7. 青色の線は掘方で検出された遺構を示す。

# 目 次

巻頭図版

例言

凡例

目次

第 I 章 発掘調査の概要	1
第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 調査体制	2
第 3 節 調査日誌	3
第 4 節 検出遺構・遺物の概要	4
第 II 章 遺跡の立地と環境	4
第 III 章 基本層序	6
第 IV 章 遺構と遺物	7
第 1 節 竪穴住居址	9
第 2 節 掘立柱建物址	119
第 3 節 土坑	130
第 4 節 溝址	136
第 5 節 グリット・検出面・表採遺物	139
第 6 節 単独ピット	147
第 5 章 総 括	148
引用参考文献	160
付表 遺構一覧表	161
付編	
川原端遺跡から出土した炭化材・炭化物の同定 パリノ・サーヴェイ	168
川原端遺跡出土の獣骨 宮崎 重雄	171

写真図版

## 插图目次

第1图	川原端遺跡位置图	1	第46图	H29号住居址	61
第2图	川原端遺跡遺構配置图	4	第47图	H29号住居址	62
第3图	周辺遺跡分布图	5	第48图	H30号住居址	62
第4图	基本層序模式图	6	第49图	H31号住居址	63
第5图	川原端遺跡全測图	8	第50图	H32号住居址	64
第6图	H1号住居址	10	第51图	H33号住居址	65
第7图	H2号住居址	11	第52图	H34号住居址	66
第8图	H2号住居址	12	第53图	H35号住居址	67
第9图	H3号住居址	14	第54图	H36号住居址	68
第10图	H4・5号住居址	15	第55图	H38号住居址	69
第11图	H6号住居址	17	第56图	H38号住居址	70
第12图	H7号住居址	18	第57图	H38号住居址	71
第13图	H7号住居址	19	第58图	H40・42号住居址	74
第14图	H8号住居址	117	第59图	H43号住居址	76
第15图	H9号住居址	21	第60图	H43号住居址	77
第16图	H10号住居址	23	第61图	H49号住居址	78
第17图	H10号住居址	24	第62图	H54号住居址	80
第18图	H10号住居址	25	第63图	H54号住居址	81
第19图	H10号住居址	26	第64图	H54号住居址	82
第20图	H11号住居址	28	第65图	H55号住居址	84
第21图	H12号住居址	29	第66图	H55号住居址	85
第22图	H13号住居址	29	第67图	H56号住居址	86
第23图	H14号住居址	31	第68图	H58号住居址	87
第24图	H14号住居址	32	第69图	H61号住居址	89
第25图	H15号住居址	33	第70图	H62号住居址	90
第26图	H16号住居址	35	第71图	H17号住居址	91
第27图	H16号住居址	36	第72图	H37号住居址	92
第28图	H18号住居址	38	第73图	H44号住居址	94
第29图	H19号住居址	39	第74图	H44号住居址	95
第30图	H20号住居址	40	第75图	H45号住居址	96
第31图	H21号住居址	41	第76图	H45号住居址	97
第32图	H21号住居址	42	第77图	H46号住居址	99
第33图	H21号住居址	43	第78图	H46号住居址	100
第34图	H21号住居址	44	第79图	H46号住居址	101
第35图	H22号住居址	46	第80图	H47号住居址	102
第36图	H23号住居址	47	第81图	H48号住居址	104
第37图	H24号住居址	48	第82图	H48号住居址	105
第38图	H25号住居址	49	第83图	H50号住居址	107
第39图	H26号住居址	51	第84图	H50号住居址	108
第40图	H26号住居址	52	第85图	H51号住居址	109
第41图	H27号住居址	54	第86图	H52号住居址	111
第42图	H27号住居址	55	第87图	H52号住居址	112
第43图	H27号住居址	56	第88图	H53号住居址	113
第44图	H27号住居址	57	第89图	H53号住居址	114
第45图	H28号住居址	60	第90图	H57号住居址	115

第91図	H59号住居址	116
第92図	H39号住居址	118
第93図	H60号住居址	118
第94図	F1・F2号掘立柱建物址	119
第95図	F3号掘立柱建物址	120
第96図	F4号掘立柱建物址	121
第97図	F5・F6号掘立柱建物址	122
第98図	F7・F8・F9号掘立柱建物址	125
第99図	F10・F11・F12号掘立柱建物址	126
第100図	F13・F14号掘立柱建物址	127
第101図	F15・F16・F17号掘立柱建物址	128
第102図	F18・F19・F20号掘立柱建物址	129
第103図	古墳時代の土坑(D3・D6・D7・D10・D1)	130
第104図	古墳時代の土坑(D12・D15・D17・D21)・ 弥生時代の土坑(D5)	131
第105図	弥生時代の土坑(D8・D9・D18)	132
第106図	弥生時代の土坑(D19・D20・D22・D23)	133
第107図	弥生時代の土坑(D25)・時代不詳の土坑 (D13・D14・D24)	134
第108図	時代不詳の土坑(D26)	135
第109図	M1号溝址	137
第110図	M2号溝址	138
第111図	M3号溝址	139
第112図	M4号溝址	139
第113図	グリット・検出・表採遺物	140
第114図	グリット・検出・表採遺物	141
第115図	グリット・検出・表採遺物	142
第116図	グリット・検出・表採遺物	143
第117図	川原端遺跡土坑・単独ピット全体図	146
第118図	単独ピット出土遺物	147
第119図	古墳時代後期杯分類図	150
第120図	古墳時代後期土器編年図(1)	151
第121図	古墳時代後期土器編年図(2)	152
第122図	古墳時代後期土器編年図(3)	153
第123図	古墳時代後期土器編年図(4)	154
第124図	古墳時代住居址変遷図	156
第125図	弥生時代住居址変遷図	157
第126図	弥生時代土器編年図(1)	158
第127図	弥生時代土器編年図(2)	159

# 第 I 章 発掘調査の概要

## 第 1 節 調査の経緯

川原端遺跡は佐久市鳴瀬地区にあり、蛇行し西流する湯川右岸の河岸段丘上にある。西に 1 km ほど流れて千曲川と合流する。佐久でも有数の遺跡である一本柳遺跡群は 2 km ほど上流にある。標高 646~648 m を測る。本遺跡は湯川の第一の河岸段丘上にあたり、大和田遺跡群として周知の遺跡であった。今回、佐久市土地開発公社により住宅団地造成事業が行われる事になり、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。開発により、これらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、発掘調査をする運びとなり、佐久市教育委員会が調査を実施した。

遺跡名	大和田遺跡群川原端（かわはらばた）遺跡（略号 NOK）
所在地	佐久市大字鳴瀬字川原端1670他
調査委託者	佐久市土地開発公社
開発事業	宅地造成工事
発掘調査期間	平成 8 年 8 月 29 日～10 月 31 日
整理調査期間	平成 8 年 11 月～平成 13 年 3 月
調査面積	5,000m <sup>2</sup> （開発対象面積13,804m <sup>2</sup> ）



第 1 図 大和田遺跡群川原端遺跡位置図（1：50,000）

## 第2節 調査体制

調査受託者

教育長 依田 英夫

事務局

(平成11年度より『埋蔵文化財課』から『文化財課』に変更)

教育次長 市川 源(平成8・9年度) 北沢 馨(平成10年度) 小林 宏造(平成11・12年度)

文化財課長 北沢 元平(平成8年度) 須江 仁胤(平成9・10年度) 草間 芳行(平成11・12年度)

管理係長 榎澤 慶子(平成8・9年度)

管理係 田村 和広(平成8・9年度)

文化財係長 大塚 達夫(平成8・9年度) 荻原 一馬(平成10・11・12年度)

文化財係 林 幸彦 三石 宗一(平成8・9・10年度) 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也

富沢 一明 上原 学 山本 秀典(平成11・12年度) 出澤 力(平成11・12年度)

調査主任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調査副主任 堺 益子

調査担当者 須藤 隆司 小林 真寿 三石 宗一 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調査員

(平成8年)

井上 行雄	並木ことみ	倉見 渡	和久井義男	成沢 富子	堀籠みさと	堀籠 滋子	金森 治代
磯貝 ハナ	柏原 松枝	神津さよ子	神津登久子	佐藤けさ子	井出徳四郎	中島フクジ	渡辺久美子
浅沼ノブ江	細萱ミスズ	木内 明美	江原 富子	小林 幸子	宮川百合子	上原 幸子	小田川 栄
堀籠 因	篠崎 清一	依田 みち	樋田 咲枝	花里香代子	阿部 和人	増野 深志	山浦 豊子
柳澤千賀子	小松三喜枝	碓氷 健	山口 丑男	角田すづ子	角田トミエ	東城 友子	神津ツネヨ
新津 幸雄	花里八重子	萩原 宮子	市川チイ子	岩下 吉代	岩下とも子	岩下 文子	工藤しず子
武田まつ子	武田 千里	堀籠 成子	大井みつる	田中 章雄	水間 雅義	小幡 弘子	飯沢つや子
小林 立江	茂木とよ子	林 美智子	花里四之助	花里三佐子	佐藤 愛子	中條 悦子	高瀬 武雄
小金澤たけみ	関口 正	相沢今朝義	小須田サクエ	山崎 直	桃井もとめ	白井おくに	徳田 代助
小山 澄恵	花里八重子	井出 愛子	東城 幸子	川多アヤ子			

(平成9年)

柳澤千賀子 小金澤たけみ 小林 立江 佐藤 愛子 水間 雅義 林 美智子 小幡 弘子 上原 幸子  
宮川百合子 小田川 栄 並木ことみ

(平成10年度)

柳澤千賀子 小田川 栄 小金澤たけみ 小林 立江 佐藤 愛子 林 美智子 水間 雅義 小幡 弘子

(平成11・12年度)

柳澤千賀子 小田川 栄 小金澤たけみ 小林百合子 小山 功 佐藤 愛子 中條 悦子 中島フクジ  
林 美智子 花里四之助 花里三佐子 細谷 秀子 水間 雅義 山浦 豊子



### 第3節 調査日誌

(平成8年度)

平成8年8月29日～9月20日

重機により、トレンチを入れ遺構検出をする。

重機で遺構検出地点の表土削平。

1班体制で調査区東側より検出作業に入る。

9月24日・25日

調査期間がなく2班体制で調査員増員。

遺構検出作業。遺構の掘り下げに入る。

9月26日～10月15日

4班体制で調査員を増員し総計40人となる。

10月16日～10月29日

さらに増員され77名体制となる。

10月30日

全体清掃。

10月31日・11月1日

機材の搬出。現場での調査終了。

11月4日

セスナによる航空測量。

1月27日～3月21日

土器洗浄、注記、図面修正、写真整理作業。

(平成9年度)

平成9年11月26日～平成10年3月9日

土器接合、石膏復元、拓本、図面修正作業。

(平成10年度)

平成10年4月1日～6月25日

土器接合、石膏復元、拓本、遺構図トレース作業。

9月26日～11月20日

石膏復元、土器実測、遺構図トレース作業。

(平成11年度)

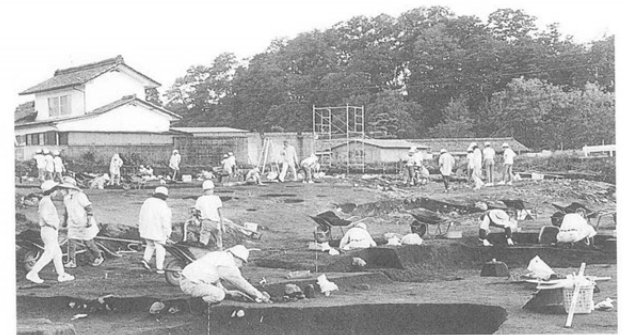
平成11年11月26日～1月14日

石膏復元、土器・石器実測、遺構・遺物図のトレース作業。

(平成12年度)

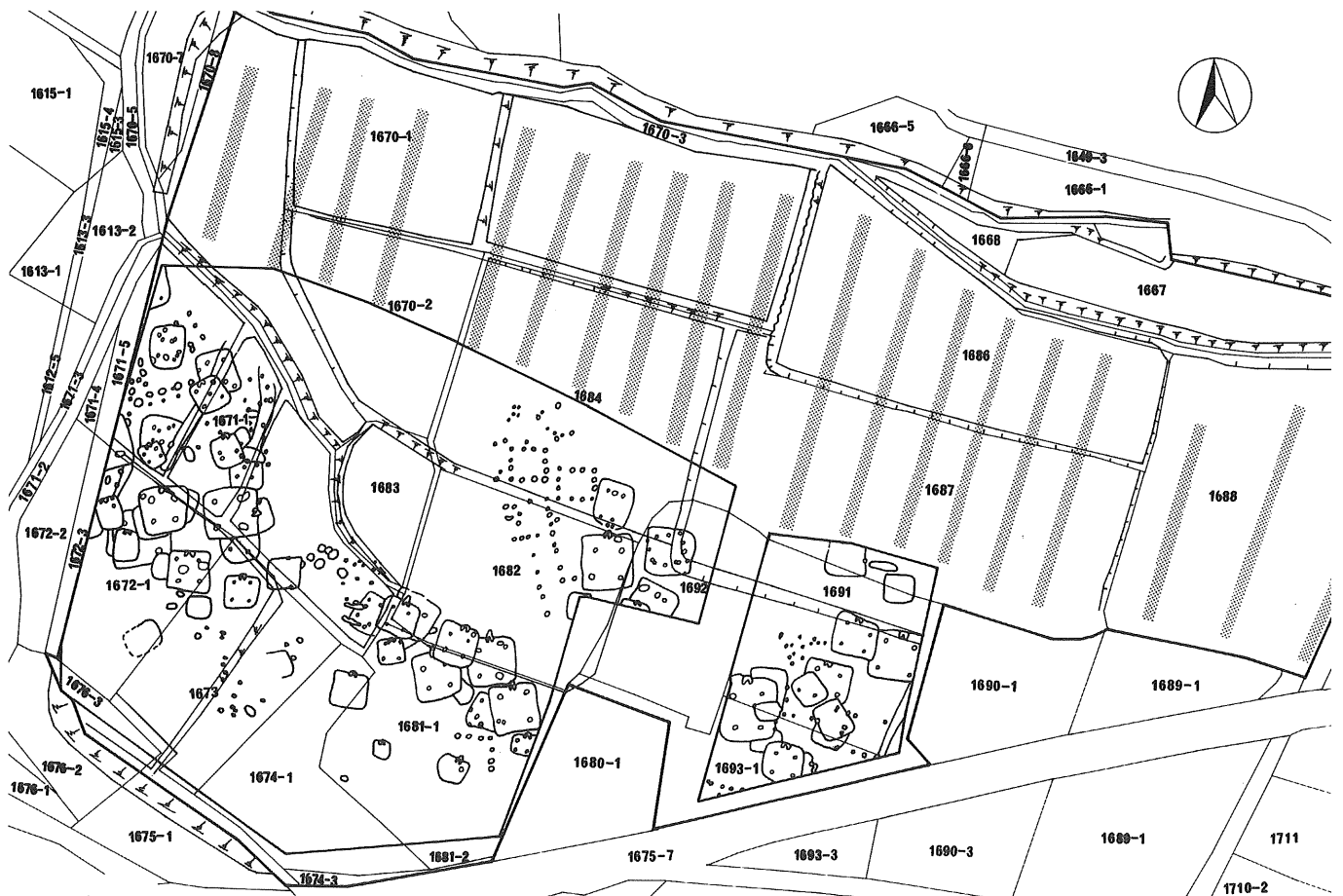
平成12年4月～平成13年3月

遺構・遺物図のトレース、図版作成、原稿執筆、編集を行い、報告書を刊行する。



### 第4節 検出遺構・遺物の概要

遺構		遺物		
竪穴住居址 62棟 弥生時代 13棟 古墳時代 49棟 掘立柱建物址 20棟 単独ピット 123個 土坑 22基 溝址 4本	土器 弥生式土器 土師器 須恵器	石器 打製石鏃 剥片石器 磨製石鏃 編物石 白玉 丸玉 紡錘車 スリ石 凹石 砥石	金属器 鉄製刀子 鉄製釘 鉄製鏃 金環 獣骨 ニホンシカ ノウサギ	



第2図 川原端遺跡遺構配置図 (1:1,000)

## 第II章 遺跡の立地と環境

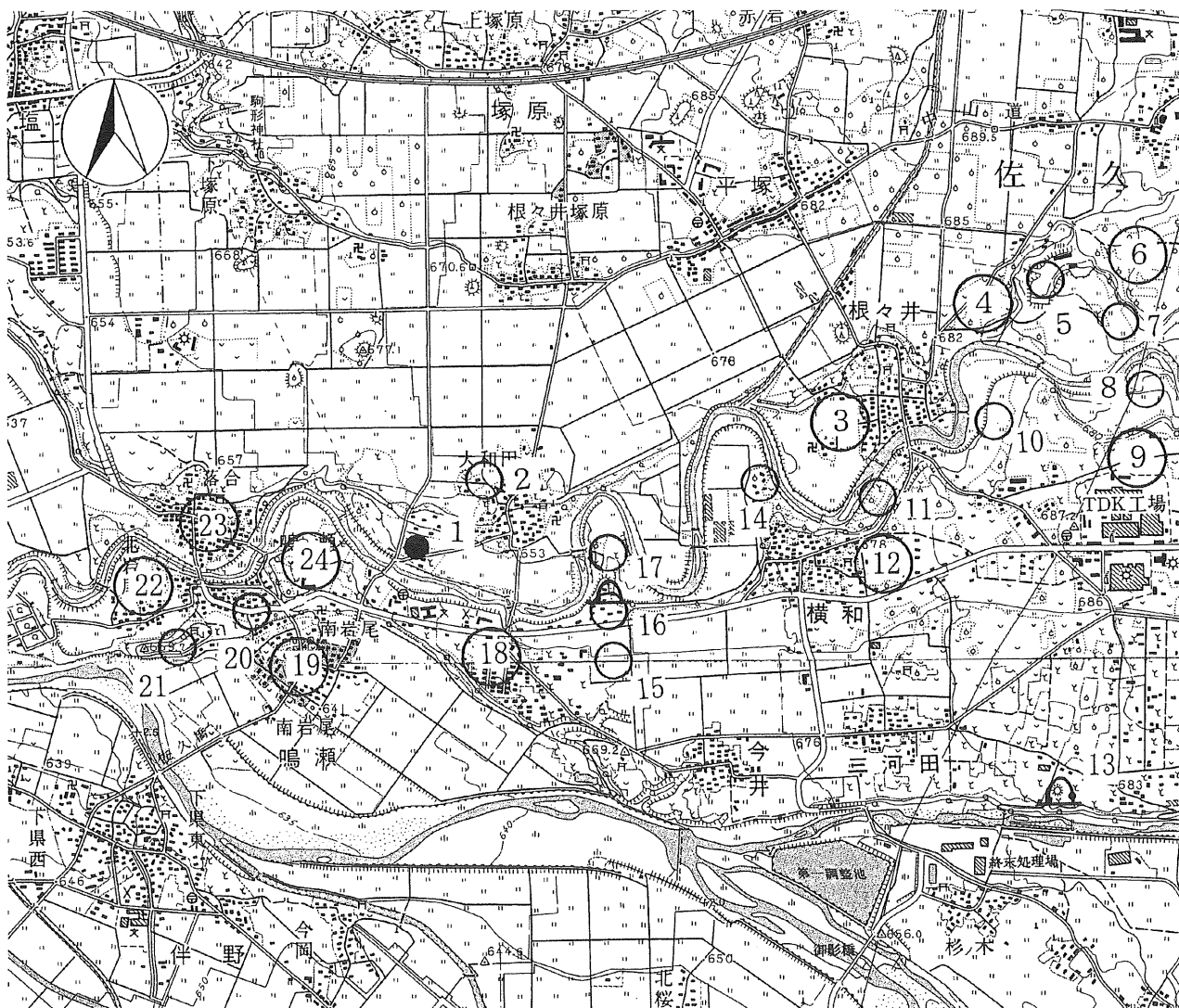
大和田遺跡群川原端遺跡は佐久市の北西にあり、湯川と千曲川が1.5km 西で合流するが、遺跡は西流する湯川右岸の河岸段丘上にあたる。標高646~648mを測り、湯川の河床に向かって段をなして標高が下がっている。湯川の氾濫原で、遺跡の基盤層は砂・砂礫層である。しかし、開発対象区の北東は第2図にみるように低く、自然堤防の後背湿



地となって、湧水が激しい。遺構のみられるの自然堤防上の高い地点である。

周辺の遺跡についてみると（第4図）蛇行する湯川の左右両岸に遺跡が濃厚に分布していることがわかる。まず、右岸では河岸段丘上に3.根々井居屋敷遺跡があり、平安時代の集落が試掘調査により確認されている。また県史跡の根々井館跡が同地にあり、平安時代から中世にかけて活躍した佐久党の武士団根々井氏の居館と推定されている。同じ湯川右岸の4.鳴沢遺跡群・5.北西久保遺跡・6.一本柳遺跡遺跡群は弥生時代～中世にかけてほぼ連綿と集落と墓域が展開した佐久でも有数の遺跡群である。遺構の密集度が高く、ことに注目される遺物を出土している。五里田遺跡では弥生時代の鉄剣、鉄釧、銅訓、北西久保遺跡では多量の形象埴輪、一本柳遺跡群では金箔の施された青銅製馬飾りなどがある。7.中西の久保遺跡、左岸の8.仲田遺跡などはその下の河岸段丘上の遺跡で、古墳～平安時代を中心とした集落である。仲田遺跡からは奈良時代の八花鏡が出土している。9.寺畑遺跡群では縄文時代創早期の爪形文土器と石器を出土している。12.宮の上遺跡群では根々井芝宮遺跡が発掘調査され、弥生時代中期、古墳時代後期、平安時代の集落が確認されている。ここでは弥生時代中期の焼失家屋から壺に入った黒耀石の原石が出土している。15.今井西原遺跡では古墳時代前期の集落が確認されている。

殊に弥生時代中期の集落は、南流から西流に方向を変え蛇行する湯川の左右両岸域に、多くみられる。弥生時代中期の遺跡が上段の台地を中心として展開しており、佐久市域ではこの一帯が弥生文化発祥の地といえるようである。また古墳初頭から前期の集落も分布し、弥生文化と同様古墳時代の幕あけもこの湯川沿いが注目される。



第3図 周辺遺跡分布図

川原端遺跡は弥生時代中期と古墳時代後期を中心とする集落址である。この低い段丘で、このように規模の大きい集落が検出されたことは、遺跡の広がりについて再認識され、今後の調査に貴重な資料提供となるであろう。

第1表 周辺遺跡一覧表

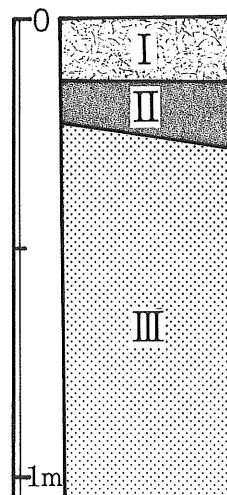
No	遺跡名	所在地	立地	時代	備考
1	大和田遺跡群	鳴瀬字川原端	段丘	弥・古	本報告書
2	大和田屋敷遺跡群	鳴瀬字屋敷・ついじ	段丘	弥～古	
3	根々井居屋敷	根々井字居屋敷	段丘	弥～中世	県史跡根々井館跡あり
4	鳴沢遺跡群	根々井字鳴沢・五里田他	台地	縄～中	平成9年度発掘調査
5	北西久保遺跡	岩村田字北西久保	舌状台地	弥～中	昭和57・60年度発掘調査
6	一本柳遺跡群	岩村田字東一本柳・西一本柳	台地	弥～中	平成3～12年度発掘調査
7	中西の久保遺跡群	岩村田字中西の久保	段丘	弥～平	平成4～10年度発掘調査
8	仲田遺跡	根々井字仲田	段丘	古～平	平成7年度発掘調査
9	寺畑遺跡群	根々井字寺畑・山下他	台地	縄～平	平成6・7年度発掘調査
10	諏訪分遺跡群	根々井字諏訪分・北諏訪分	段丘	弥～平	
11	赤石河原	根々井字赤石河原	段丘	弥・平	
12	宮の上遺跡群	横和字宮の上・一本松	台地	縄～平	昭和62・63年度宮の上Ⅰ・Ⅱ遺跡 平成4年度根々井芝宮遺跡
13	三河田大塚	三河田大塚414-5	台地	古	
14	北久保遺跡	横和字北久保	段丘	古～中	
15	今井西原遺跡	今井字九反田他	台地	古～平	昭和49年度発掘
16	寄塚遺跡群	横和字寄塚	台地	弥～中	寄塚古墳あり
17	鍛冶田遺跡	横和字鍛冶田	段丘	弥～平	
18	白山遺跡群	鳴瀬字白山他	台地	縄～平	
19	鳴瀬中屋敷遺跡群	鳴瀬字中屋敷・殿中	段丘	弥・平・中	
20	鳴瀬宮の前遺跡	鳴瀬字宮の前	台地	弥～平	
21	岩尾城跡	鳴瀬字城跡	台地	中	
22	下北古屋遺跡	鳴瀬字下北古屋	台地	平・中	
23	落合居屋敷遺跡群	鳴瀬字居屋敷	段丘	弥～平	
24	上の平遺跡群	鳴瀬字上の平他	台地	弥～平	

### 第Ⅲ章 基本層序

大和田遺跡群川原端遺跡は湯川の右岸の河岸段丘上にあつて、湯川の氾濫原を基盤層としている。標高は645～648m前後を測り、低い地点は現在の湯川の河原とほぼ同じ標高となっている。

湯川沿いの氾濫原の土壌は表面に浅い水田層があり、その下に礫層または砂礫層となっている。土の色は灰色を呈している。これらは水性の堆積である。

遺構確認面は第Ⅱ・第Ⅲ層上であり、構築面も同様である。所によってシルト層、砂礫層と堆積がことなることがある。



第Ⅰ層 褐灰色土層(10Y R 4 / 1)  
水田層

第Ⅱ層 にぶい黄橙色土(10Y R 6 / 4)  
シルト質土。

第Ⅲ層 灰黄褐色土(10Y R 4 / 2)  
砂・砂礫層

第4図 基本層序模式図

## 第Ⅳ章 遺構と遺物



## 第1節 竪穴住居址

### 1. 古墳時代

#### 1) H1号住居址 (第6図、第2表、図版一・三十八)

調査区東側、5え6グリットにあり、古墳時代後期のH9・H10号住居址に切られる。東西474cmを測り、南北に長い形態であるが、重複して南北の長さはわからない。長軸方位はN-9°-Wを指し、カマド等火処は検出されていない。ピットは西壁下中程に小ピット3個、北に1個あるが主柱穴は検出されていない。

掲載遺物には土師器有段口縁壺(1)、S字甕(2・3)、甕(4・5)、小型丸底(11)、長胴甕(8)、丸胴甕(9)、甑(10)、杯(6・7)、スリ石(13~15)がある。出土遺物は2時期に大別され、古墳時代前期と後期である。後期の土器群としては、丸胴甕で口縁部より胴部が張り最大径を持つ8の甕がある。口縁の外反も緩やかで、器肉もやや薄手である。6・7の杯は須恵器杯蓋の模倣杯で、口縁部横ナデ、外面底部はヘラケズリ、内面はナデ調整されている。6C後半の土器群であろう。また前期の土器としては、1~5・11のハケ目残す壺・甕・有段口縁壺・S字口縁甕(S字甕は東海のものではない。)がある。これらは混入品で3C後半から4C前半の土器群である。

第2表 H1号住居址出土遺物一覧表

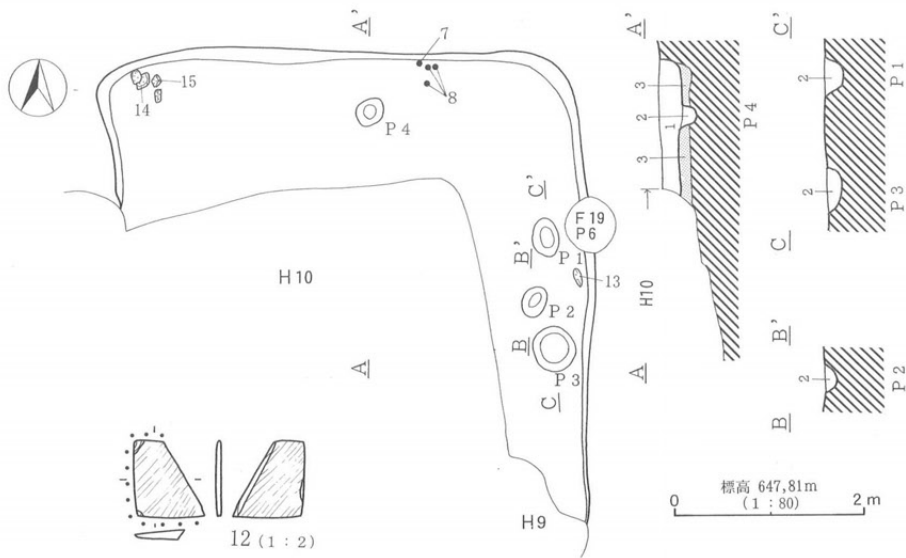
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器壺	(28.6) — <4.0>	内外 口縁部横位ミガキ・頸部縦位ミガキ ミガキ	口縁部1/8残存 内 10Y R4/1(褐灰) 外 5Y R4/2(灰褐)	砂質。1mm以下の白色粒子を多量、1mmの赤色粒子を少量含む。有段口縁。	I区検出
2	土師器甕 (S字甕)	(14.6) — <2.4>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ→胴部ハケメ	口縁部1/6残存 内 10Y R6/2(灰黄褐) 外 10Y R5/2(灰黄褐)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	
3	土師器甕 (S字甕)	(14.0) — <2.0>	内外 横ナデ 横ナデ→ハケメ	口縁部1/10残存 内 7.5Y R8/3(浅黄橙) 外 10Y R5/1(褐灰)	緻密。1mm以下の白色粒子を少量含む。	
4	土師器小型甕	(10.5) — <3.9>	内 口縁部ハケ状工具使用の横ナデ・胴部ハケメ 外 口縁部ハケメ→横ナデ→胴部縦位ハケメ	口縁部1/3残存 10Y R7/4(にぶい黄橙)	きめ細かい。1mm以下の白色粒子を含む。	検出
5	土師器甕	(4.6) — <2.6>	内外 ヘラナデ 胴部縦位ハケメ・底部ヘラケズリ	底部完形(剥離あり) 内 10Y R5/3(にぶい黄褐) 外 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	
6	土師器杯	(12.5) — <5.2>	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ	口縁部1/4・底部1/2残存 内 5Y R7/6(橙) 外 2.5Y R7/6(橙)	緻密。1mmの小石少量含む。	検出
7	土師器杯	(12.7) — 5.2	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部3/4残・底部ほぼ完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	緻密。4mm以下の小石を含む。	検出
8	土師器甕	(16.6) — <19.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ハケメ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部3/4残存 内 10Y R5/2(灰黄褐) 外 7.5Y R7/6(橙) 10Y R5/3(にぶい黄褐)	1mm以下の黒色粒子・砂粒を少量含む。	1層
9	土師器甕	(20.6) — <8.8>	内外 口縁部横ナデ・胴部ナデ→横位ミガキ 胴部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/3残存 内 5Y R3/1(黒褐) 外 7.6Y R6/2(灰褐)	緻密。白色粒子を少量含む。	1層
10	土師器甑	(25.6) 8.4 23.5	内 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ→胴 下半部に縦位ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	底部ほぼ完形・口縁1/3残存 内 10Y R7/3(にぶい黄橙) 外 10Y R7/2(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子、1mm前後の砂粒を含む。	I区・II区 検出

#### 2) H2号住居址 (第7・8図、第3表、図版一・二・三十六・三十九)

調査区東側、5い6グリットにあり、H1号住居址の東にある。南北538cm、東西596cmと東西にやや長い方形の住居址である。古墳時代後期のH3・H4、F19に切られる。壁は北側は残るが南側はほとんどない。カマドは北壁中央に、わずかに粘土と焼土範囲が残った。主軸方位はN-10°-Eである。主柱穴はP1~P4で円形を呈し、径60~100cm深さ48~60cmと堀方は大きく深い。P3で柱痕が確認された。中央のP5・P7は床下から検出された。

掲載遺物には土師器杯(1~8)、鉢(10~12)、甑(13・14)、高杯(15・16)、小型甕(9)、甕(17~26)がある。1の杯は器高が深く、丸い底部から外稜を持って屈曲し、口縁部がやや長く外傾する。また4は内稜をもって口縁が強く外反する。素口縁で口縁全体が内湾する5、全体に内湾し端部がわずかに外反する6などの杯がある。1は内面が磨耗しており、ナデ調整かともみるがはっきりしない。高杯は杯底部から外稜を持って屈曲し、口縁部が外反するもので杯内面はミガキ黒色処理される。2の杯も高杯の杯部である。甑は鉢形の単孔である。24の甕はあまり長胴化せず、胴部に最大径を持ち、厚い底部である。これらより、古墳時代後期の住居址の中では古い土器群であろう。

1. 古墳時代

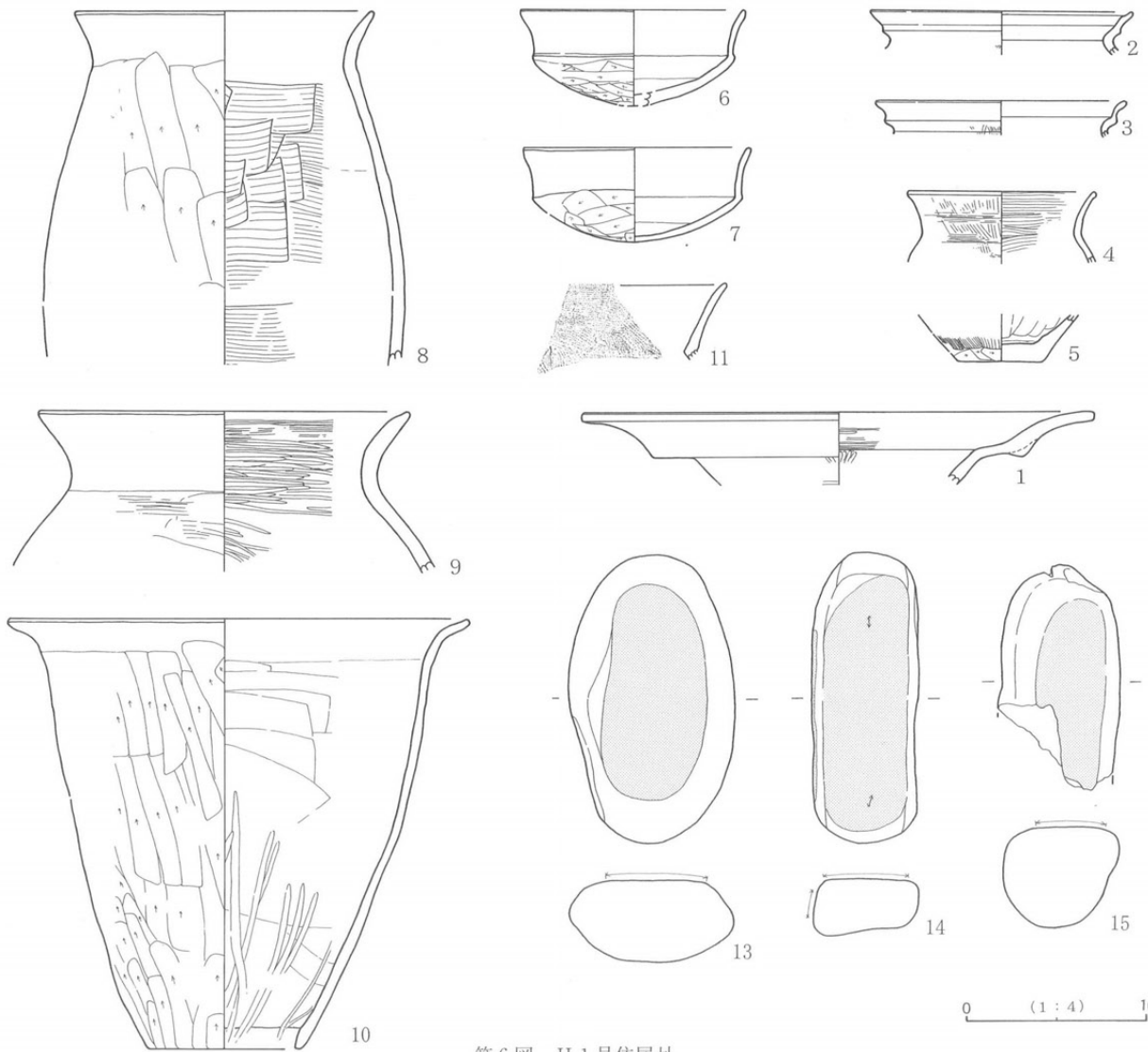


H1 土層説明

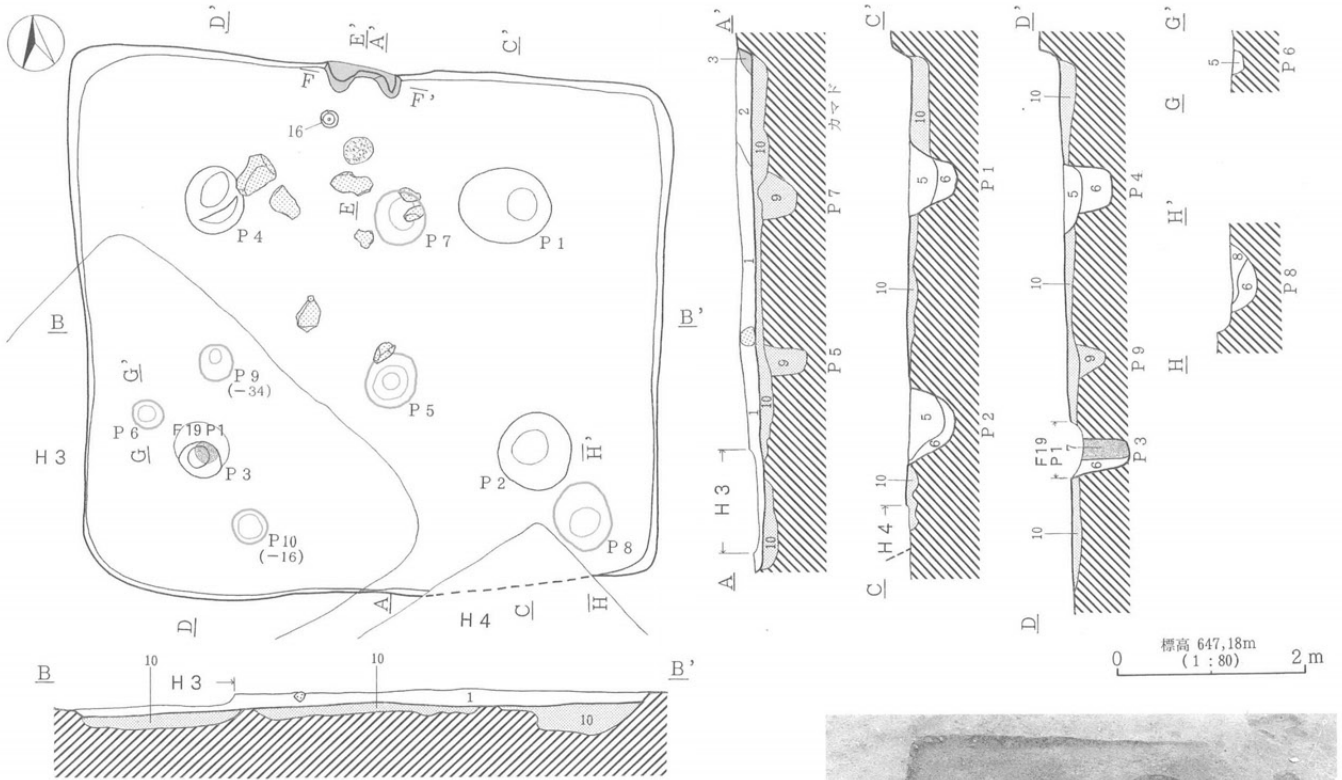
1. 灰黄褐色土層(10YR5/2)  
黄橙色土(10YR8/6)砂粒・不定大ブロックを含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2)  
にぶい黄橙色土(10YR6/4)粒子を含む。
3. 黄褐色土(10YR5/6)  
ローム・砂の混在土層。(貼床)



H1号住居址(北より)



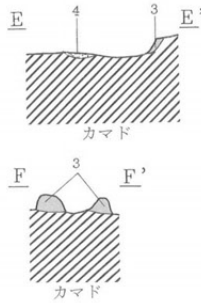
第6図 H1号住居址



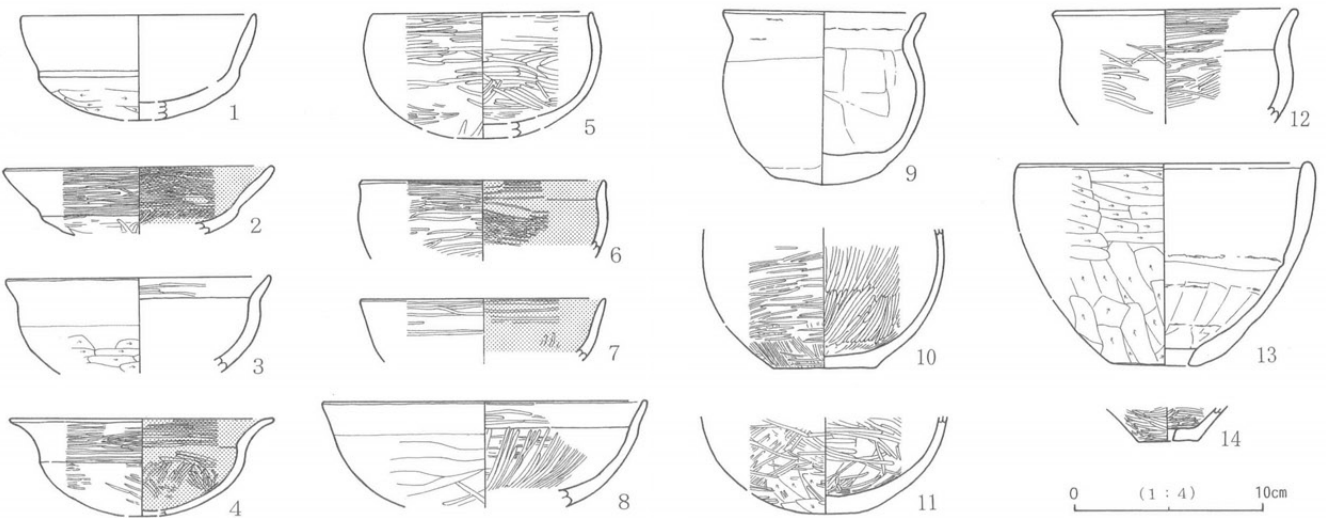
標高 647.18m  
(1:80) 2m

H2 土層説明

1. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) にぶい黄橙色(10YR6/4) 砂粒を含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 焼土粒子・にぶい黄橙色(10YR6/4) 粒子を含む。
3. 灰白色土層(10YR7/1) 粘土・黒褐色(10YR3/1) 砂粒・φ1mm大のパミスを含む。(カマド構築土)
4. 明赤褐色土層(5YR5/8) 焼土。
5. 黒褐色土(10YR2/2)・灰黄褐色土(10YR4/2)の混在土層 φ1mm大のパミスを少量含む。(ピット)
6. 黒褐色土層(10YR2/3) 灰黄褐色(10YR4/2) 粒子を少し含む。(ピット)
7. 褐灰色土層(10YR4/1) (柱痕)
8. 黒褐色土層(10YR3/2) 炭化物を多く含む。(P8)
9. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 褐色土(10YR4/6) 粒子を含む。(P9)
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)・黒褐色土(10YR3/1)・黄褐色土(10YR5/6)の混在層。(堀方埋土)

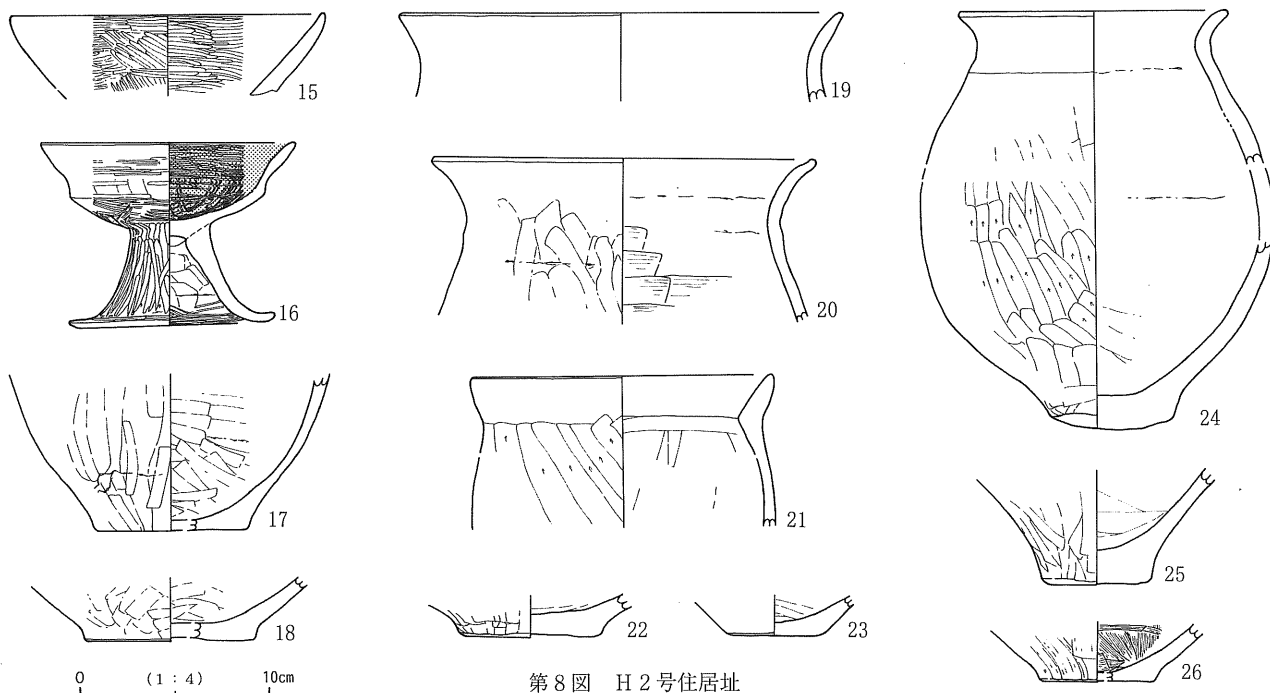


H2号住居址(西より)



0 (1:4) 10cm

第7図 H2号住居址



第8図 H2号住居址

第3表 H2号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.4) — <5.5>	内外 横ナデ? 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 10Y R6/4(にぶい橙) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。1mmの赤色粒子を多く含む。	P1・II区
2	土師器杯	(14.3) — <3.5>	内 みこみ部放射状・口縁部横位ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/3残存 内 黒色 外 10Y R6/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	IV区
3	土師器杯	(14.0) — <5.0>	内外 口縁部横ナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ・体部横位ヘラケズリ	口縁部1/8残存(剥離) 内 5Y R6/6(橙) 外 5Y R6/6(橙)	緻密。1mm以下の白色粒子を少量含む。	P4
4	土師器杯	(14.0) — 5.1	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/8残存 内 黒色 外 10Y R7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	IV区
5	土師器杯	(11.8) — 6.5	内外 ナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ・体部ナデ→横位ミガキ	口縁部1/3残存 内 2.5Y R5/6(明赤褐) 外 2.5Y R6/6(橙)	緻密。	P4
6	土師器杯	(13.2) — <4.1>	内外 横ナデ→横位ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→横ミガキ	口縁部1/4残存 内 10Y R3/1(黒褐色) 外 10Y R3/1(黒褐色)	緻密。1mm以下の白色粒子を含む。	IV区
7	土師器杯	(13.0) — <3.3>	内外 横ナデ→ミガキ→黒色処理 横ナデ→横ミガキ	口縁部1/4残存(内面剥離) 内 2.5Y R5/6(明赤褐) 外 2.5Y R6/6(橙)	緻密。	IV区
8	土師器杯	(17.2) — <5.5>	内外 横ナデ→口縁部横位ミガキ・体部放射状のミガキ 口縁部横ナデ・ヘラケズリ→体部部分的にナデ	口縁部1/6残存 内 7.5Y R6/6(橙) 外 7.5Y R6/6(橙)	緻密。白色粒子を少量含む。	IV区
9	土師器小型甕	10.8 5.8 9	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 胴部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部～底部2/3残存 内 5Y R7/6(橙) 外 5Y R7/6(橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・砂粒を少量含む。 口縁に輪積痕残る。	III区
10	土師器鉢	— 5.5 <7.3>	内外 縦位ミガキ 縦位ハケナデ→横位ミガキ	底部完形 内 7.5Y R6/6(橙) 外 7.5Y R5/4(にぶい褐)	小砂粒を少し含む。 薄手。	IV区

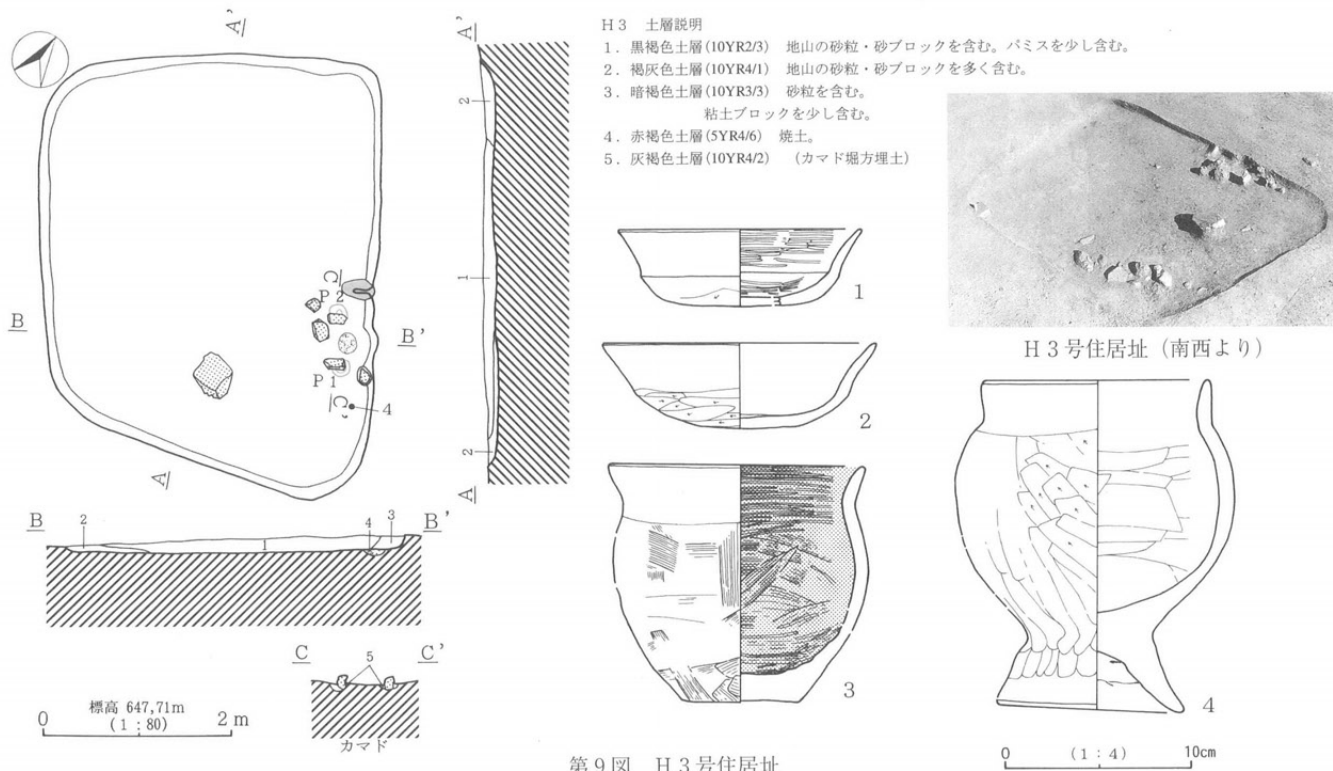


11	土師器鉢	— <5.1>	内外 横位ヘラナデ→ミガキ ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 内 5Y R6/6(橙) 外 5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。4mm以下の赤色粒子を多く含む。	Ⅳ区
12	土師器鉢	(12.0) <6.0>	内外 横位ミガキ 横ナデ→横位ミガキをまばらに施す。	口縁部1/4残存 内 5Y R6/6(橙) 外 5Y R5/4(にぶい赤褐)	1mmの赤色粒子を少量、1mm以下の石英を少量含む。	Ⅳ区
13	土師器甌	15.8 4.6 10.6	内外 胴中央～下半部横位ヘラナデ→口唇～ 胴中央部横ナデ 口唇部横ナデ・胴中央～胴下半部縦位ヘラケズリ→口縁～胴中央部横位ヘラケズリ	口縁部2/3残存、底部完形 内 2.5Y R5/6(明赤褐) 外 2.5Y R6/6(橙)	1mmの赤色粒子・白色粒子・砂粒を含む。 単孔。	Ⅰ区・Ⅲ区
14	土師器甌	— (3.2) <1.8>	内外 ミガキ ミガキ	底部1/2残存 内 N3/0(暗灰) 外 10Y R4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅱ区
15	土師器高杯	(16.6) — <4.2>	内外 横位ミガキ 横位～斜位ミガキ	口縁部1/5残存 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	緻密。1mmの赤色粒子を含む。	検出
16	土師器高杯	13.5 10.8 9.7	内外 杯部ミガキ→黒色処理 脚部柱部横位ヘラナデ 脚部裾部横位ミガキ 杯部(ヘラナデ→)横位ミガキ 脚部縦位ヘラケズリ→縦位ミガキ	完形 内 杯部N1.5/0(黒) 脚部7.5Y R6/4(にぶい橙) 外 10Y R7/3(にぶい黄橙)	緻密。	
17	土師器甕	— (7.9) <8.2>	内外 横位ヘラナデ 縦位ナデ	底部1/4残存 内 10Y R7/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・石英・砂粒を少量含む。 胴下部屈曲。	Ⅳ区
18	土師器甕	— (9.0) <3.3>	内外 ヘラナデ 縦位ヘラナデ	底部1/4残存 内 5Y R5/4(にぶい赤褐) 外 2.5Y R6/6(橙)	砂粒を含む。	Ⅰ区
19	土師器甕	(23.6) — <4.6>	内外 横ナデ 横ナデ	口縁部約1/2残存 内 10Y R7/4(にぶい黄橙) 外 10Y R7/4(にぶい黄橙)	砂粒を含む。	Ⅰ区
20	土師器甕	(20.4) — <8.6>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラナデ	口縁部1/3残存 内 10Y R4/1(褐灰) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
21	土師器甕	(16.0) — <8.0>	内外 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部斜位ヘラケズリ	口縁部1/3残存 内 7.5Y R6/4(にぶい橙) 外 2.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・砂粒を含む。	P4
22	土師器甕	— (7.5) <2.2>	内外 ナデ 縦位ヘラナデ	底部1/3残存 内 10Y R7/3(にぶい黄橙) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	白色粒子・赤色粒子を含む。	Ⅳ区
23	土師器甕	5.0 <2.2>	内外 ナデ 磨滅著しく判別できない。	底部1/2残存 内 10Y R7/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の黒色粒子を含む。 砂粒を少量含む。	検出
24	土師器甕	(14.2) 6.5 22.2	内外 口縁部横ナデ・胴～底部ナデ 口縁横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/2、底部完形 内 5Y R5/3(にぶい赤褐) 外 2.5Y R6/4(にぶい橙) 2.5Y R5/4(にぶい赤褐)	赤色粒子・砂粒・小石含む。 底部台状に突出。	Ⅲ区・Ⅳ区
25	土師器甕	— (5.8) <6.1>	内外 横位ナデ 縦位ヘラケズリ	底部完形 内 7.5Y R4/1(褐灰) 外 7.5Y R4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 底部台状に突出。	
26	土師器甕	— (6.2) <3.1>	内外 ハケナデ ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R6/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区

3) H3号住居址 (第9図、第4表、図版二・三十九)

5う6グリットにあり、古墳時代後期のH2を切る。F19に切られる。H2の上面で重複し、明確なプランの検出はできなかった。カマドは北壁にカマド袖の芯材石と粘土・焼土が検出された。主軸方位はN-57°-Eである。南北410cm、東西342cmの隅丸長方形を呈している。主柱穴は検出されていない。周溝は検出されていない。

掲載遺物には土師器杯(1・2)、鉢(3)、台付甕(4)がある。1の杯は比較的浅い底部から外稜があって、口縁が外反する。内面はミガキ調整される。2は外稜が明確ではなく、口縁部の横ナデによる境である。内面はナデ調整である。3は甕形の鉢で、内面はナデ調整を残し、雑にミガキ黒色処理される。H2の破片と接合し大半がH3の出土であるが、H2に伴うものであろうか。台付甕は口縁部が直立し、丸い胴部に最大径を持つものである。2の杯などからはH2号住居址より新しく、古墳時代後期の土器群であろう。



第9図 H3号住居址

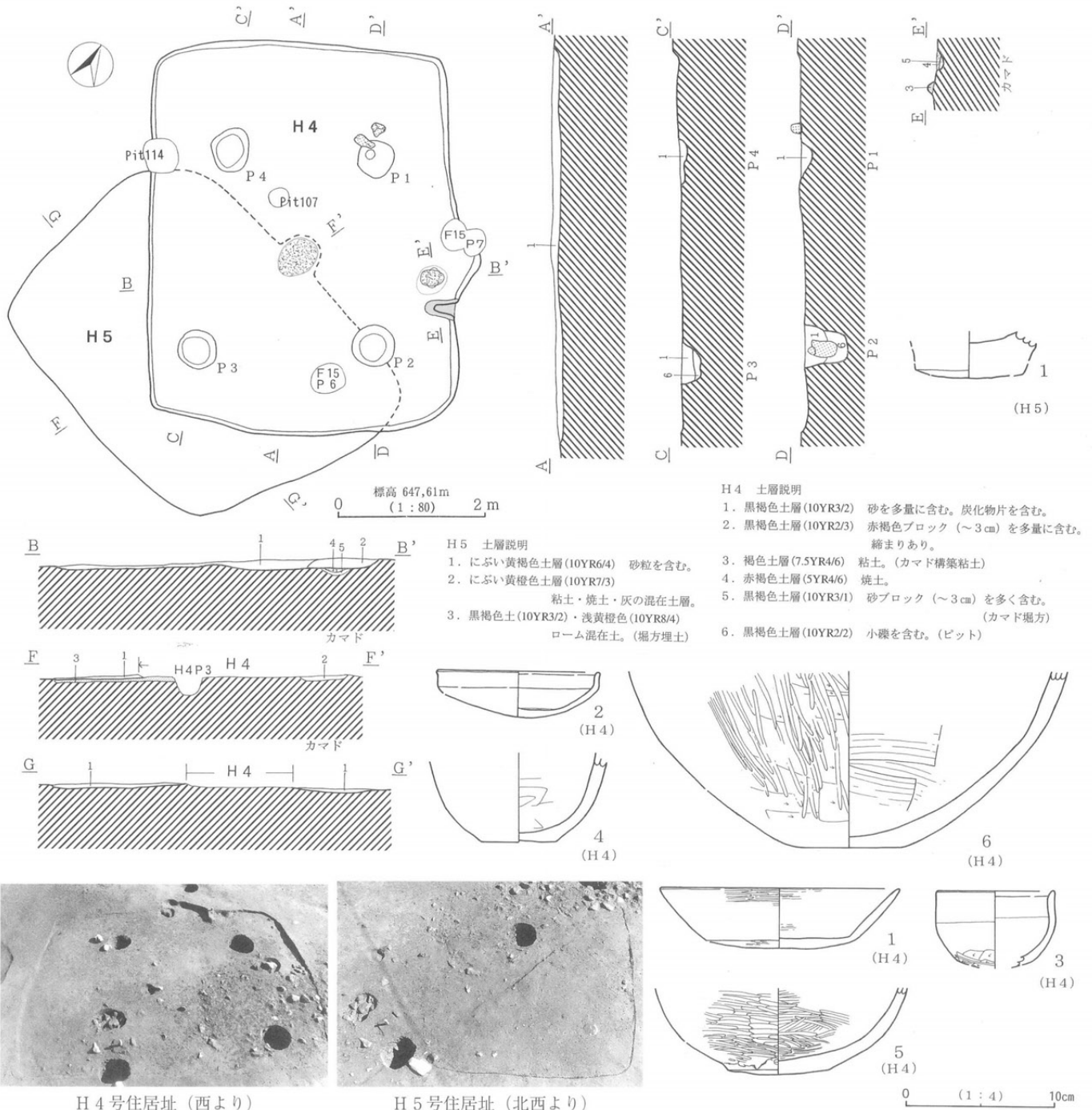
第4表 H3号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(13.0) — <4.05>	内 横ナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。1mm以下の赤色粒子・黒色粒子を含む。 外稜明確。	Ⅱ区・Ⅲ区
2	土師器杯	14.6 4.9 4.5	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ・体部～底部ヘラケズリ	完形 内 7.5Y R7/3(にぶい橙)・ 5Y R6/4(にぶい橙) 外 5Y R6/4(にぶい橙)・ 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、1mmの黒色粒子含む。 外稜不明確。	検出
3	土師器鉢	13.8 6.3 12.4	内 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→口縁部横位ミガキ・胴下半～底部横位ミガキ(雑)→黒色処理 外 胴部～底部ハケナデ・ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁・胴部完形(胴部一部欠損) 内 N2/0(黒) 外 2.5Y R5/4(にぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子含む。	H2Ⅱ区・Ⅲ区 H3Ⅰ区
4	土師器台付甕	12.3 10.0 17.5	内 杯部底部ナデ・口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 台部ナデ・横ナデ 外 台裾部横ナデ→胴部ヘラケズリ・わずかにミガキ→口縁部横ナデ	口縁部ほぼ完形、底部完形 内 5Y R7/4・5Y R5/2(にぶい橙・灰褐) 外 2.5Y R5/6(明赤褐)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・砂粒を含む。	

4) H4号住居址 (第10図、第5表、図版三・三十九)

5い7グリットにあり、H2を切り、H5に切られる。南北512cm、東西400cm 長方形を呈する。すでに生活面が削平され、堀方でプラン確認された。壁残高は最も残るところで8cmと浅い。カマドは西壁のやや南寄りにあり、わずかに粘土と焼土が残存した。支柱穴はP1~P4であり、円形を呈し径52~60cm、深さ18~58cmを測る。周溝は検出されていない。

掲載遺物は土師器杯(1~3)、鉢(5)、小型甕(4)、丸胴甕(6)がある。1の杯は底部が浅く、口縁が外傾をなして長く外傾している。内外面ミガキ調整される。2は須恵器模倣杯で丸底から緩やかな外傾を持って口縁が短



H4号住居址 (西より)

H5号住居址 (北西より)

第10図 H4・5号住居址

1. 古墳時代

く内傾し、端部がわずかに外反する。内外面はナデ調整である。3は小型で口径に比して、器高の深い器形の椀である。内面はナデ調整のみである。5は口縁と胴上部が欠損してわからないが、丸胴甕か鉢であろう。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第5表 H4号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(17.5) (10.4) 3.3	内 ミガキ(磨滅著しく単位の判別できない) 外 ミガキ(磨滅著しく単位の判別できない)	口縁部1/8残存(磨滅) 内 7.5Y R6/4(にぶい橙) 外 5Y R6/6(橙)	緻密。 1mmの砂粒含む。	Ⅱ区
2	土師器杯	(11.0) — 3.1	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ(摩耗著しく判断できない)	口縁部1/4残存(外面摩耗) 内 5Y R7/4・6/4(にぶい橙) 外 5Y R6/3(にぶい橙)	緻密。 歪んだ器形。摩耗著しい。	I区
3	土師器小椀	(8.0) — <5.1>	内外 体部ナデ→口縁部横ナデ 体部ナデ→口縁横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/12残存 内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 10Y R7/4(にぶい黄橙)	小砂粒を少量含む。 歪みあり。	I区・検出
4	土師器小型甕	— 5.0 <5.9>	内外 横位ヘラナデ ナデ	底部1/4残存 内 7.5Y R6/4(にぶい橙) 外 2.5Y R5/3(にぶい赤褐)	砂粒を含む。	P1
5	土師器鉢	— 6.8 <5.7>	内外 横位ミガキ→黒色処理か? 横位ミガキ	底部完形。 内 5Y R6/6・N3/0(橙・暗灰) 外 7.5Y R6/4・N2/0(にぶい橙・黒)	1mm以下の白色粒子・砂粒を少量含む。	Ⅱ区・検出 堀方 H5堀方
6	土師器丸胴甕	— 7.6 <11.6>	内外 ヘラナデ 斜→横位ヘラケズリ→縦位ミガキ	底部完形 内 7.5Y R6/4(にぶい橙) 外 7.5Y R3/2(黒褐)	砂粒含む。	I区・検出

5) H5号住居址 (第10図、第6表、図版三・三十九)

5い8グリットにあり、H4を切っている。F15に切られている。北壁中央に焼土範囲がみられ、南北354cm、東西437cmの隅丸長方形プランを呈す。しかし主柱穴もなく、壁の残りもなくプランも明確ではない。

掲載遺物は土師器長胴甕の厚い台状の底部があるのみである。H4号住居址より新しいとするとこの底部は混入品と考えられることから本住居址の時期を明確にする遺物はない。しかしカマドの存在や重複関係から古墳時代後期があてられる。

第6表 H5号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器甕	— <3.1>	内外 ナデ ナデ	底部ほぼ完形 内 5Y R5/4(にぶい赤褐) 外 5Y R5/4(にぶい赤褐)	小砂粒を含む。	検出

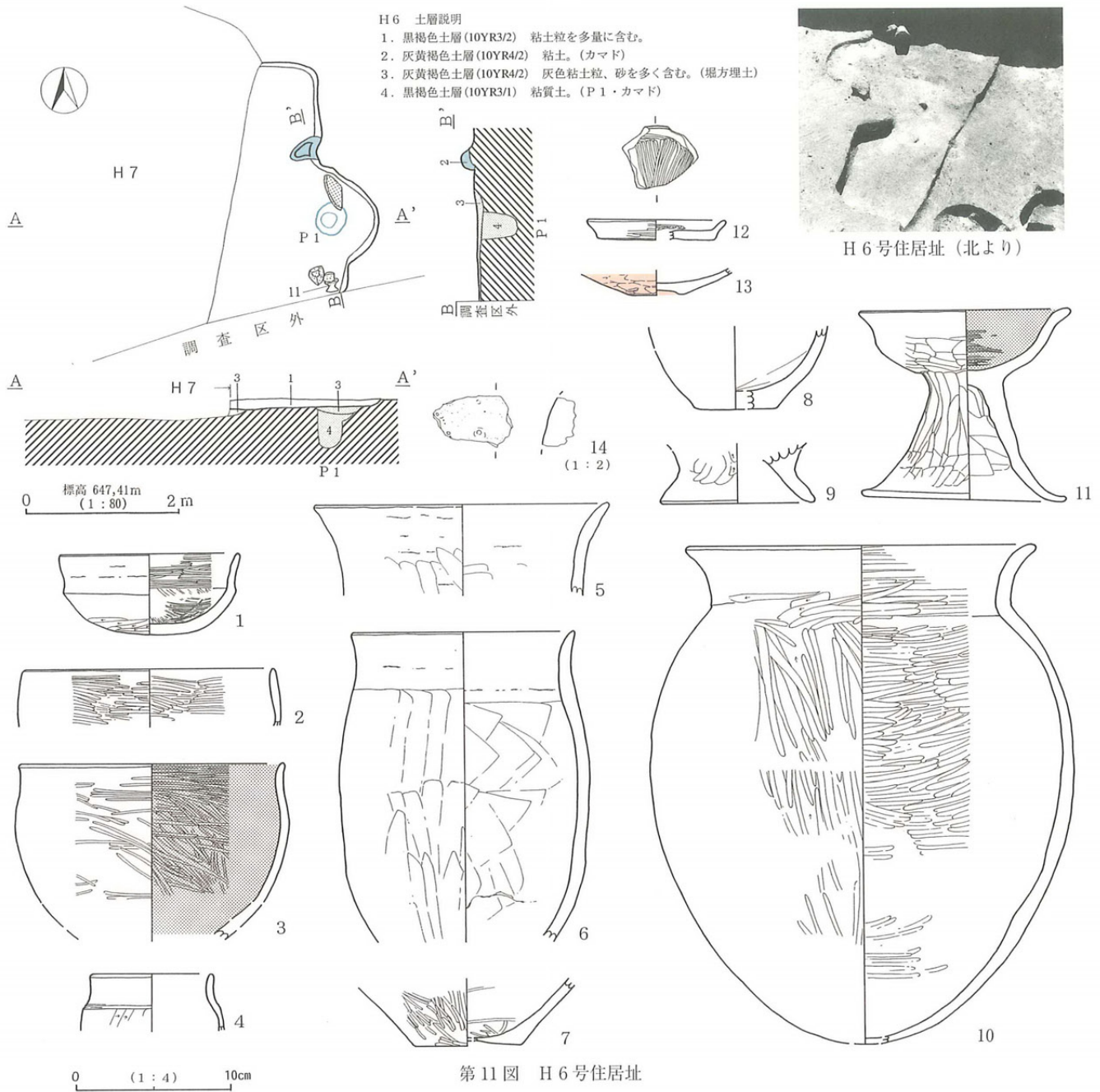
6) H6号住居址 (第11図、第7表、図版四・三十九)

調査区の東にあり、南側が調査区域外にかかる5う9グリットにある。また西側は古墳時代後期のH7に切られるため住居址の北東隅のみ調査した。住居址の規模はわからない。カマドは東壁にあり主軸方位はN-90°-Eである。カマド付近には粘土があった。カマドの下面から堀方でピットが検出された。主柱穴・周溝は検出されていない。

掲載遺物には土師器杯(1)、鉢(2・3)、高杯(11)、器台(12)、甌(7)、小型甕(4・8)、台付甕(9)長胴甕(5・6)、丸胴甕(10)、壺(13)、不明鉄製品(14)がある。土師器杯は口径の割に器高が深く、中位で丸底から口縁が外稜を持って外反する。内面はミガキ調整される。高杯は杯底部と口縁部に明確な稜を持たず、口縁部の横ナデによって作り出された曖昧な稜線である。脚は太くラップ状に開く。甕形土器は口縁部がわずかに外反し最大径が胴部にある。胴部の調整もヘラナデで丁寧である。10の丸胴甕は内外面ミガキ調整がなされる。これらは古墳時代後期の土器群であろう。12の器台、13の外赤色塗彩された壺は混入品であろう。

第7表 H6号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	11.8 — 5.2	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存、底部完形。 内 5Y R6/6(橙) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色粒子を少量含む。	検出
2	土師器鉢	(16.4) — <3.7>	内外 横ナデ→横位ミガキ 横ナデ→横位ミガキ	口縁部1/4残存 内 5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R6/6・5Y R6/4(橙・にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。 歪み大きい。	Z・検出



第7表 H 6号住居址出土遺物一覧表(2)

3	土師器鉢	(17.2) — <11.2>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ→乱雑な ミガキ	口縁部1/4残存 内 N2/0(黒色) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm~3mmの赤色粒子、1 mmの白色粒子・黒色粒子を 含む。	カマド
4	土師器甕	(8.0) — <3.6>	内外 横ナデ 胴部横位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/3残存 内 5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R7/6(橙)	粉末質の細かい胎土。	検出
5	土師器甕	(19.0) — <5.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ナデ	口縁部1/8残存 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	白色粒子・ウンモ粒子・赤色 粒子含む。	Ⅱ区・検出 H7
6	土師器甕	(14.5) — <19.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部横・斜位ヘラナデ 胴部縦位ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/3残存。 内 2.5Y R 5/6・6/6(明赤褐・ 橙) 外 2.5Y R6/6(橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子を含む。	カマド

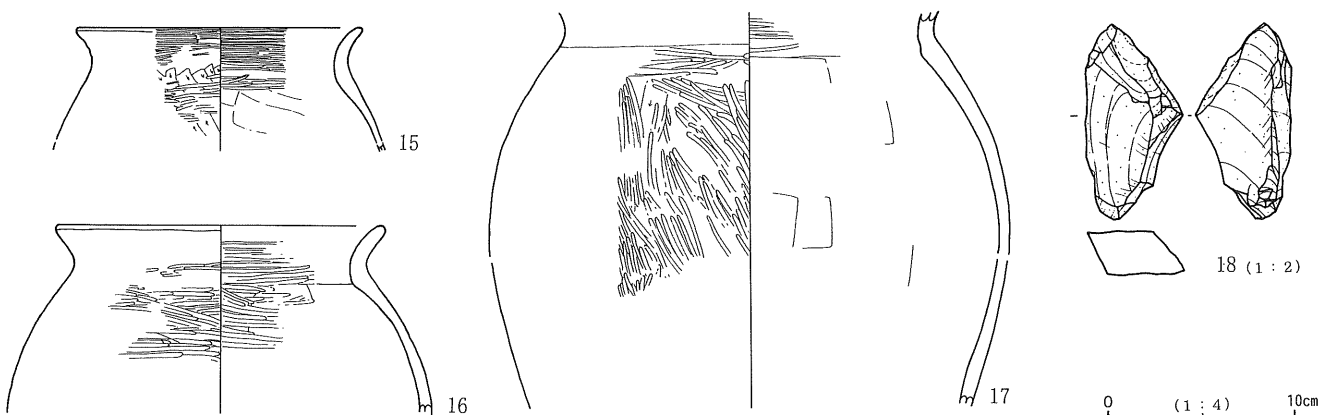
1. 古墳時代

7	土師器 甌	— (7.0) <4.3>	内外 ナデ→部分的に乱雑なミガキ ナデ→乱雑なミガキ	底部1/4残存 内 5Y R 6/4(にぶい橙) 外 5Y R 6/4(にぶい橙)	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	カマド
8	土師器 小型甕	— 5.3 <5.3>	内外 横位ヘラナデ ナデ	底部ほぼ完形 内 7.5 Y R 4/2(灰褐) 外 5 Y R 5/3(にぶい赤褐)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	
9	土師器 台付甕 (台部のみ)	— (10.0) <3.8>	内外 横ナデ 裾部横ナデ→接合部分縦位ヘラナデ	底部1/4残存 内 2.5 Y R 5/4(にぶい赤褐) 外 10R 6/6(赤橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。1mmの砂粒を含む。	検出
10	土師器 丸胴甕	(22.6) — <32.1>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→胴部縦位ミガキ・頸部横位ミガキ	口縁部1/2残存(摩耗) 内 7.5 Y R 7/2(明赤褐) 外 7.5 Y R 7/4(にぶい橙)	1~2mmの赤色粒子・黒色粒子、白色粒子を含む。	
11	土師器 高杯	13.8 13.3 12.4	内 杯部 口縁部横ナデ・みこみ部ナデ→みこみ部ミガキ→黒色処理 内 脚部 裾部横ナデ→脚柱部ナデ 外 杯部 口縁部横ナデ→体部横位ヘラケズリ 外 脚部 裾部横ナデ→脚柱部縦位ヘラケズリ	ほぼ完形 内 杯部 N2/0(黒) 内 脚部 2.5 Y R 6/8(橙) 外 2.5 Y R 6/6(橙)	赤色粒子含む。	
12	土師器 器台	(7.4) (6.0) 1.3	内外 口縁部横ナデ・みこみ部放射状のミガキ 横位ミガキ	底部1/4残存 内 7.5 Y R 7/4(にぶい橙) 外 5 Y R 7/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	II区
13	土師器 壺	— (4.0) <1.6>	内外 ナデ ハケナデ→部分的にミガキ→赤色塗彩	底部1/2残存。 内 7.5 Y R 8/4・7.5 Y R 5/1 (浅黄橙・褐灰) 外 赤色塗彩	1mm以下の白色粒子を含む。	検出

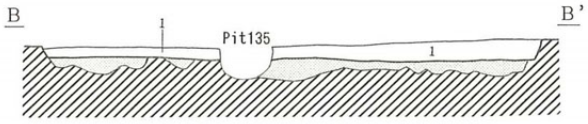
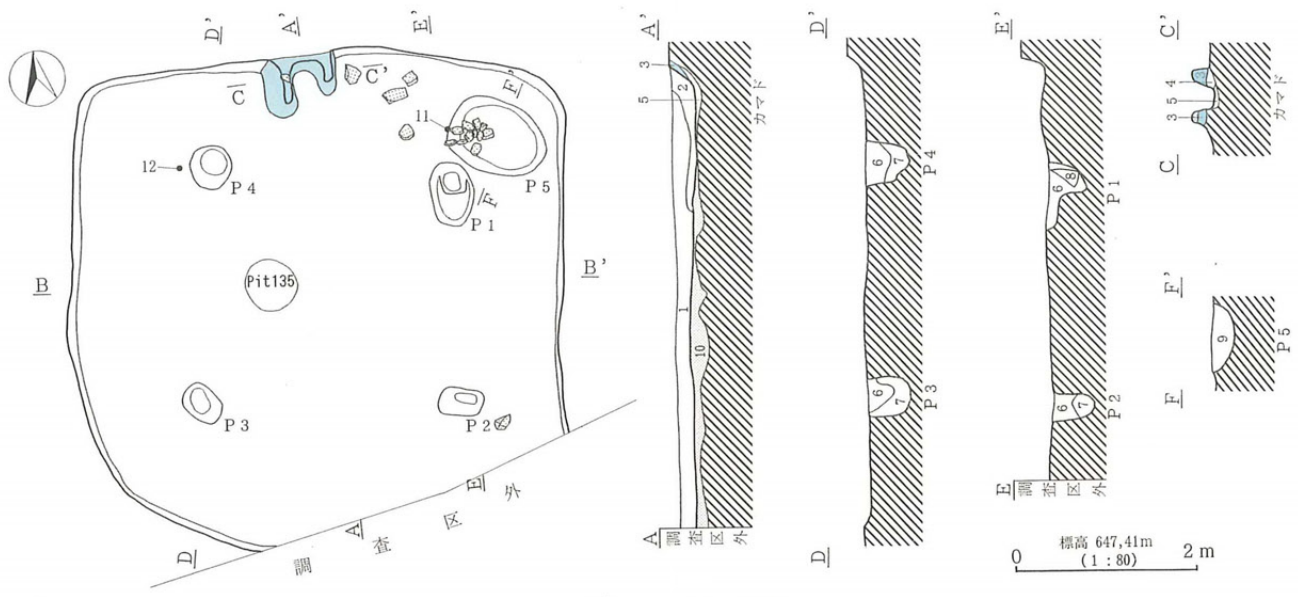
7) H 7号住居址 (第12・13図、第8表、図版四・四十)

5う9グリットにあり、H 6・H 8を切る。単独ピットP 136に切られる。南北508cm、東西518cm を測る隅丸方形を呈する。カマドは北壁中央にあり、粘土の袖が残っていた。主軸方位はN-7°-Eを測る。主柱穴はP 1~P 4である。円形・楕円形・隅丸長方形を呈し、短径で32~48cm、深さは48cm を測る。P 5は北東隅にあり、楕円形で長径112cm、短径80cm、深さ24cm を測る。上面より10の鉢が出土している。

掲載遺物には須恵器杯蓋(1)・杯(2)、土師器杯(3~8)・鉢(10・11・16)・甕(9・12~14)・丸胴甕(15・17)、黒耀石の剥片(18)がある。1の須恵器杯蓋は扁平でかえりが付く。2の杯は小型で底部回転ヘラ切り調整のままである。土師器杯は4が橙色を呈し、粉末質の胎土で器肉が薄い。浅い器形で、底部はヘラケズリし、口縁部は短く横ナデして内傾している。内面ナデ調整である。5~8の杯は素口縁で底部から口縁まで全体に内湾して外傾する器形である。内面はミガキ調整される。10・11・16は鉢で丸胴甕の器形である。長胴甕は12の胴部縦位ヘラケズリされる厚手の古墳時代の甕と、14の薄手で斜位にヘラケズリされる武蔵甕とがある。これらより、古墳時代後期の新しいところの土器群であろう。



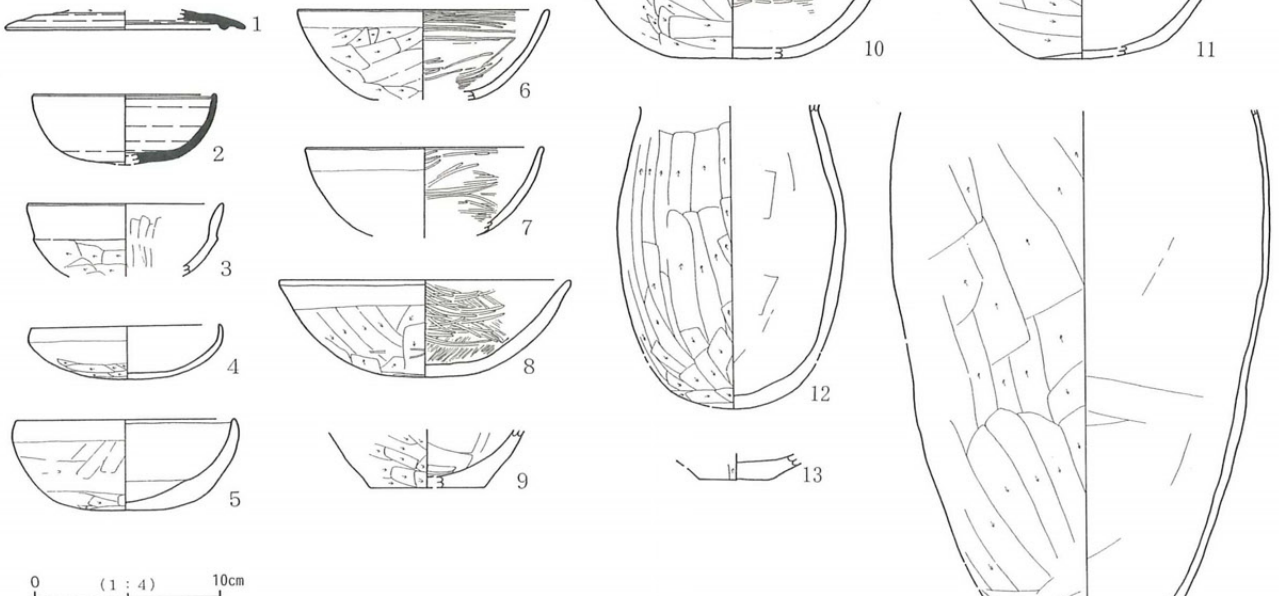
第12図 H 7号住居址



H 7 号住居址 (北より)

H 7 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質土層。砂ブロックを含む。炭化物を少し含む。
2. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼土・地山砂粒を含む。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) (カマド構築粘土)
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) (カマド掘方埋土)
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂を多量に含む。(カマド掘方埋土)
6. 黒褐色土層 (10YR3/1) 白色のシルト質土を含む。(ピット)
7. 褐灰色土層 (10YR4/1) 白色のシルトブロック含む。(ピット)
8. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 白色のシルトブロックと黒色土の混在土。(P 1)
9. 黒褐色土層 (10YR3/1) 砂・粘土ブロック (~2cm) 多量に含む。(P 5)
10. 黒褐色土層 (10YR3/1) 砂・粘土ブロックを多く含む。(貼床)



第 13 図 H 7 号住居址

第8表 H7号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器蓋	— (13.0) <1.1>	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	底部1/5残存 内 N6/0(灰) 外 N5/0(灰)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 かえりが付く。	
2	須恵器杯	(10.0) — 3.8	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラギリ	口縁部1/4残存 内 N6/0(灰) 外 N6/0(灰)	よく精選されている。	
3	土師器杯	(10.6) — <3.9>	内外 横ナデ→部分的にナデ 口縁部横ナデ→体部横位ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 5Y R7/6(橙) 外 5Y R6/3(にぶい褐)	1mmの赤色粒子、1mm以下の黒色粒子・白色粒子を含む。	
4	土師器杯	10.3 — 2.9	内外 みこみ部ハケナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 内 2.5Y R6/4(にぶい橙) 外 2.5Y R6/6(橙)	緻密。 粉末質の胎土に小砂粒を少量含む。	
5	土師器杯	(11.8) (4.8) 4.8	内外 みこみ部ナデ・ミガキ→口縁横ナデ 底部ヘラケズリ→ナデ→口縁部横ナデ	口縁～底部1/4残存 内 7.5Y R8/3(浅黄橙) 外 7.5Y R5/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。 底部に木葉痕あり。	
6	土師器杯	(13.6) — <4.8>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 10Y R4/1(褐灰) 外 10Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	
7	土師器杯	(13.0) — <4.7>	内外 横位ミガキ 底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ→口唇部 横位ミガキ	口縁部1/4残存 内 10Y R7/3(にぶい黄橙) 外 10Y R7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	
8	土師器杯	(15.8) — 5.2	内外 横位ミガキ 縦位ヘラケズリ・口縁部横ナデ	口縁～底部1/4残存 内 5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子・小砂粒を含む。	
9	土師器甕	— (6.3) <3.1>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部1/4残存 内 10Y R6/3(にぶい黄橙) 外 N3/0(暗灰)	1mm以下の白色粒子・砂粒を含む。	
10	土師器鉢	(15.0) (7.2) 14.3	内外 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ→横位 ミガキ 胴部～底部斜～横位ヘラケズリ→口縁 部横ナデ→口縁部横位ミガキ	口縁部1/8残存 内 5Y R7/2(明褐灰) 外 5Y R6/6(橙)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む。口縁端面取。	
11	土師器鉢	(13.9) 6.2 14.3	内外 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ→斜～ 横位(ミガキ) 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ→横位ミ ガキ	口縁部3/4残存、底部ほぼ完形 内 7.5Y R5/3(にぶい褐) 外 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子、2mm以下の赤色粒子を含む。	H6検出
12	土師器甕	— 6.9 <16.1>	内外 横位ヘラナデ 頸部ナデ→胴部縦位ヘラケズリ→底部 ヘラケズリ	底部3/4残存 内 10Y R6/1(灰褐) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1～3mmの黒色粒子を多く含む。	検出
13	土師器甕	— 4.0 <1.4>	内外 ナデ 胴下部ハケメ・底部ヘラケズリ	底部2/3残存 内 2.5Y R6/3(にぶい橙) 外 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を少量含む。	
14	土師器甕	— 4.4 <30.2>	内外 横位ヘラナデ 胴部縦位ヘラケズリ→底部外周横位ヘ ラケズリ	底部完形 内 7.5Y R3/1(黒褐) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。 武蔵型甕。	
15	土師器甕	(15.2) — <6.5>	内外 胴部斜位ハケナデ→口縁部横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ→横 位ミガキ	口縁部1/6残存 内 7.5Y R8/2(灰白) 外 5Y R7/4・7.5Y R5/2 (にぶい橙・灰褐)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	
16	土師器鉢	(17.5) — <9.9>	内外 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ→横位 ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ→横位ミ ガキ	口縁部1/2残存 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の黒色粒子を含む。	検出
17	土師器丸胴甕	— <20.7>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ→口 縁部横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ→胴 部横と縦位ミガキ	胴部1/3残存。 内 10Y R8/4(浅黄橙) 外 10Y R7/4(にぶい黄橙) 5Y R6/6(橙)	2mm以下の赤色粒子、1mm以下の黒色粒子・白色粒子を含む。	H6検出

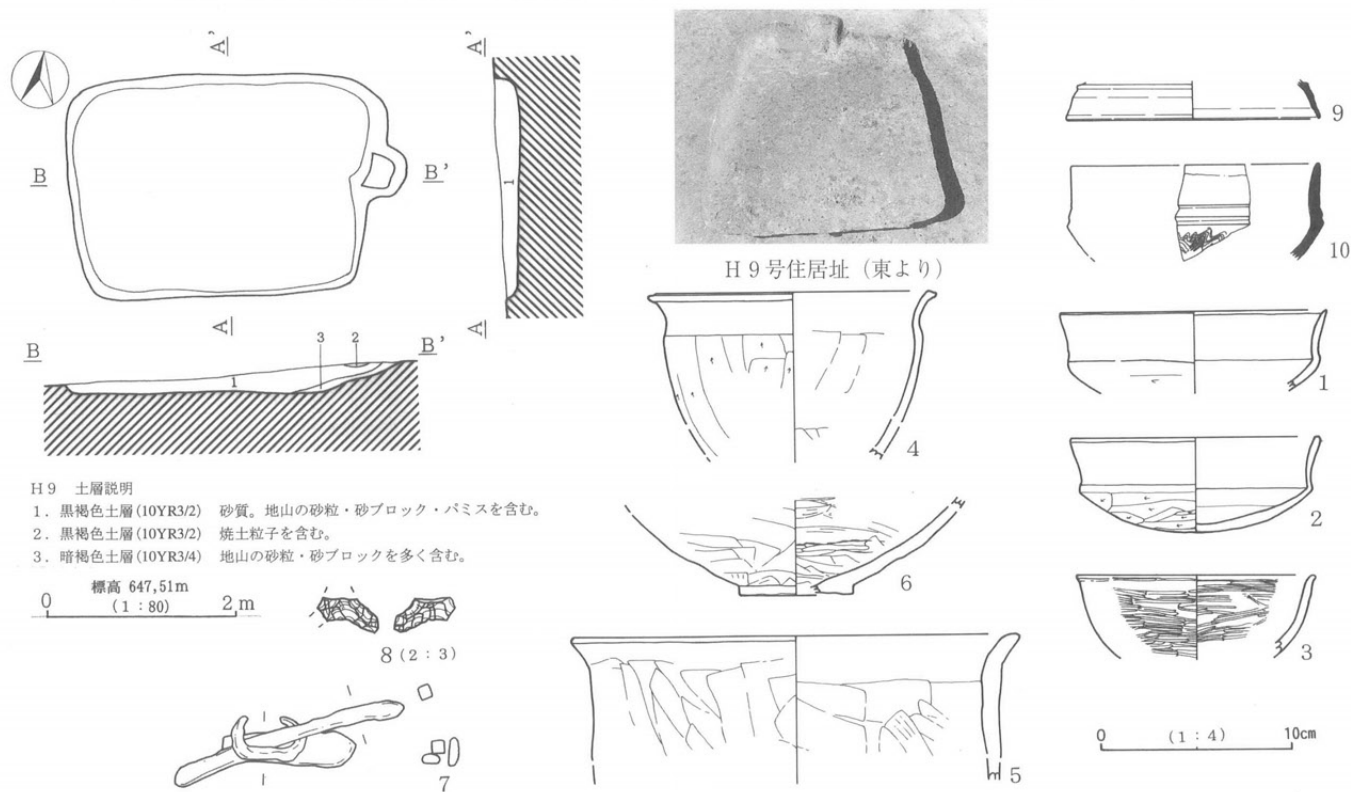


8) H9号住居址 (第15図、第9表、図版五・六・四十)

5え7グリットにあり、H1・H10と重複している。南北215cm、東西282cmの隅丸長方形を呈す。東壁中央に焼土がありカマドの痕跡があった。主軸方位はN-82°-Eを指す。しかし、住居址プランは重複していたこともあって、つかみ切れていない可能性もある。柱穴等は検出されていない。

掲載遺物には須恵器杯蓋(9)・高杯(10)、土師器杯(1~3)・甕(4・5)・壺(6)、鉄製品(7)、黒耀石製石鎌がある。1・2の杯は須恵器模倣杯で、丸底から外稜をもち、わずかに屈曲して、口縁部が直立気味に外反する。3は内外面ミガキ調整、内湾外傾する口縁が口縁端部で短く外反する。4は甕または甑であるかもしれない。5の甕は大型の長胴甕で口縁部は短く外反する。6は底部がベタ底になり、胎土は白い。9・10の須恵器杯と高杯は小破片で、器形は明確でないが、9の杯蓋は天井部と口縁の境に短く凸線が残っている。高杯は無蓋の高杯で杯底部に波状文が施文される。

これらの遺物はH1号住居址の遺物と時間的差がなく、従ってこの住居址に伴う遺物は明確でない。



第15図 H9号住居址

第9表 H9号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(14.0) — <4.2>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 5Y R6/6(橙) 外 5Y R6/6(橙)	緻密。	Ⅱ区
2	土師器杯	(13.2) — 4.9	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部横位ヘラケズリ	口縁部約1/2残存 内 2.5Y R6/6(橙) 外 2.5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少量含む。	Ⅲ区・ H10 I区 堀方
3	土師器杯	(12.6) — <4.3>	内外 ナデ→横位ミガキ ナデ→横位ミガキ	口縁部1/6残存 内 10Y R7/3(にぶい黄橙) 外 10Y R7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒・砂粒少量含む。	Ⅲ区
4	土師器甕	(15.0) — <8.7>	内外 口縁部横ナデ→胴上半部横位ヘラナデ・ 胴下半部斜位ヘラナデ 胴部縦位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部約1/4残存 内 2.5Y R6/6(橙) 外 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色粒子を含む。 口縁端部凹面。	Ⅱ区・カマド
5	土師器甕	(23.5) — <7.6>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部約1/2残存 内 5Y R7/6(橙) 外 5Y R5/4(にぶい赤褐)	1mmの赤色粒子、1mm以下の砂粒を少量含む。	Ⅱ区
6	土師器壺	(6.0) — <4.9>	内外 横位ヘラナデ 横位ヘラケズリ	底部1/4残存 内 2.5Y 8/3(淡黄) 外 10Y R8/3(浅黄橙) 断 10Y R5/1(褐灰)	小砂粒を含む。 歪みあり。底部ベタ底。	I区

## 9) H 10 号住居址 (第16・17・18・19図、第10表、図版六・四十一・四十二)

調査区東側の5え6グリットにある。H 9に切られ、H 1を切る。住居址の規模は南北832cm、東西700cmを測り、南北に長い長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-0°で北を指す。支柱穴はP 1~P 4の4本で円形または楕円形を呈し、短径で52~76cm測り、深さ36~56cmを測る。P 1とP 3は径26・24cmの柱痕が確認された。P 1のすぐ南にも柱痕を持つP 6がある。これも支柱穴であろうか。またカマドの東脇に方形で底面が平らな掘り込みがあった。

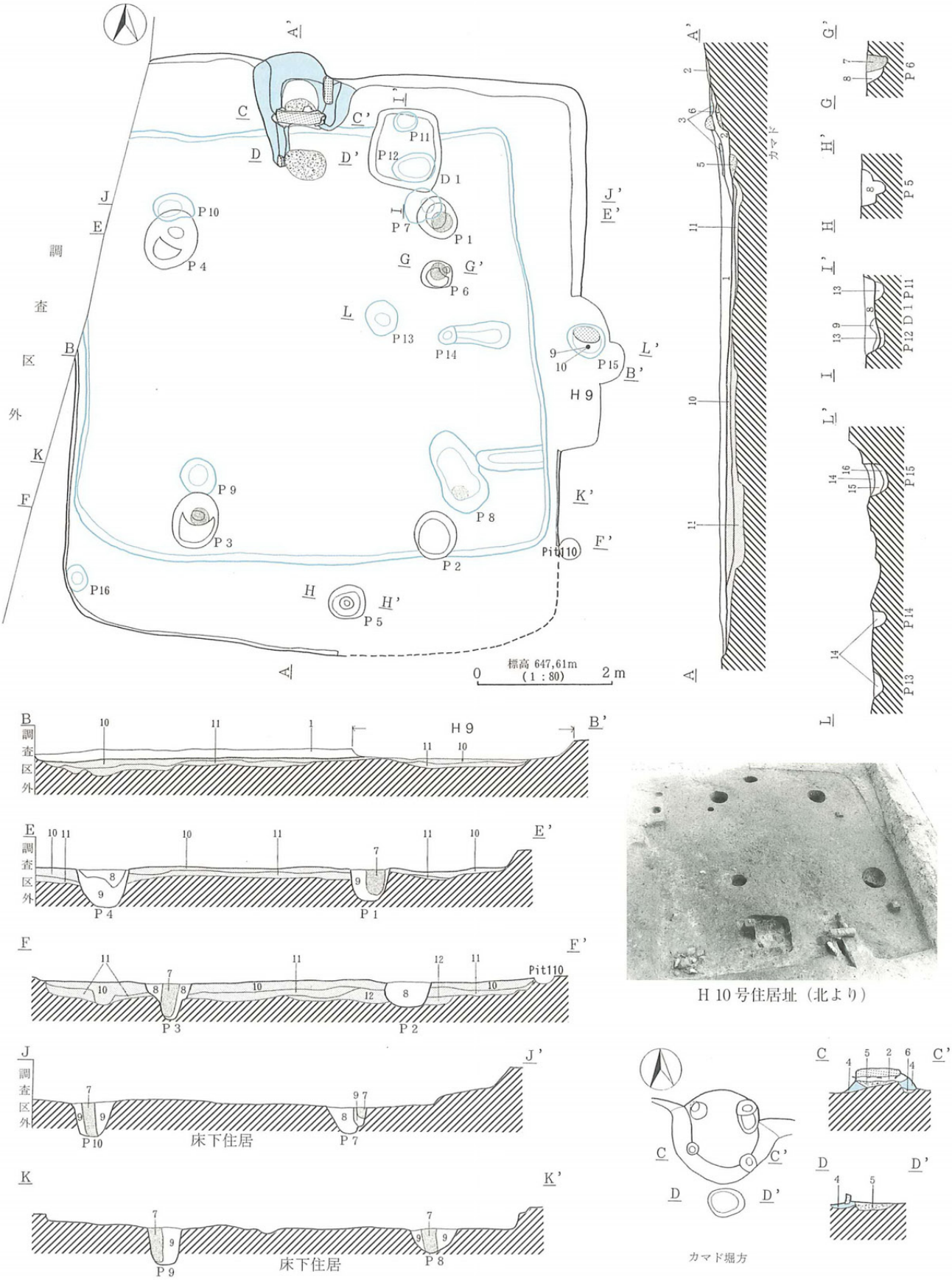
堀方では内周するプランの南北610cm、東西640cmを測る方形の床下住居址が検出された。旧住居の支柱穴はP 7~P 10である。P 15はH 9に伴うピットであるかもしれない。

掲載遺物は土師器は杯(1~8)・高杯(12)・小型甕(9~10)・丸胴甕(19・20)・長胴甕(17・21・23~27・34~40)・甌(28)、鉄製品(46・47)、剥片石器(44)、黒耀石の剥片(45)が出土している。13~15・33・41の土器群は古墳時代前期の3C後半~4C前半の壺・甕である。

土師器杯は3・5の須恵器模倣の杯と、1・6・7などの内面ミガキ黒色処理のものがある。8はわずかに外稜を持ち、全体は肉厚で内湾する。素縁で杯蓋の模倣であろうか。9・10の小型甕は、住居址のプランからはみ出しており、重複するH 1の遺物であろう。長胴甕は13個体あり、38は胴部外面にハケ目を残してヘラケズリされる。最大径は大きく外反する口縁に持っている。29は下部がないので明らかでないが甌であろうか。また37の甕はやや薄手になり、胴上部が横方向にヘラケズリされ、口縁部「く」の字形態の武蔵型甕である。21はH 1の混入品と思われる。これらは古墳時代後期の新しい方の土器群であろうか。

第10表 H 10号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.8) — 4.8	内外 横位ミガキ(黒色処理色変か?) 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ(摩耗)	口縁部1/6残存(摩耗) 10 Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。	
2	欠番					
3	土師器杯	(12.6) — 5.2	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5 Y R 7/6(橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少量含む。	I区
4	欠番					
5	土師器杯	(13.2) — <4.1>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 2.5 Y R 6/6(橙)	緻密。	I区
6	土師器高杯?	(15.6) — 4.7	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 N2/0(黒) 外 5 Y R 6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子、2mmの赤色粒子を含む。	I区
7	土師器杯	(15.2) (9.8) 4.8	内外 横位ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	底部1/2、口縁部一部残存 内 N2/0(黒) 外 10 Y R 7/3(にぶい黄褐)	白色粒子・1~2mmの小石を少量含む。	検出
8	土師器杯	(13.6) (6.0) 4.7	内外 口縁部横ナデ→体部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・体部横位ヘラケズリ	口縁部1/4残存 7.5 Y R 6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子を多量含む。	カマド
9	土師器小型甕	(10.2) 4.2 9.7	内外 胴~底部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部斜位ヘラケズリ・底部ナデ	口縁部1/2、底部2/3残存 2.5 Y R 7/6(橙)	1mmの砂粒を含む。	P15 H9Ⅲ区
10	土師器小型甕	(13.2) — <5.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラケズリ	口縁部1/5残存 5 Y R 6/6(橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子を含む。	P15
11	土師器小型甕	(13.2) — <4.8>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ	口縁部1/4残存 5 Y R 6/4(にぶい橙)	0.2mm以下の白色粒子含む。	D1
12	土師器高杯	— — <11.0>	内外 脚柱部横位ヘラケズリ→裾部ミガキ 杯部ミガキ→黒色処理 脚柱部縦位ミガキ→裾部横位ミガキ	脚柱部のみ残存。 内 N2/0(黒) 外 7.5 Y R 8/4(浅黄橙)	1mmの赤色粒子、1mm以下の白色粒子を含む。	I区
13	土師器甕	(11.2) — <3.0>	内外 横ナデ 横ナデ	口縁部1/4残存 7.5 Y R 6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 S字形口縁。	
14	土師器	— — <2.8>	内外 口縁部横ナデ・胴部ナデ ハケナデ	頸部破片 5 Y R 4/2(灰褐)	緻密。 金ウシモ含む。 S字形口縁。	検出
15	土師器小型甕	(10.5) — <2.9>	内外 ミガキ ハケナデ→ミガキ	口縁部1/8残存 7.5 Y R 6/3(にぶい褐)	緻密。 2mm以下の白色粒子含む。	Ⅱ区・堀方
16	欠番					

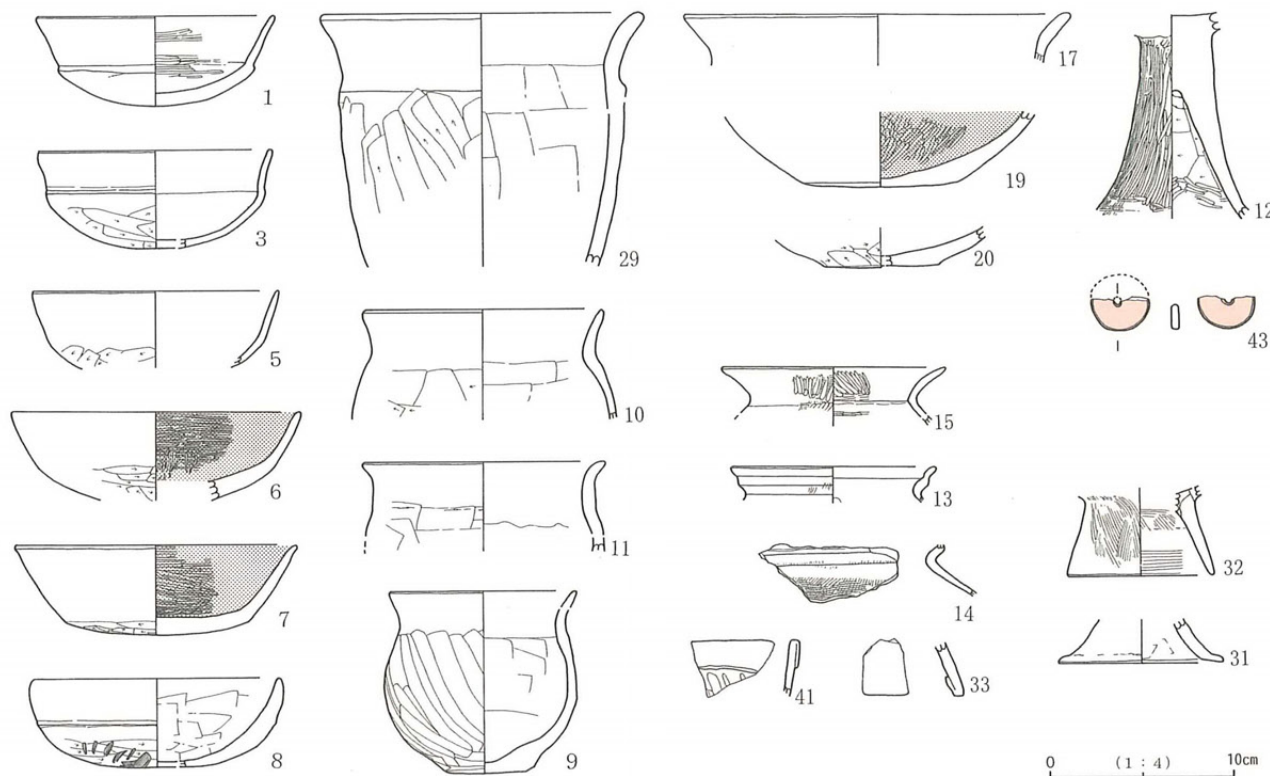


第 16 図 H 10 号住居址

1. 古墳時代

H10 土層説明

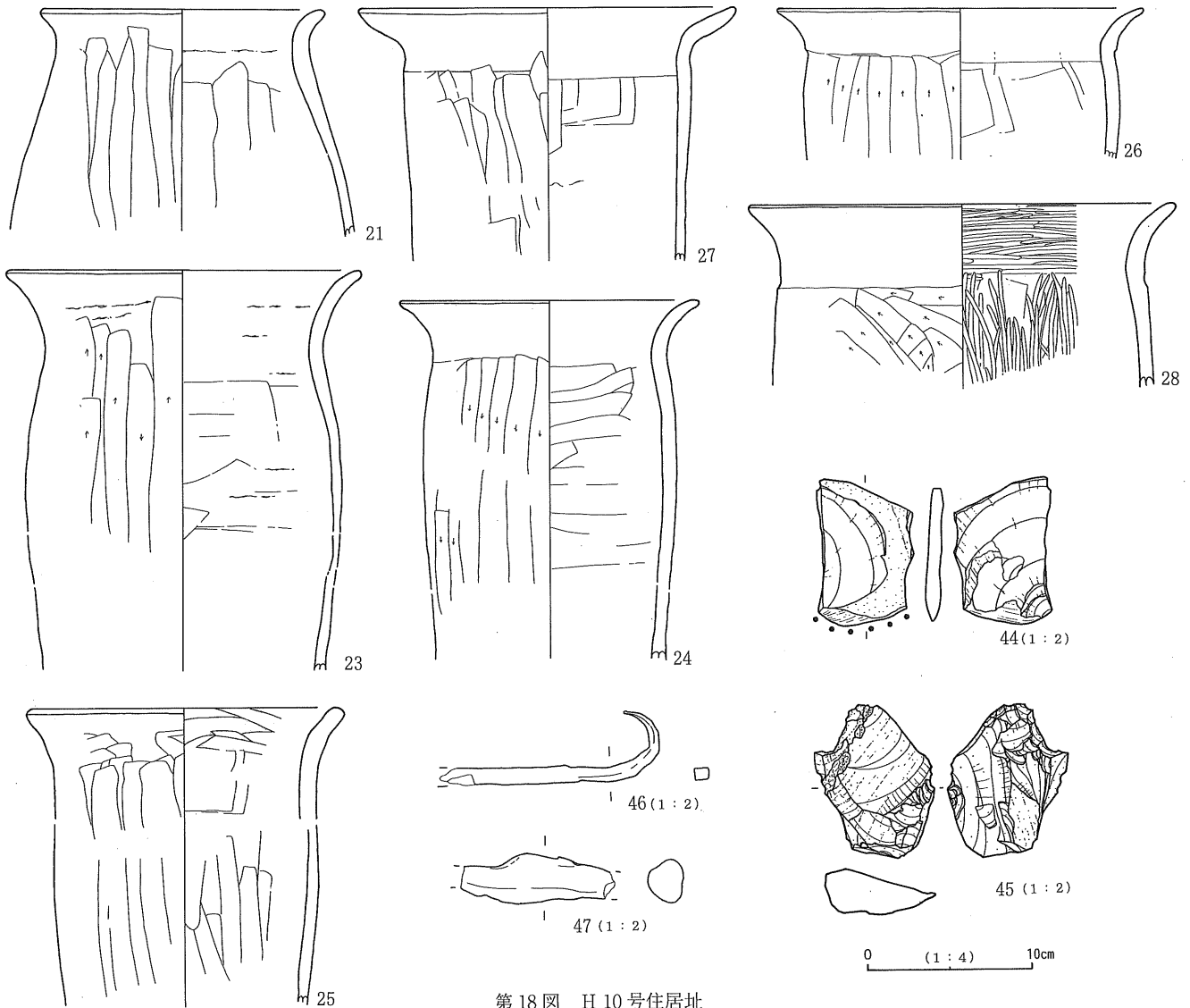
1. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂ブロック(-3cm)・炭化物片を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2) 赤褐色土ブロック(-1cm)・砂を多く含む。
3. 橙色土層(2.5YR6/8) 焼土化した粘土。
4. 灰黄褐色土層(10YR4/2) (カマド構築粘土)
5. 明赤褐色土層(5YR5/8) 焼土。
6. 灰褐色土層(10YR4/2) (カマド袖堀方埋土)
7. 黒褐色土層(10YR3/2) (柱痕)
8. 灰黄褐色土層(10YR5/2) にぶい黄褐色土(10YR6/4)粒子を含む。(ピット堀方埋土)
9. 黄褐色土層(10YR5/6) 黒褐色土(10YR3/1)粒子・不定大ブロックを少し含む。(ピット堀方埋土)
10. 暗褐色土層(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/2)に、褐色土(10YR4/4)ブロックが混じる。稀まりあり。(貼床)
11. 褐色土層(10YR4/3) 黒褐色土(10YR2/2)ブロックを含む。(堀方埋土)
12. 褐色土層(10YR4/4) 褐色砂主体。(堀方埋土)
13. 褐灰色土層(10YR5/1) にぶい黄褐色土(10YR5/3)粒子・炭化物を少し含む。(P11・12)
14. 灰黄褐色土(10YR4/2)・黄褐色土(10YR5/6)の混在土層 (P13・14・15)
15. 黒褐色土層(10YR3/1)・にぶい褐色土層(10YR5/3)の混在土層 (P15)
16. にぶい褐色土層(10YR5/3) 砂の二次堆積層。(P16)



第17図 H10号住居址

第10表 H10号住居址出土遺物一覧表(2)

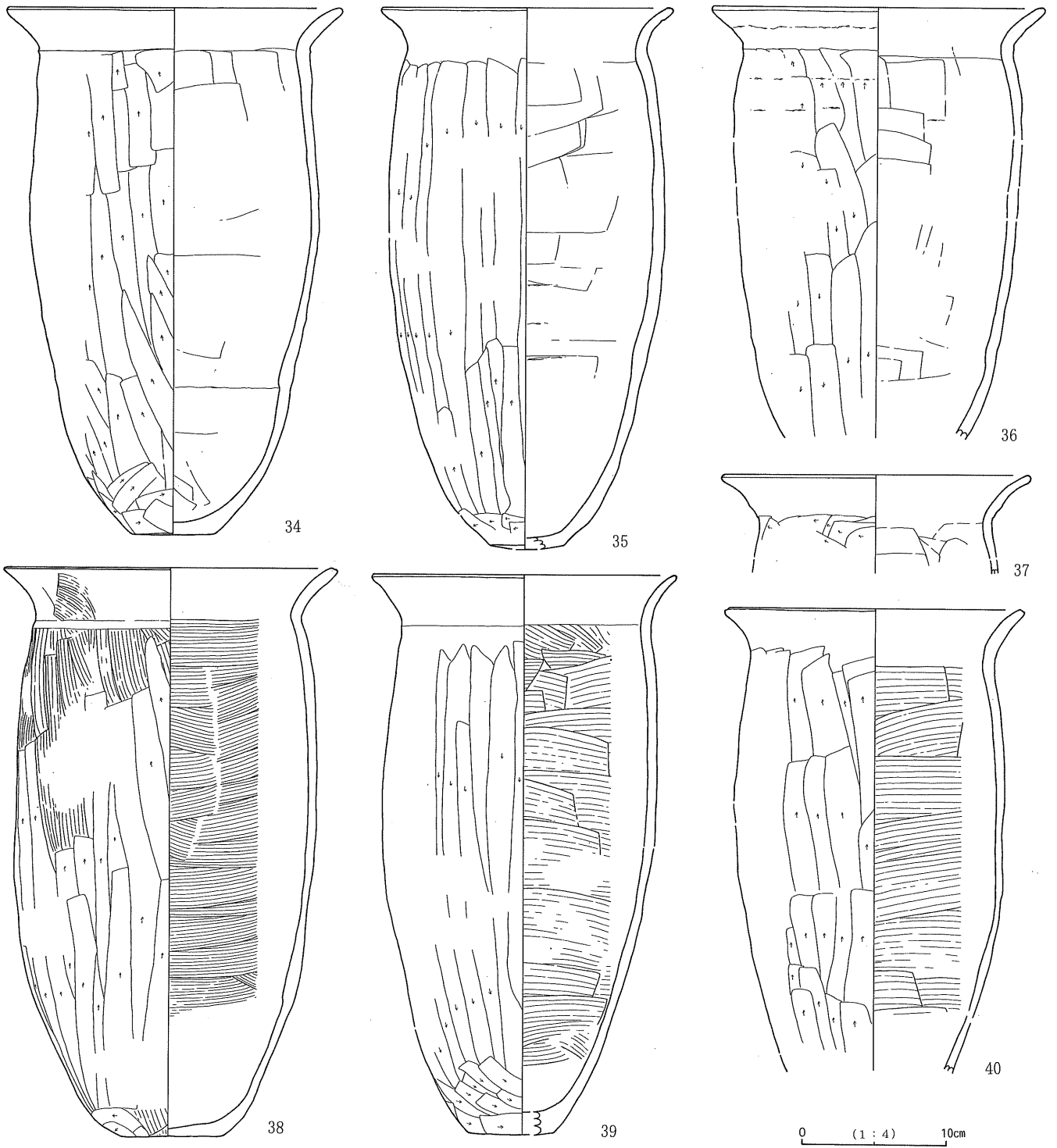
17	土師器 甕	(21.0) - <2.8>	内外 横ナデ 横ナデ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mmの白色粒子・砂粒を少量含む。	カマド2層
18	欠番	-				
19	土師器 鉢	(8.5) <4.1>	内外 ミガキ→黒色処理 摩耗が著しく調整判別できず。一部にミ ガキが見られるが、単位方向わからず。	底部1/3残存(摩耗) 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R6/3(にぶい褐)	2mm以下の白色粒子・赤色 粒子を多く含む。	カマド2層
20	土師器 甕	(6.2) <2.1>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部1/3残存 7.5Y R5/2(灰褐)	1mmの白色粒子・小石を含 む。	I区・堀方
21	土師器 甕	(17.2) - <13.2>	内外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mmの白色粒子、2mmの 赤色粒子を含む。	Ⅲ区・検出
22	欠番	-				
23	土師器 甕	(20.5) - <23.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/2残存 内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1~2mmの赤色粒子・白色粒 子を含む。	Ⅲ区・検出
24	土師器 甕	(18.2) - <21.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R7/3(にぶい橙)	1~2mmの赤色粒子・黒色粒 子を含む。	I区 カマド
25	土師器 甕	(19.2) - <17.7>	内 口縁部横ナデ→横位ハケナデ→胴部横 位ヘラナデ→縦位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ナデ	口縁部1/4残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子 含む。	Ⅲ区・検出



第18図 H10号住居址

第10表 H10号住居址出土遺物一覧表(3)

26	土師器 甕	(22.2) — <9.1>	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/2残存。 内 2.5Y R6/6・7.5Y R2/2 (橙・黒褐) 外 7.5Y R7/6(橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。	Ⅲ区・検出
27	土師器 甕	(22.8) — <15.1>	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 胴部縦位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部2/3残存 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、1~3 mmの赤色粒子・黒色粒子を 少量含む。	I区・ 検出・東
28	土師器 甌	(26.0) — <11.0>	内 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ→口縁 部横位ミガキ・胴部縦位ミガキ 外 胴部斜~横部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/6残存 内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 10Y R7/3・5Y 4/1・N3/0 (にぶい黄橙・灰・暗灰)	0.5~4mmの赤色粒子、1m mの小石含む。	検出
29	土師器 甕	17.5 — <13.5>	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部ほぼ完形 2.5Y R6/6(橙)	1mm以下の砂粒を含む。	カマド
30	欠番					
31	土師器 脚	— (9.0) <2.3>	内外 横位ヘラナデ 横ナデ	1/4残存 7.5Y R4/3(褐)	1mmの白色粒子・赤色粒子 含む。きめ細かい。	P15
32	土師器 台付甕	— (8.0) <4.7>	内外 ハケナデ ハケナデ	底部1/6残存 7.5Y R6/6(橙)	1mmの白色粒子を少量含む。東・検出	



第19图 H 10号住居址

第10表 H10号住居址出土遺物一覧表(4)

33	土師器 台付甕	— <2.8>	内外 ナデ ナデ	底部(脚部)破片 2.5Y R5/6(明赤褐)	緻密。白色粒子含む。 脚端部内側に折り返す。	検出
34	土師器 甕	(22.9) (5.6) 36.2	内 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ・底部 斜めのヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦～横位ヘラケズリ ・底部ヘラケズリ	口縁部一部欠損、底部1/2残存 内 7.5Y R6/4(にぶい橙) 外 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mmの白色粒子・砂粒・小石 を含む。	カマド・I・IV 区検出・カマ ド2層・H1検 出・IV区2層
35	土師器 甕	(20.0) (6.1) <37.15>	内外 口縁部横ナデ→胴～底部横位ヘラナデ →口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ・底 部ヘラケズリ	口縁部3/4残存 5Y R8/3(淡橙)	1mm～2mmの赤色粒子、4 mm以下の小石を含む。	カマド・カマ ド2層・I区・ 検出
36	土師器 甕	23.0 — 29.6	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部2/3残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・砂粒 を含む。	カマド 検出・東
37	土師器 甕	(21.5) — <6.7>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ナデ 口縁部横ナデ→胴部(横位)ヘラケズリ	口縁部1/5残存 内 7.5Y R7/4・10Y R3/1(に ぶい橙・黒褐) 外 10Y R3/1(黒褐)	小白色粒子・小砂粒を少量含 む。 武蔵型甕。	Ⅲ区・検出
38	土師器 甕	22.8 7.0 39.1	内 胴部横位ハケメ・胴下半～底部ヘラナデ →口縁部横ナデ 外 胴部縦位ハケメ→縦位ヘラケズリ→口 縁部横ナデ	口縁部3/4残存・底部完形 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mmの赤色粒子・白色粒子・ 黒色粒子を含む。 底部に木葉痕あり。 口縁端部凹線入る。	カマド
39	土師器 甕	20.9 (5.7) 38.4	内外 胴～底部ハケメ→口縁部横ナデ 胴部縦位ヘラケズリ・胴下半部横～斜位 ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/2、底部3/4残存 内 7.5Y R5/3(にぶい赤褐) 7.5Y R3/1(黒褐) 外 5Y R6/4(にぶい橙)	1～2mmの白色粒子・赤色粒 子、1～3mmの小石を含む。	
40	土師器 甕	20.7 — <31.6>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ハケメ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部完形 内 5Y R6/6(橙) 外 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1～3mmの白色粒子、1mm の黒色粒子を含む。	検出
41	土師器 壺	— <3.0>	内外 横位ミガキ 横ナデ→縦位ミガキ	口縁部破片 7.5Y R6/4(にぶい橙)	白色粒子を少量含む。 折り返し口縁。	Ⅲ区
42	欠番					
43	弥生土器 土製有孔円版			半分残存 10R 4/6(赤)	緻密。両面共に赤色塗彩され た弥生式土器を二次利用し ている。	P15

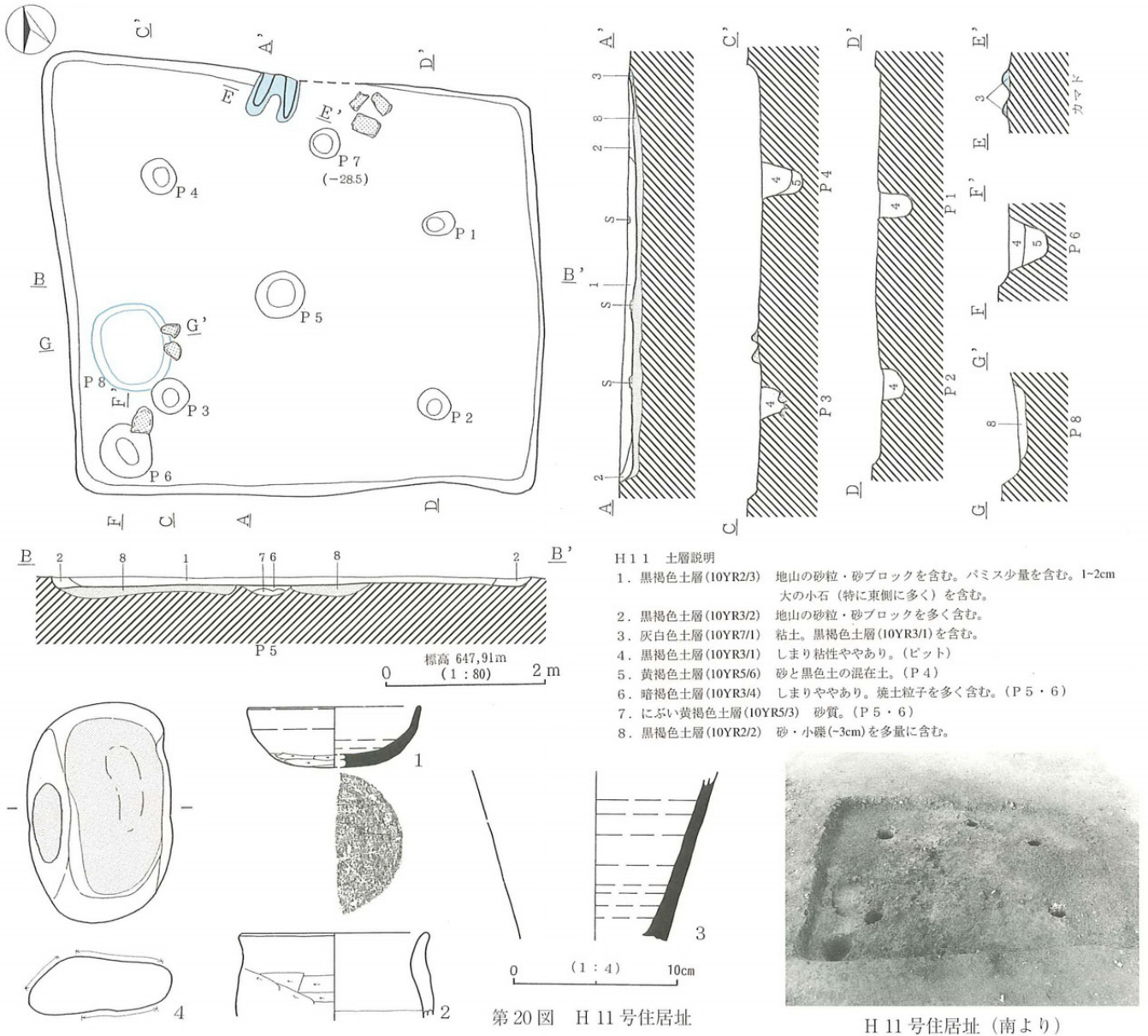
## 10) H11号住居址(第20図、第11表、図版七・四十三)

5あ4グリットにあり、H58を切る。南北492cm、東西566cmの東西に長い不整の長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-9°-Wを測る。壁残高は12cmとわずかである。主柱穴はP1～P4、ほぼ円形を呈し、短径で28～44cm、深さ26～52cmを測る。中央に径56cmの粘土を貼った浅い落ち込みがある。P6は南西隅にあり、径72cm、深さ48cmを測る。堀方ではP6の北に長径114cm、深さ20cmの楕円形の落ち込みが検出された。

掲載遺物には須恵器杯・鉢(1・3)、土師器小型甕(2)、スリ石(4)がある。1の須恵器杯は口径10.8cmと小さいもので、丸底の底部は手持ちヘラケズリされる。また「×」であろうか浅く鋭いヘラ記号が残っている。3の須恵器鉢は底部が輪状に欠損し、口縁端部もないので器形は明確でない。須恵器杯はTK217またはTK46号窯式段階と近いものである。7C中葉に設定されている。

第11表 H11号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	10.8 — 3.6	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部切り離し→手持ちヘ ラケズリ	口縁部1/3、底部1/2残存 5P B7/1(明青灰)	1mmの黒色粒子を多量含む。 底部にヘラ記号「×」あり。	H1V区
2	土師器 小型甕	(11.8) — <5.2>	内外 胴部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラケズリ	口縁部1/3残存 10Y R4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子・砂粒 を含む。	検出
3	須恵器 鉢	— <10.2>	内外 ロクロナデ ロクロナデ	口縁部1/3残存 5B4/1(暗青灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	IV区



11) H 12号住居址 (第21図、第12表、図版七・四十三)

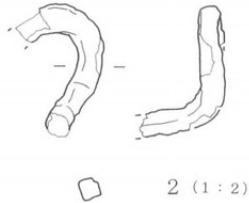
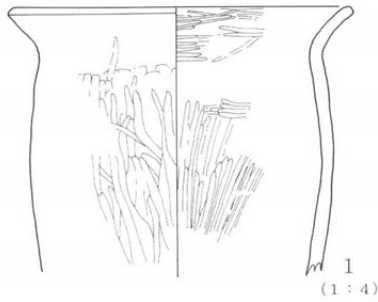
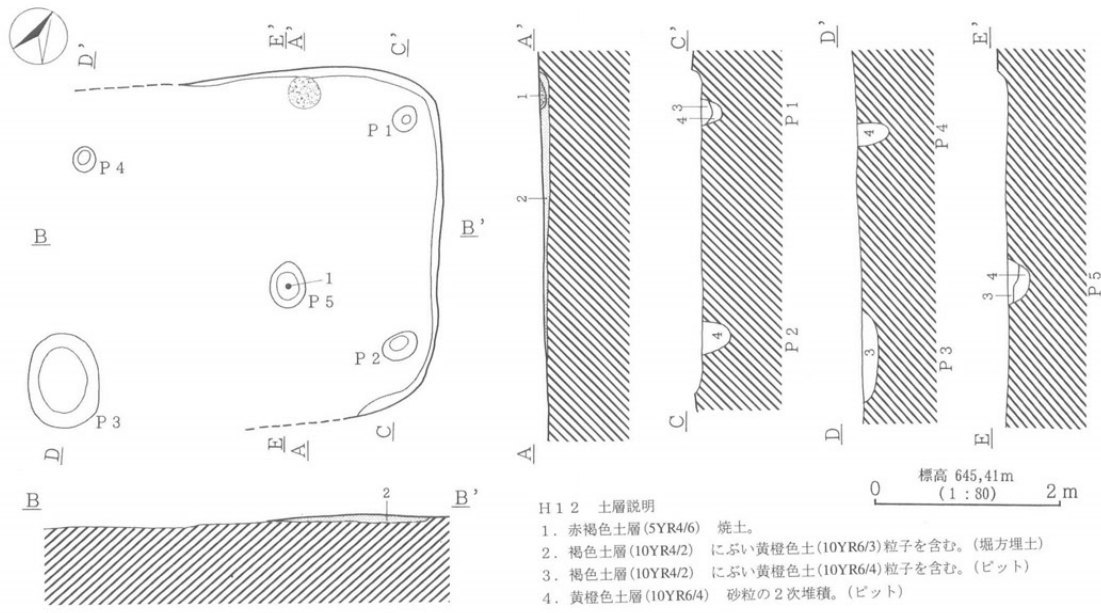
調査区南西隅の7お5グリットにある。住居址西側は斜面のため検出時に削平し、プランは不明確である。北壁に焼土範囲がみられカマドがあったものと思われる。南北は332cm、壁残高は0~11cm、隅丸方形を呈するのであろうか。主軸方位はN-30°-Wを測る。主柱穴はP1~P4で、P3は長楕円形で長径110cm、深さ16cmと土坑状で、この中に柱痕があったのかもしれない。他のピットは円形を呈す小ピットで、径24~28cm、深さ20~30cmを測る。主柱穴が住居址の隅に近い位置にある。P5は円形で径40cm、深さ24cmを測り中央にある。周溝は検出されていない。

掲載遺物には土師器甕(1)、鉄製品(2)がある。土師器甕は甕形で口縁部横ナデ、胴部は内外面ミガキが施してある。2の鉄製品は断面形が方形である。土師器甕は、古墳時代後期のものであろう。

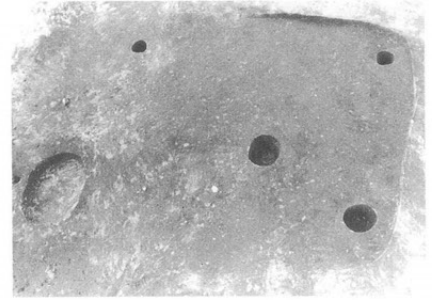
第12表 H 12号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器甕	(15.5) - <14.0>	内 口縁部横ナデ・胴部ナデ→口縁部~胴上 半横位ミガキ・胴部縦位ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴部ナデ→胴部縦位ミガキ	口縁部1/6残存 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	P5





第21図 H12号住居址

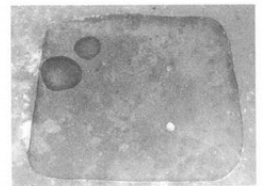
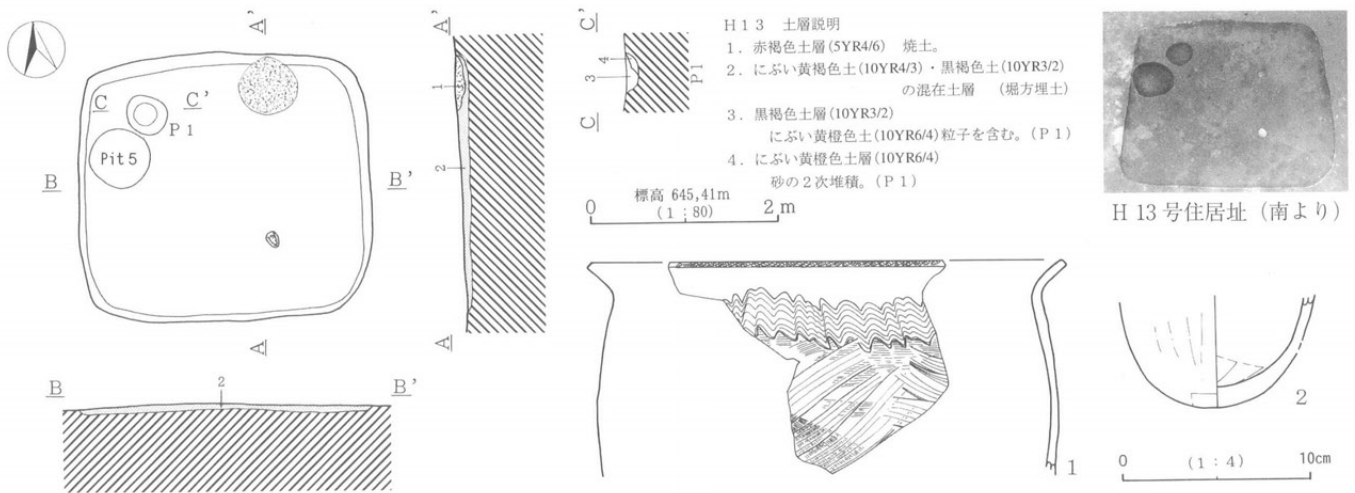


H12号住居址(南より)

12) H13号住居址 (第22図、第13表、図版八・四十四)

7う4グリットにあり、ほぼ床面でプラン確認された。単独ピットP5に切られている。南北268cm、東西292cmの東西に長いがほぼ方形を呈す。焼土範囲が北壁東寄りにみられ、カマドと推定される。主軸方位N-3°-Eでほぼ北を指す。北西にP1が検出されたが、主柱穴かわからない。

掲載遺物には土師器甕(2)、と弥生式土器の甕(1)がある。土師器甕は上部がないので器形が明らかではないが丸底など古墳時代後期の所産であろう。



H13号住居址(南より)

第22図 H13号住居址

第13表 H13号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(25.4) — 11.3	内外 横ハケナデ→横ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部縄文・頸部単位8~9本の櫛描波状 文・胴部単位5本1組とする櫛描羽状文	口縁部1/4残存 7.5Y R 5/3(にぶい褐)	精選されている。	検出
2	土師器 甕	— <5.9>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子を含む。 丸底。	検出

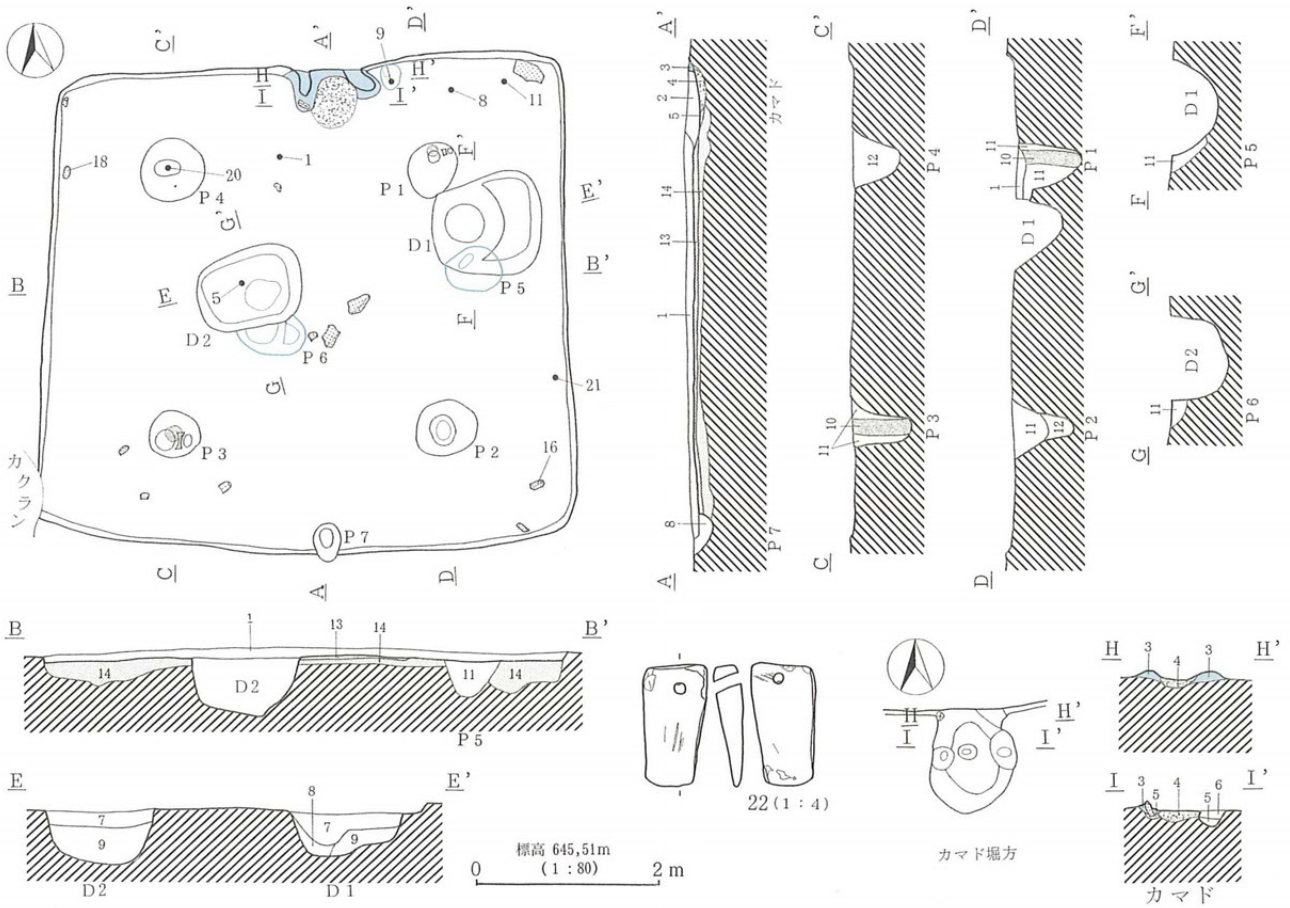
## 13) H14号住居址 (第23・24図、第14表、図版八・九・四十三・四十四)

7う2グリットにあり、H31・H40を切る。南北504cm、東西548cmの東西に長い方形を呈す。カマドは北壁中央にわずかに粘土と焼土が残っていた。主軸方位はN-0°で北を指す。床面より、D1・D2検出され、長軸120cm深さ64・48cmの隅丸方形の落ち込みがあった。主柱穴はP1~P4で円形ないし楕円形を呈し、短径は48~58cm、深さ52~72cmを測る。P1とP3で、柱痕が確認された。床下からは中央にD1・D2に切られて、P5・P6が検出された。周溝は検出されていない。

掲載遺物は土師器杯(1~3)・鉢(5)・短頸壺(6)・小型甕(4・9)・長胴甕(10~12)・丸胴甕(8)、スリ石(15~20)、軽石製凹石(21)、凝灰岩製携帯用砥石(22)が出土している。1・2は模倣杯で橙色杯である。胎土は精選され、粉末質である。1の杯は全体に扁平で口縁部も短く外反し立ち上がる。2の杯は1に比べると口縁が長く外反する。3は小破片で、内面ミガキ黒色処理され、口縁部の底部から口縁に変わるところに2条の沈線がみられる。11の長胴甕は口縁を欠損するが胴部は縦方向のヘラケズリがされ、12は口縁が「く」の字に折れるように強

第14表 H14号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(12.2) — 3.2	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部約1/2残存 5Y R 7/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 粉末質の胎土。 緻密。	
2	土師器 杯	(11.2) — 3.5	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 2.5Y R 7/6(橙)	粉末質の胎土。 緻密。	I区・検出
3	土師器 杯	(13.8) — <3.2>	内外 横ナデ→ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ 口縁部に二条の沈線あり	口縁部1/8残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
4	土師器 小型甕	(11.0) — <7.6>	内外 口縁部横ナデ→体部斜位ヘラナデ 体部縦位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子 を含む。 緻密。	Ⅲ区・検出
5	土師器 鉢	(11.8) — <5.2>	内外 口縁部横ナデ→体部ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→体部ハケナデ	口縁部1/8残存 内 1.5/0(黒) 外 5Y R 6/6(橙)	緻密。	D2
6	土師器 短頸壺	(12.0) — <9.0>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 7.5Y R 8/2(灰白) 外 2.5Y R 6/6(橙)	赤色粒子・黒色粒子を多く含 む。磨耗している。粗雑なつ くり。	検出
7	土師器	(9.4) — <4.4>	内外 横ナデ→ハケナデ 横ナデ→ハケナデ	口縁部1/6残存 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。 上・下、器種不明。	Ⅱ区堀方
8	土師器 丸胴甕	(15.5) — <14.0>	内外 胴部横位ヘラナデ(→一部ミガキ)→口 縁部横ナデ 胴部ナデ→粗いミガキ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 2.5Y R 6/4(にぶい橙)	1mm以上の白色粒子多く含 む。 赤色粒子を含む。	
9	土師器 甕	— <16.2>	内外 ハケナデ 胴部縦位ナデ→頸部横ナデ	胴部約1/2残存 内 7.5Y R 8/4(浅黄橙) 外 5Y R 5/4(にぶい赤褐)	1mmの白色粒子を含む。	Ⅱ区堀方
10	土師器 甕	— <17.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	破片 7.5Y R 5/3(にぶい褐)	小石を含む。	カマド・Ⅲ区 堀方
11	土師器 甕	— <28.5>	内外 ハケメ(胴部)→口縁部横ナデ 胴部縦位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	胴部2/3残存 2.5Y R 6/6(橙)	赤色粒子・白色粒子を含む。	P5・I区
12	土師器 甕	(23.2) — <24.9>	内外 胴部ハケ状工具によるナデ→口縁部横 ナデ 胴部縦位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/8残存 7.5Y R 6/3(にぶい褐)	粗い白色粒子他を多く含む。	カマド・検出
13	欠番					

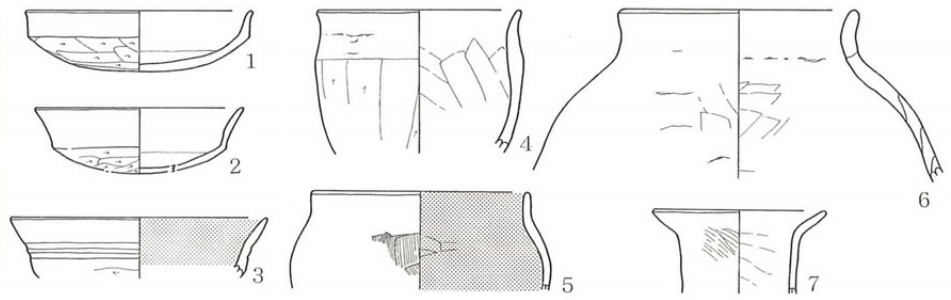


H14 土層説明

- |  |   |
|--|---|
| <p>1. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR6/3) 粒子を含む。炭化物を含む。</p> <p>2. 明赤褐色土層(5YR5/6) 焼土の堆積。炭化物を含む。</p> <p>3. にぶい黄褐色土層(10YR7/3) (カマド構築粘土)</p> <p>4. 暗赤褐色土層(10YR5/8) 焼土。</p> <p>5. にぶい黄褐色土層(10YR5/3)・黒褐色土層(10YR3/1)の混在土層。(カマド堀方埋土)</p> <p>6. 5層に焼土・炭化物粒子を含む。</p> <p>7. にぶい黄褐色土層(10YR5/3) にぶい黄褐色土(10YR6/4) 粒子を少し含む。(D1・D2)</p> | <p>8. 黒褐色土層(10YR3/2) 黒褐色土(10YR3/1)粒子を少し含む。(D1)</p> <p>9. 黒褐色土層(10YR3/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4)・黒褐色土(10YR3/1)土不定大ブロックを含む。(D1・D2)</p> <p>10. 黒褐色土層(10YR3/2) (柱痕)</p> <p>11. 黒褐色土層(10YR3/2) 9層に似る。(ピット堀方埋土)</p> <p>12. 黒褐色土層(10YR3/2) 8層に似る。(ピット堀方埋土)</p> <p>13. 黒褐色土層(10YR3/1) (貼床)</p> <p>14. 灰黄褐色土(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR6/4)の混在土層(堀方埋土)</p> |
|--|---|



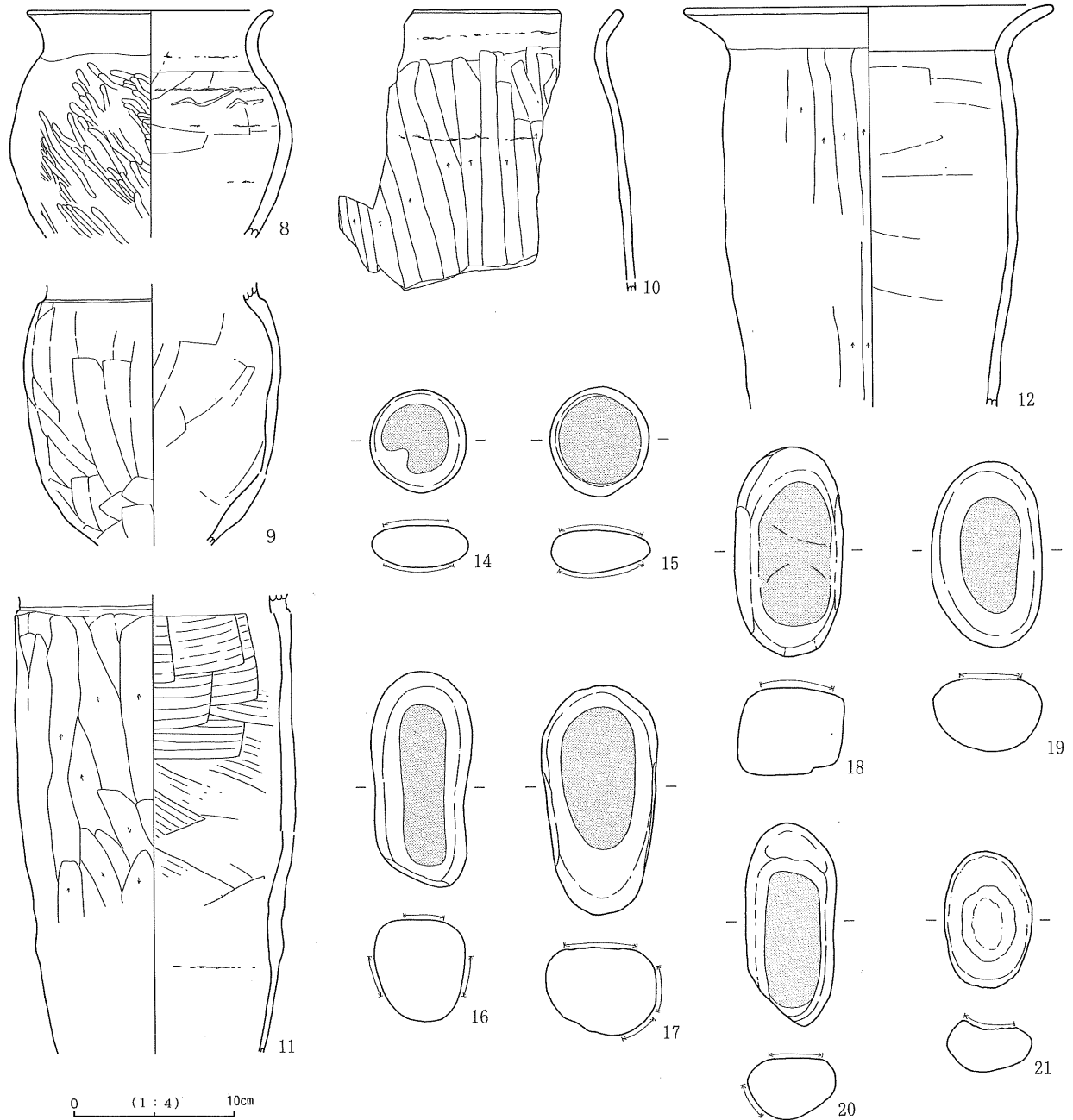
H14号住居址(東より)



第23図 H14号住居址

0 (1:4) 10cm

く外反し、口縁に最大径を持っている。胴部は縦のヘラケズリが施される。これらの土器群は古墳時代後期の土器群であろうか。

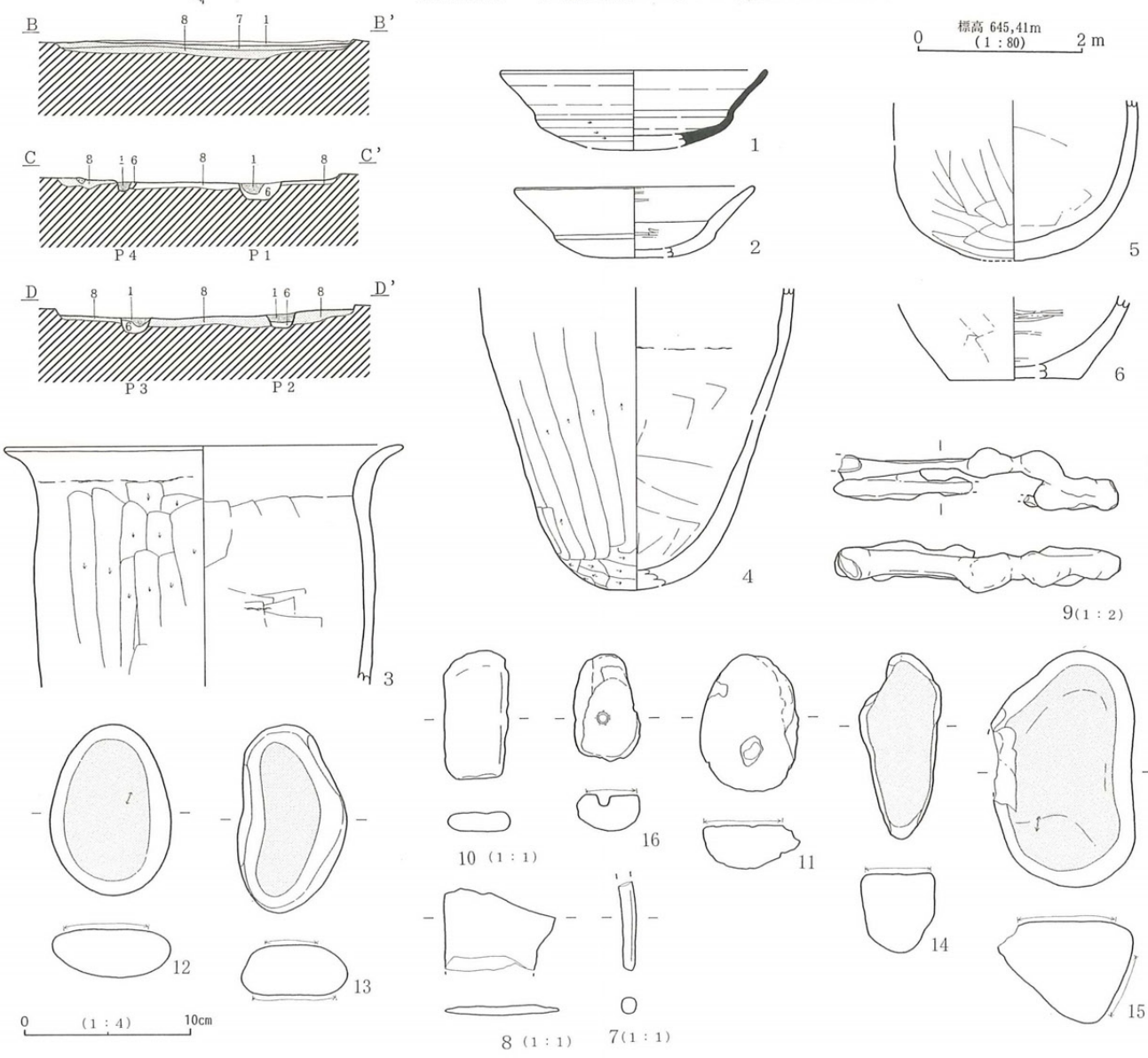
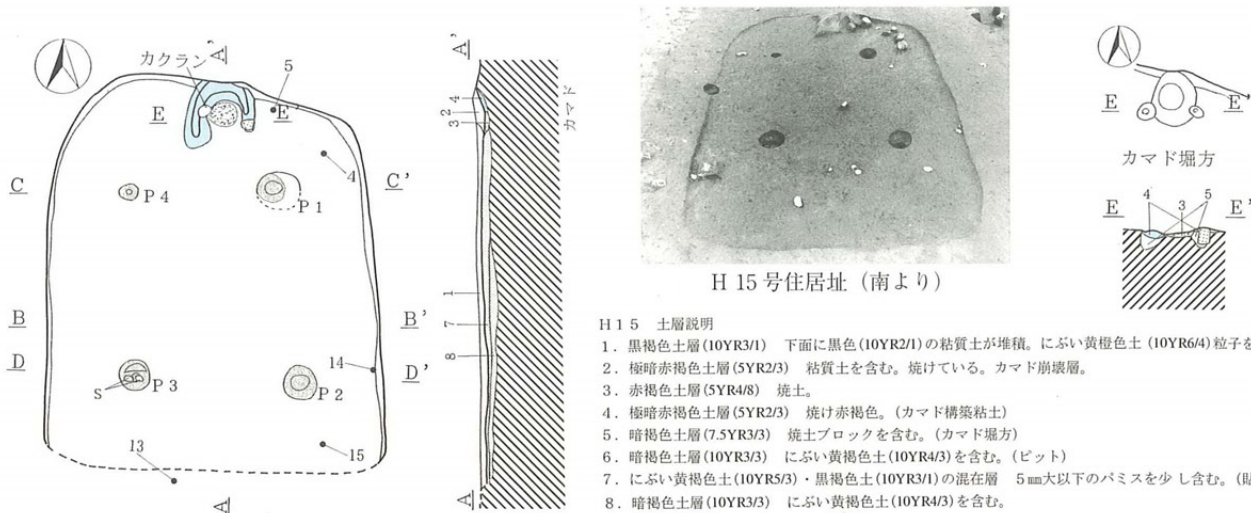


第24図 H 14号住居址

14) H 15号住居址 (第25図、第15表、図版九・四十四)

7か2グリットにあり、H40・H42を切る。重複が激しくプランは明確とはいえない。南北400cm、東西350cmを測る。カマドを北壁にもち、主軸はN-1°-Wでほぼ北を指す。主柱穴はP1~P4である。

掲載遺物には須恵器杯(1)、土師器杯(2)・甕(3~6)、不明鉄製品(7~9・10)、スリ石(12~15)、軽石製品(10・11)がある。1の須恵器杯は底部がないので明確ではないが高杯の杯部であるかもしれない。内面クロ横ナデ、外面は口縁部がクロ横ナデ、底部は回転ヘラケズリされる。MT15ないしTK10号窯式とされるものに類似し、6C前半に比定されている。土師器杯は厚手で内面ミガキ、外面は口縁横ナデ、底部ヘラケズリである。4の長胴甕は丸底を呈し、胴下部の接合痕でゆがみがあり、やや雑な作りである。古墳時代後期の土器群であろう。甕などからは須恵器より新しい時期であると思われる。



第25図 H15号住居址

第15表 H 15号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(16.2) — <4.6>	内外 ロクロナデ ロクロナデ・底部回転ヘラケズリ→ナデ	口縁部3/4残存 2.5G Y7/I(明オリブ灰)	2mm以下の黒色粒子を含む。 高杯の杯部か?	検出
2	土師器杯	(14.6) — 4.2	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ(摩耗著しく単位判別できず)	口縁部1/3残存(外面摩耗) 5Y R6/6(橙)	砂質。 1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区堀方
3	土師器甕	(24.2) — <14.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデとハケナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/6残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1~3mmの白色粒子・赤色粒子を多量含む。	検出
4	土師器甕	— — <18.1>	内外 ヘラナデ 底部横位ヘラケズリ→胴部縦位ヘラケズリ	底部ほぼ完形 7.5Y R4/I(褐灰)	1mmの白色粒子を含む。 丸底。	検出
5	土師器甕	— — <9.6>	内外 ヘラナデ ヘラナデ	底部ほぼ完形 5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。 丸底。	検出
6	土師器甕	— (8.0) <5.0>	内外 ヘラナデ ナデ	底部1/4残存 2.5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子を少量含む。 緻密。	Ⅱ区1層・Ⅳ区

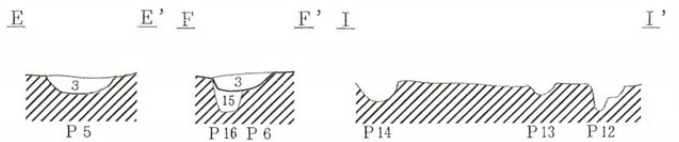
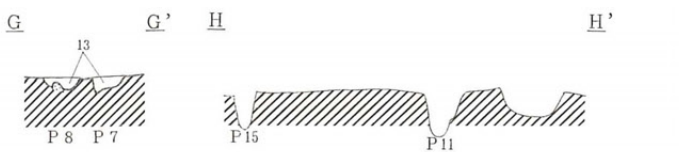
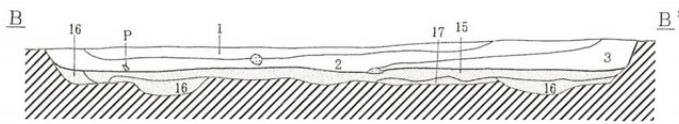
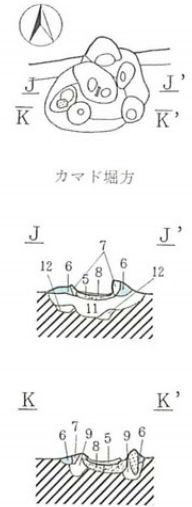
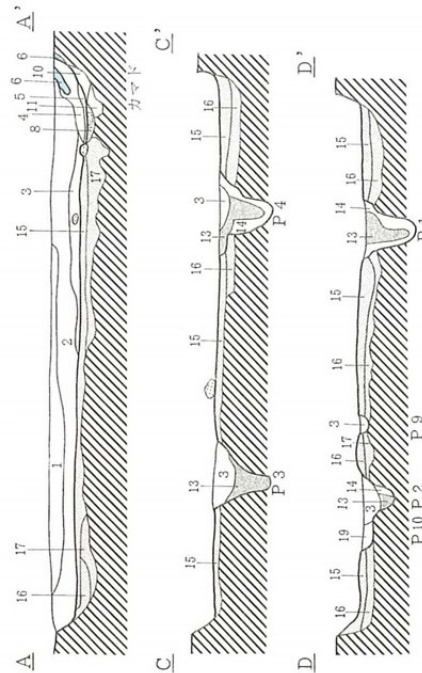
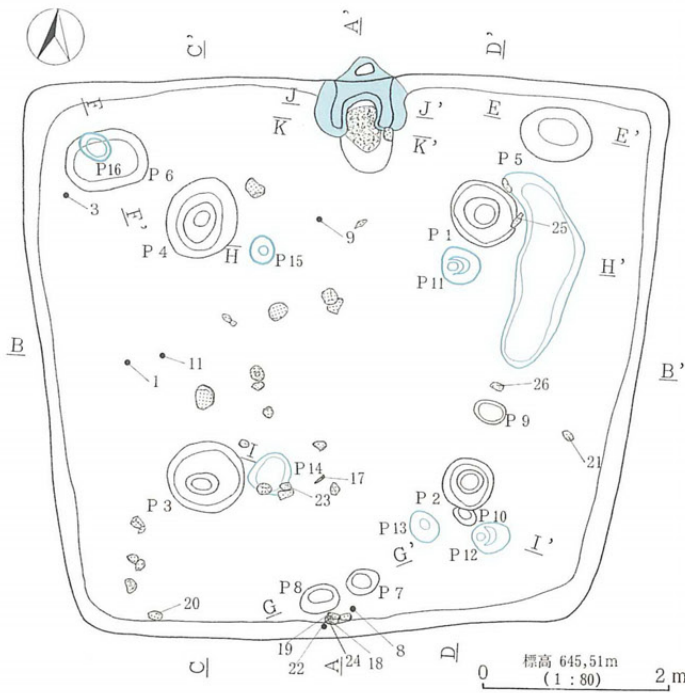
## 15) H 16号住居址 (第26・27図、第16表、図版十・四十五)

3え10グリットにあり、H30・H47号住居址を切る。南北554cm、東西612cmの北側の幅が広い不整の方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、袖と煙道を残していた。主軸方位はN-4°-Wを指す。主柱穴はP1~P4で径52~76cm 深さ56cmを測り、柱痕が残っていた。南側には出入り口のピット、北東と北西に隅丸長方形を呈し、長径68cm、深さ20cmを測る浅い落ち込みがある。

掲載遺物には須恵器杯身(1)、土師器杯(2~5)・鉢(6・8・10)・甑(7)・小型甕(9)・長胴甕(11~13)がある。石器にはチャート製錐(15)、ガラス質黒色安山岩製磨製石鏃(両端が折れる)(14)、安山岩製凹石(16)、赤色顔料が付着し、先端がこぼれに磨き込まれた粘板岩のミガキ石(17)、スリ石または編物石に使用された石(19は花崗岩、23は砂岩、他18~26は安山岩)がある。1の須恵器杯身は口縁部立ち上がり内傾し、端部が丸くなっている。TK217号窯式段階とみられ、7C前半の年代があてられている。2は丸底で、中位よりやや上で口縁部が外稜を持って屈曲し、やや長く外傾する。3は上端部で口縁部が内稜を持って短く外傾している。4・5は素縁の体部全体が内湾、外傾する。2・3の内面はナデ、外面の口縁部は横ナデ調整。4・5は内外面ミガキが施される。10は壺形の深鉢であろうか内外面ミガキが施される。長胴甕は胴部調整がヘラナデ、最大径を胴部を持っている。これらより、本址の土器群は古墳時代後期のものであろう。

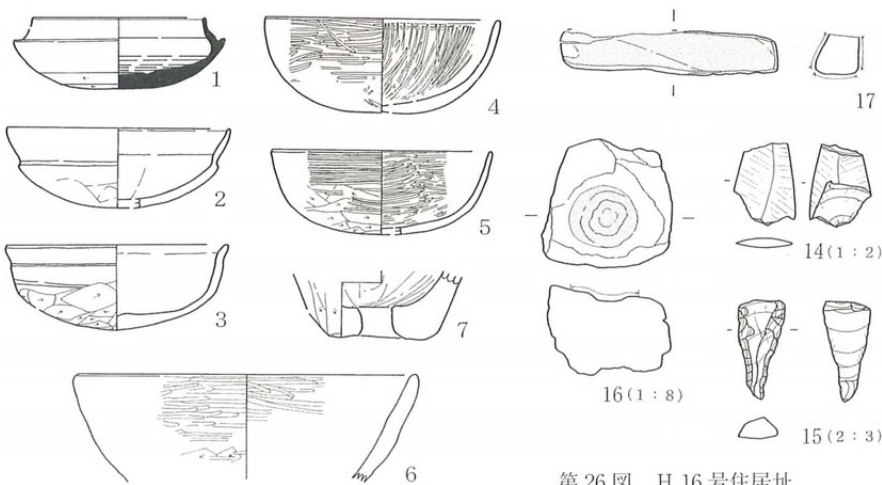
第16表 H 16号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯身	(9.2) — 3.8	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	口縁部1/2残存 7.5Y R5/I(褐灰)	1mmの白色粒子少量・白色粘土含む。	
2	土師器杯	(11.8) — 4.2	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 7.5Y R6/I・6/3 (褐灰・にぶい褐)	緻密。	Ⅳ区
3	土師器杯	(11.8) — 4.5	内外 みこみ部ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部約1/2残存 2.5Y R7/6(橙)	1mmの黒色粒子・2mmの小石含む。 器形歪む。	
4	土師器杯	12.6 3.7 5.0	内外 (放射状)ミガキ 底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ→横位ミガキ	口縁部2/3残存 5Y R7/3(にぶい橙)	1mmの黒色粒子を含む。	Ⅰ区・Ⅲ区
5	土師器杯	(11.8) — <4.5>	内外 横位ミガキ 底部ヘラケズリ→口縁部ミガキ	口縁部~底部1/2残存 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1~2mmの白色粒子、1mmの赤色粒子を含む。	Ⅳ区
6	土師器鉢	(18.2) — <4.7>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/6残存 2.5Y R7/6(橙) 7.5Y R8/6(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を多量、 1mmの赤色粒子を少量含む。	Ⅳ区
7	土師器甑	— 5.8 <3.6>	内外 ナデ 縦位ヘラケズリ・底部ナデ	底部完形 10Y R7/4(にぶい黄橙)	1mmの白色粒子を多く含む。	Ⅳ区



H16 土層説明

1. にぶい黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR6/4)粒子を含む。
2. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) にぶい黄褐色土(10YR6/4)粒子を多く含む。3層との間に炭化物の堆積層あり。
3. にぶい黄褐色土層(10YR5/3) 炭化物・焼土粒子を含む。
4. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 焼土・炭化物・灰含む。
5. 褐色土層(7.5YR4/3) 焼土層。
6. 暗赤褐色土層(5YR3/4) 粘土焼ける。(カマド構築土)
7. 赤褐色土層(2.5YR4/8) 粘土焼ける。(カマド軸)
8. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。
9. 暗褐色土層(7.5YR3/4) 砂質。焼土ブロックを含む。(カマド堀方)
10. 暗褐色土層(7.5YR3/3) 粘土を多く含む。(カマド掘方)
11. 暗褐色土層(10YR3/4) 焼土ブロックを含む。(カマド堀方)
12. 暗褐色土層(10YR3/4) 焼土ブロックを含む。(旧カマド堀方)
13. 黒褐色土層(10YR2/3) 締まりなし。(柱痕)
14. 暗褐色土層(10YR3/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)を含む。(ピット堀方)
15. 黒褐色土層(10YR3/2) やや締まる。(貼床)
16. 暗褐色土層(10YR3/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)ブロックが混じる。(堀方)
17. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) 地山土主体。(堀方)

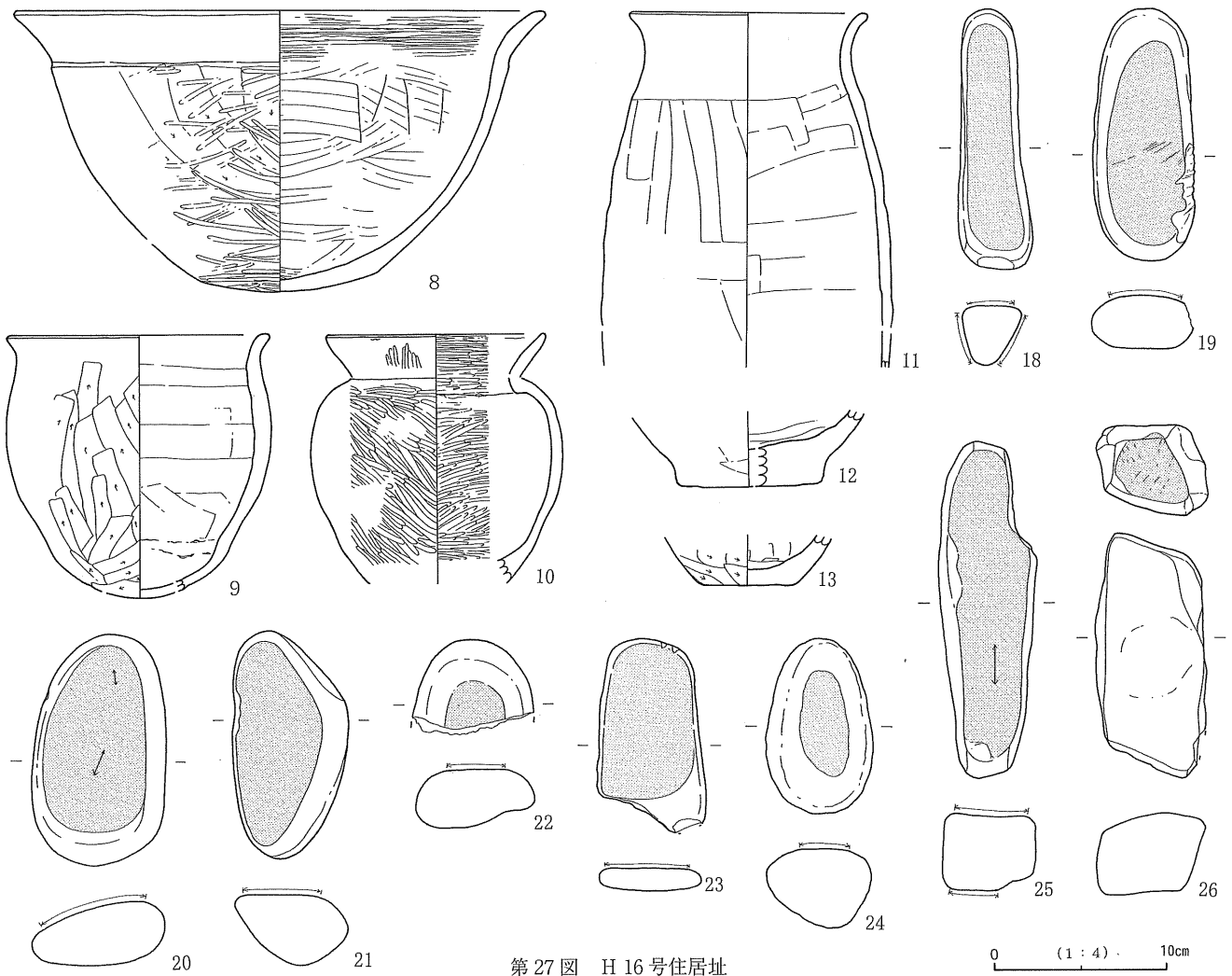


H16号住居址(東より)

0 (1:4) 10cm

第26図 H16号住居址

1. 古墳時代



第 27 図 H 16 号住居址

第 16 表 H 16 号住居址出土遺物一覧表 (2)

8	土師器鉢	(30.6) — 16.0	内 口縁部横ナデ→横位ミガキ・胴部～底部 横位の雑なミガキ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/4残存 10 Y R 7/3 (にぶい黄橙)	1~3mmの白色粒子・黒色粒子を多量含む。	Ⅲ区・Ⅳ区
9	土師器小型甕	(15.2) — <14.6>	内 胴部横位ヘラナデ→口縁部～胴中央部 横ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/3残存 内 7.5 Y R 6/2 (灰褐) 外 5 Y R 5/4 (にぶい赤褐)	1mmの白色粒子を多量含む。	
10	土師器鉢	(12.8) — <14.2>	内 外 ミガキ 口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/3残存 7.5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・ウンモ粒を少量含む。 甕形の鉢。	I区・検出
11	土師器甕	13.8 — <20.2>	内 外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 胴部縦位ヘラナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 5 Y R 7/4 (にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	
12	土師器甕	(8.4) — <4.3>	内 外 ナデ ナデ	底部1/2残存 7.5 Y R 5/4 (にぶい褐)	1mmの白色粒子・赤色粒子を少量含む。底部に木葉痕あり。台状の底部。	I区・Ⅳ区
13	土師器甕	— (5.2) <2.9>	内 外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部1/3残存 内 7.5 Y R 7/4 (にぶい橙) 外 7.5 Y R 5/1 (褐灰)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。底部に木葉痕あり。	I区



## 16) H 18 号住居址 (第28図、第17表、図版十一・四十六)

3お9グリットにあり、弥生時代のH50・M1を切る。南北304cm、東西280cm、深さ21cm の方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-33°-Wである。カマドは袖先に石を立て、框石を置いて焚き口を作っていた。框石は下に落下した状態で検出された。主柱穴はP1～P4で円形を呈し、径28cm、深さ20～28cm を測る小規模なものである。堀方でカマドの西に径60cmの円形の落ち込みが検出されている。

出土遺物には須恵器杯蓋(1)・甕(4)、土師器杯(2)、混入品で弥生式土器壺底部片(3)がある。滑石製の白玉が3個(8～9)、編物石が8個(11～14、16・17)出土している。いずれも川原石で中央の両脇を打ち欠くか、中央がくびれ使用痕が残る。重さは共通していない。編物石の重さは11～17(15を除く)まで順に1130・1185・2580・200・335・315gである。ガラス質黒色安山岩の剥片(7)は未製品であろうか剥離痕が認められる。6は鉄分を含む土塊で穴が開いている。遺物かどうかわからない。

1の須恵器杯蓋は口縁と天井部との境が明確ではなく、稜もない。口縁端部は丸い。天井部は回転ヘラケズリされる。須恵器甕は比較的小型で、口縁帯を持ち沈線を一条持つ。口縁部外面には櫛描波状文が施される。これらはTK217ないしTK46号窯型式と平行するもので、7C前半の年代が当てられている。土師器杯は丸底から中位より下で外稜を持って直線的に外傾する。内面はナデに暗文様のミガキが施される。

第17表 H 18 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	11.8 — 4.0	内 ロク口横ナデ→中央部、ハケによるナデ 外 ロク口横ナデ→天井部、回転ヘラケズリ	口縁部1/2残存 N6/0(灰)	8mm大小石～1mm白色粒子を含む。	IV区
2	土師器 杯	(13.0) — 4.8	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ後放射状 暗文様のミガキ 外 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を少量含む。	IV区
3	弥生土器 壺	— (10.0) <1.6>	内 剥離してわかっていない 外 ハケナデ?	底部1/4残存(内面剥離) 7.5Y R4/1(褐灰)	底部片。 砂質。	堀方
4	須恵器 甕	(21.6) — <7.2>	内 口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ 文 口縁部に13本1組とする、櫛描波状文を施す。	口縁部1/4残存 N7/0(灰白)	1mmの黒色粒子、3mm以下の白色粒子を含む。	I区・II区

## 17) H 19 号住居址 (第29図、第18表、図版十二・四十六)

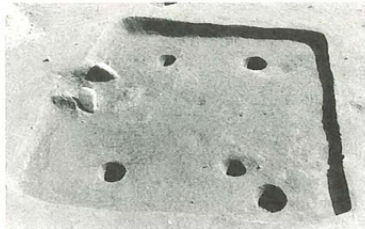
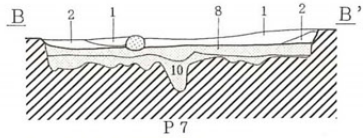
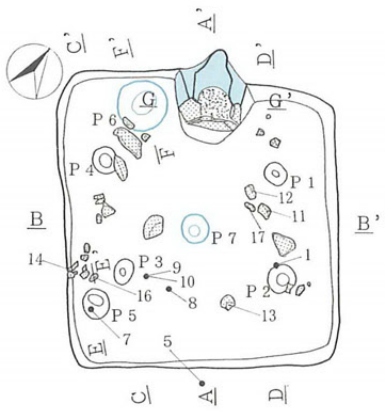
3う7グリットにあり、弥生時代のH45・M1を切り、F3・4に切られる。規模は南北397cm、東西420cm、深さ39cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、F4のピットに大半を破壊されて、西袖と焼土が確認された。主軸方位はN-34°-Wを指す。主柱穴は比較的小規模でP1～P4は楕円形の長軸32～44cm 深さ20～40cmを測る。P1は柱の建て替えが行われたらしく床下からもP8が検出された。中央にP5が検出され、柱痕を伴い、長径64cm 深さ40cmを測る。南壁下中央には出入り口のピットが2個検出された。

掲載遺物は土師器甕(2)であろうか。1の高杯、3の壺の口縁は弥生時代のもので混入品である。出土遺物は少なく、土器破片は土師器長胴甕、椀がある。須恵器では同心円状のカキメのある提瓶胴部片があるのみである。時期の判明する資料を欠くが、提瓶の存在など6C後半以降の古墳時代後期の土器と推測される。

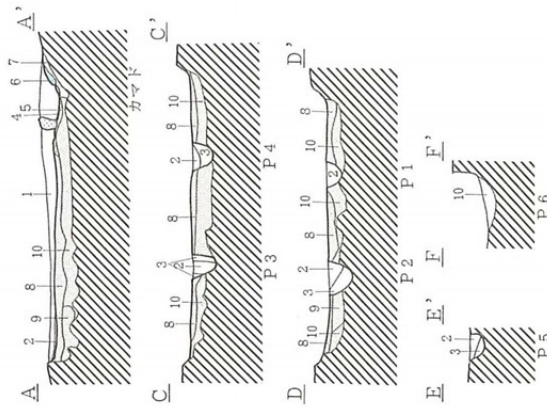
## 18) H 20 号住居址 (第30図、図版十二)

7い3グリットにあり、規模は南北427cm、東西402cmの方形を呈す。覆土はなく、床面でプランを確認している。従って堀方プランなので、本来の居住面は失われている。北壁中央付近でカマドの焼土が確認された。主軸方位はN-2°-Eでほぼ北を指す。P1～P4が主柱穴で円形を呈し、径34～52cmを測る。柱痕のみられたP1・P2は深さ72・52cmと深いピットである。中央のP7は深さ24cmを測る。P10は北東にあって、上面に粘土ブロックを含んでいる。他のピットについては床面が明確でないので、伴うものか判然としない。

出土遺物はいずれも土器の破片で、住居址に伴うであろう土器は須恵器縁口縁部片、土師器杯のミガキ内面黒色処理片、武蔵甕口縁部片などがある。いずれも小片で、混入品も考えられ、時期の決定はできないが古墳時代後期の資料が最後出である。



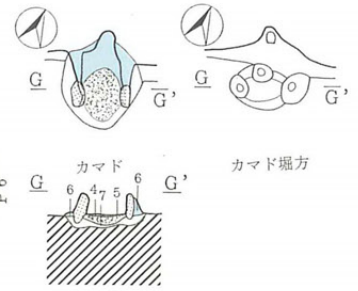
H 18 号住居址 (西より)



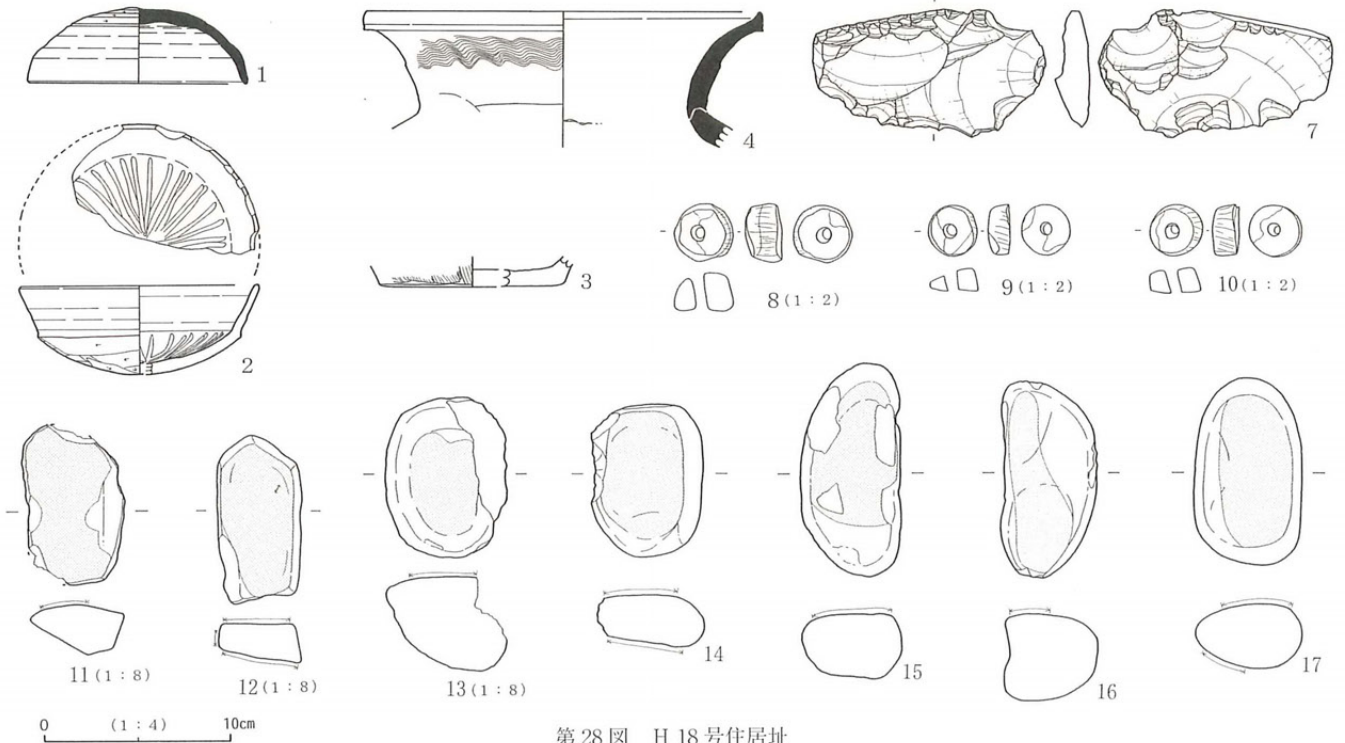
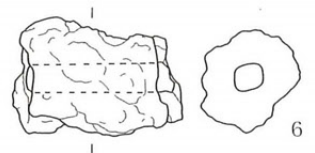
H 18 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物粒子を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山の砂粒を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色 (10YR3/3) 砂主体。(ピット堀方埋土)
4. 赤褐色土層 (5YR4/6) 灰・焼土層。
5. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土層。
6. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘土をブロックで含む。(カマド構築土)
7. 暗褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色 (10YR3/3) 地山砂質粒子と粘質土ブロックを含む。(カマド堀方埋土)
8. 黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色土 (10YR3/3) を含む。カマドの前面だけ粘土を貼る。(貼床)
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 暗褐色 (10YR3/3) 土を含む。(堀方)
10. 暗褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色 (10YR3/3) 砂を多く含む。(堀方)

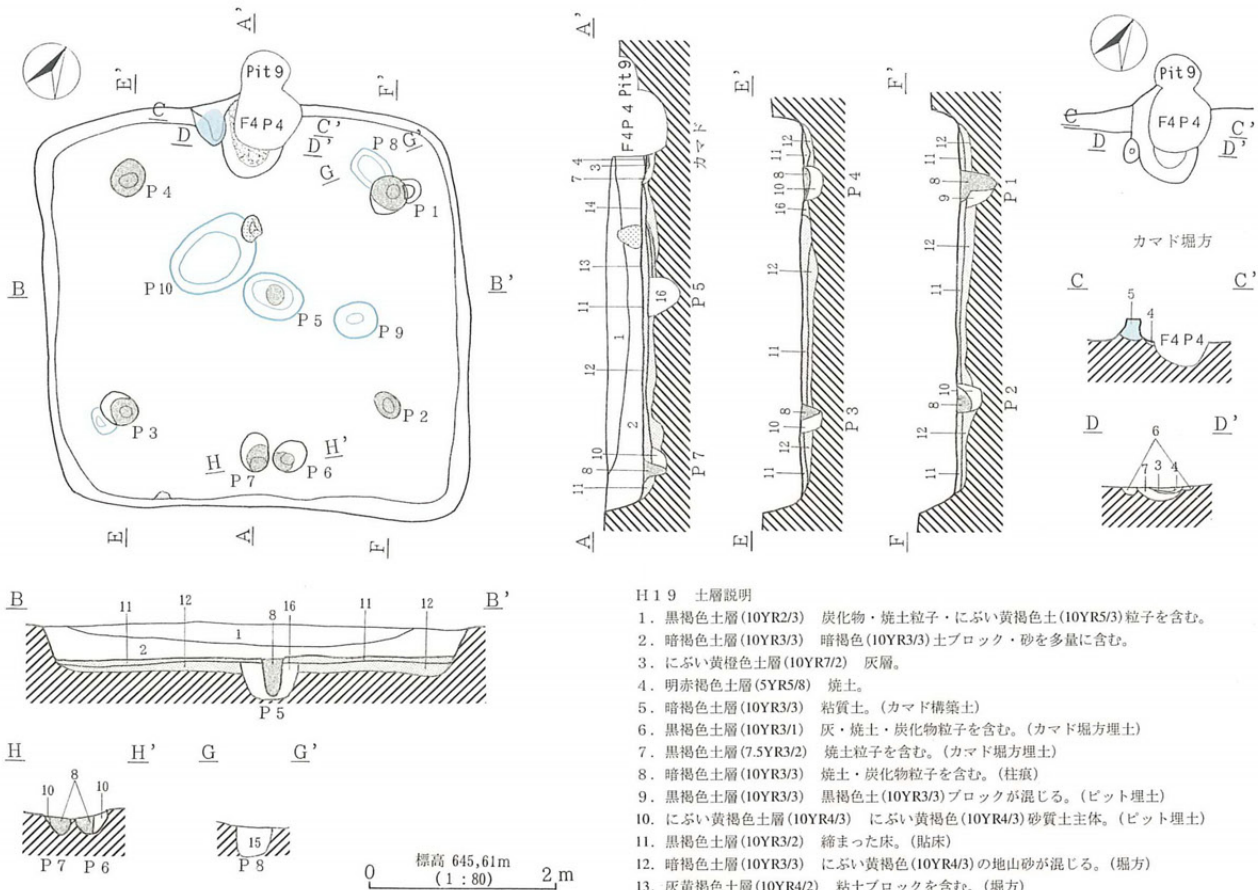
標高 645.41m  
(1 : 80) 2m



H 18 号住居址カマド (南より)

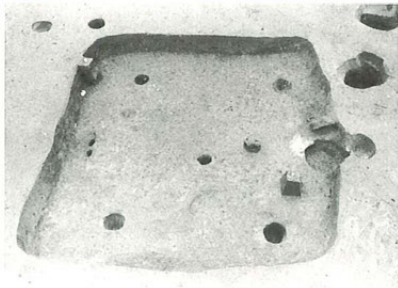


第 28 図 H 18 号住居址

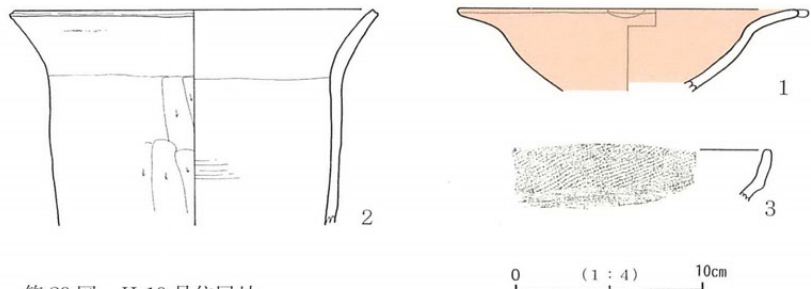


H19 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3) 炭化物・焼土粒子・にぶい黄褐色土(10YR5/3)粒子を含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3) 暗褐色(10YR3/3)土ブロック・砂を多量に含む。
3. にぶい黄褐色土層(10YR7/2) 灰層。
4. 明赤褐色土層(5YR5/8) 焼土。
5. 暗褐色土層(10YR3/3) 粘質土。(カマド構築土)
6. 黒褐色土層(10YR3/1) 灰・焼土・炭化物粒子を含む。(カマド堀方埋土)
7. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 焼土粒子を含む。(カマド堀方埋土)
8. 暗褐色土層(10YR3/3) 焼土・炭化物粒子を含む。(柱痕)
9. 黒褐色土層(10YR3/3) 黒褐色土(10YR3/3)ブロックが混じる。(ピット埋土)
10. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂質土主体。(ピット埋土)
11. 黒褐色土層(10YR3/2) 締まった床。(貼床)
12. 暗褐色土層(10YR3/3) にぶい黄褐色(10YR4/3)の地山砂が混じる。(堀方)
13. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 粘土ブロックを含む。(堀方)
14. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) 地山の砂主体。(堀方)
15. 黒褐色土層(10YR2/3) 暗褐色(10YR3/3)の砂質土を含む。(P8埋土)
16. 黒褐色土層(10YR2/3) 粘質土ブロックを含む。(P5埋土)



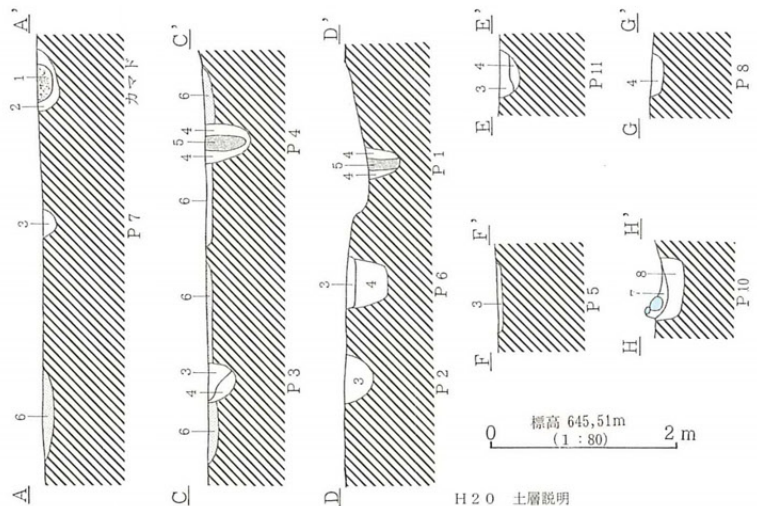
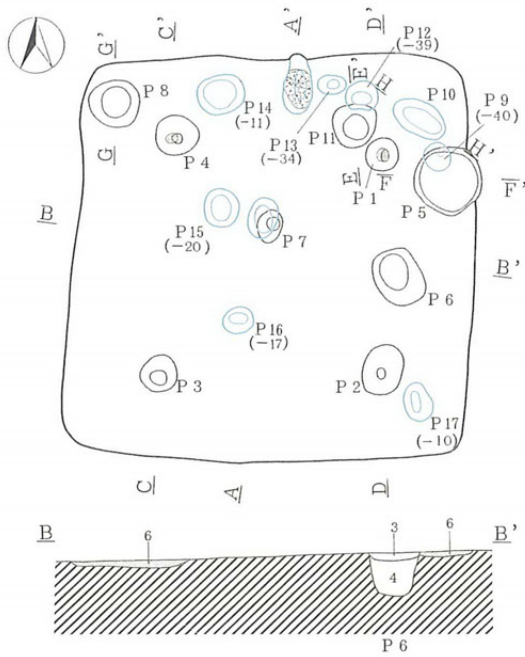
H19号住居址(東より)



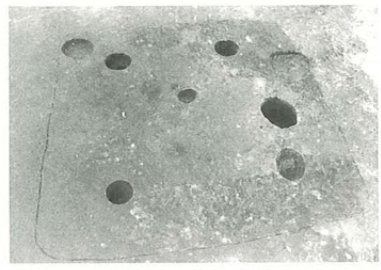
第29図 H19号住居址

第18表 H19号住居址出土遺物一覧表

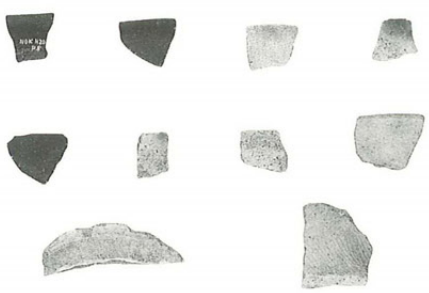
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	18.2 — <4.3>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/8残存(剥離著しい) 赤色塗彩2.5Y R5/8(明赤褐)	緻密。	検出・MI
2	土師器 甗	(19.6) — <10.7>	内外 口縁部横ナデ・胴部ミガキ 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ→口 縁部横ナデ	口縁部1/8残存 7.5Y R7/2(明褐灰)	緻密。	I区



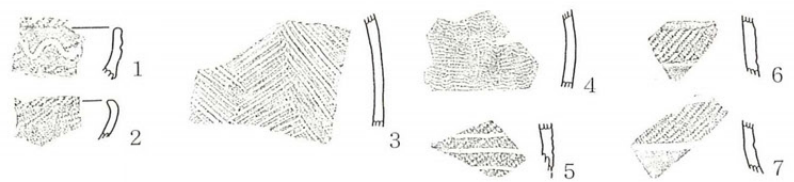
- H 20 土層説明
1. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。
  2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 焼土、灰粒子を含む。(カマド堀方)
  3. 黒褐色(10YR3/2)・にぶい黄褐色(10YR6/4)の混在土層 粘質土。(ピット)
  4. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 粘質土。(ピット堀方)
  5. 黒褐色土層(10YR3/2) (柱痕)
  6. 灰黄褐色(10YR4/2)・にぶい黄褐色(10YR6/4)の混在土層 (堀方)
  7. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色(10YR6/4)土粒子を多く含む。灰白色(10YR8/2)粘土ブロックを含む。(P 10)
  8. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂の2次堆積。(P 10)



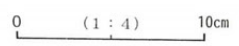
H 20 号住居址 (南より)



H 20 号住居址出土土器



第 30 図 H 20 号住居址



19) H 21 号住居址 (第31・32・33・34図、第19表、図版十三・十四・四十六・四十七・四十八)

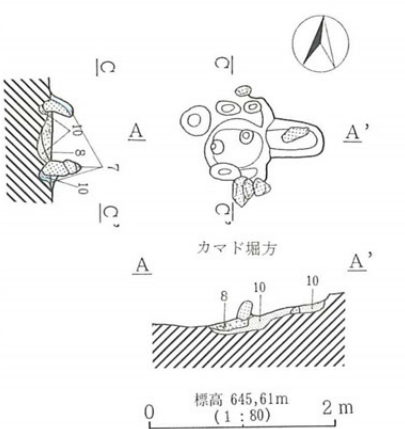
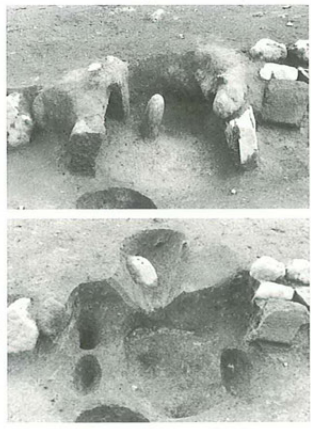
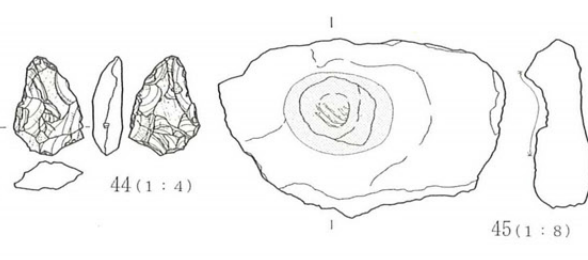
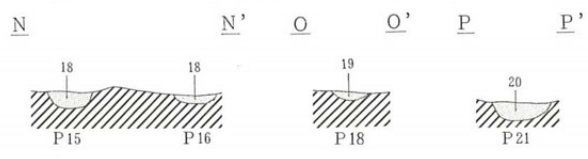
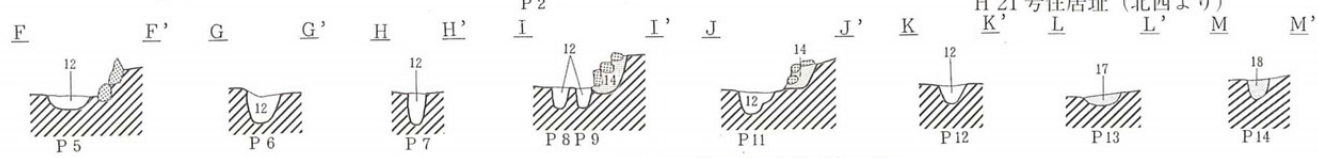
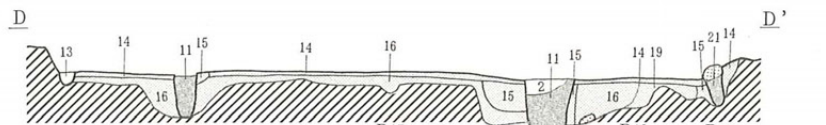
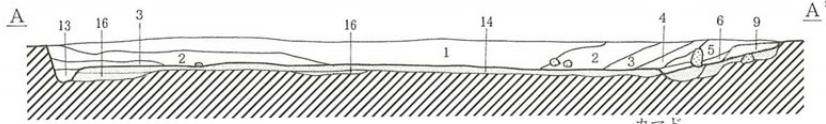
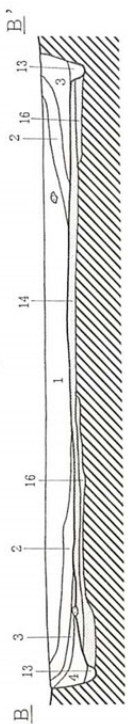
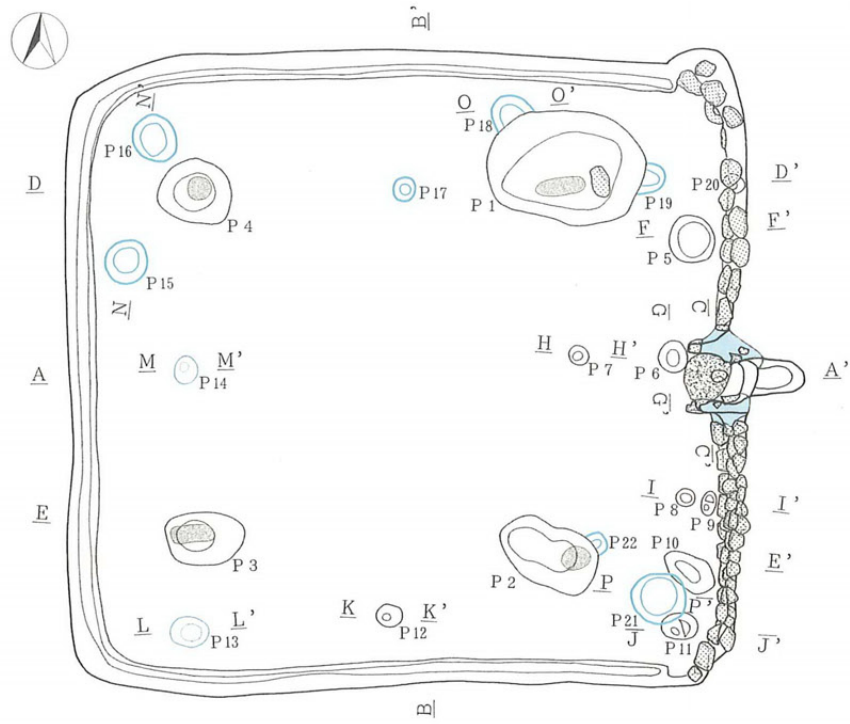
7い1グリットにあり、古墳時代のH49、弥生時代のH48・H52を切る。規模は南北620cm、東西660cm、深さ38cmを測り、本遺跡では大型で整った住居である。カマドは東壁中央にあり、主軸方位はN-98°-Wを指す。東壁は石垣状に壁面沿って石が積まれていた。3段確認されたが住居址内に残された礫の出土状況からはもう2段ほど上乘せられていたようである。床面を覆う土からは多量の炭化材・焼土・灰が検出され、焼失家屋である。

主柱穴はP 1～P 4で、大きな穴に柱材を埋めている。P 1では長径172cm 短径120cm 深さ52cmの堀方に厚さ18cm、幅54cmの板状の柱材と推測される柱痕が確認されている。P 2は108cm×68cm、深さ60cmの中くびれの楕円形の堀方に長径28cm 短径24cmの楕円形の柱痕がみられた。P 3は長径84cm 短径55cm、深さ40cmの角のある楕円形に幅48cm 厚さ19cmの板状の柱痕がある。P 4は短径で68cm 長径80cm 深さ46cm 楕円径の堀方に柱痕は径24cmの円形である。カマドのある東壁側にはP 5・P 6・P 8～11の小ピットがある。P 5・P 10は深さ16・20cmと浅く、甕などの置き場所であろうか。

掲載遺物には須恵器杯身(1)、土師器杯(2～5)・高杯(6)・椀(7・9)・鉢(8・10)・小型甕(11～14・21)、丸胴甕(15～17)・長胴甕(18～20・22)・手づくね(26)、弥生式土器(23～25・28～43)、土製円版(27)、スリ石(46～66)、黒耀石製石鏃(44)、溶岩製の凹石(45、袖石として使用)がある。

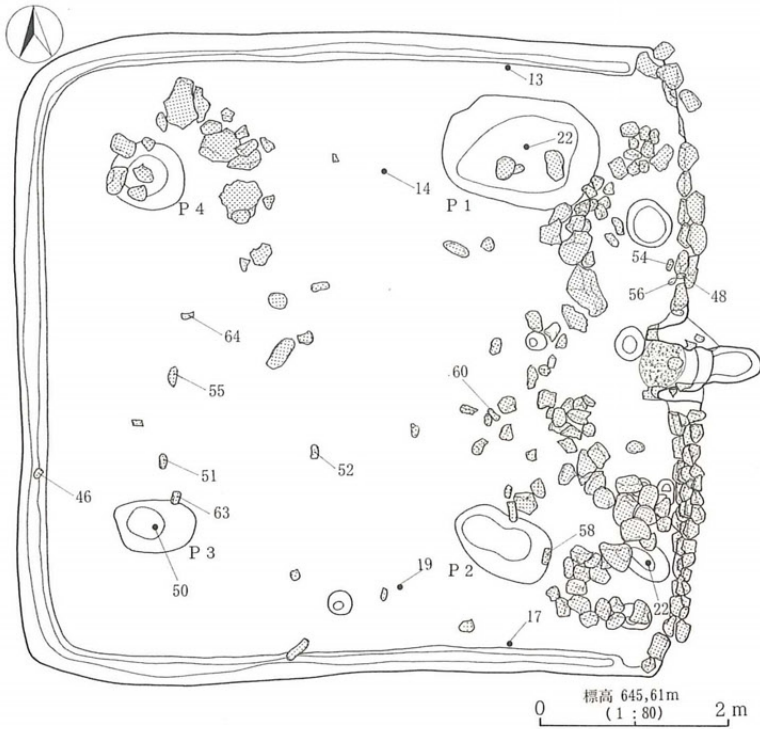
H 21 土層説明

1. 灰黄褐色土層(10YR4/2)  
炭化物・焼土・灰を少し含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2)  
炭化物・焼土・灰を多く含む。
3. 灰黄褐色土層(10YR4/2)  
炭化物・焼土・灰を少し含む。  
にぶい黄褐色土(10YR6/4)粒子を含む。
4. 炭化物・焼土・灰の堆積層
5. 2層中ににぶい黄褐色土(5YR6/4)粘土粒を含む。
6. 灰の堆積層 (カマド崩壊層)
7. にぶい黄褐色土層(10YR6/4)  
粘土。(カマド構築土)
8. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。
9. にぶい黄褐色土層(10YR5/4)・黒褐色土層(10YR3/2)・灰黄褐色土層(10YR4/2)の混在土層  
カマド構築粘土が混じる。
10. 灰黄褐色土層(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR6/4)粘質土の混在土層 (カマド掘方)
11. にぶい黄褐色土層(10YR5/4)  
にぶい黄褐色土(10YR6/4)粒子を少し含む。(柱痕)
12. 灰黄褐色土層(10YR4/2)  
浅黄褐色土(10YR8/4)粒子、φ1cm大のバミスを含む。上層に焼土・炭化物を含む。
13. にぶい黄褐色土層(10YR5/3)  
にぶい黄褐色土(10YR6/3)粒子を少し含む。
14. 灰黄褐色土層(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR6/4)粘質土の混在土層 (壁際石組み貼付土・貼床)
15. にぶい黄褐色土層(10YR5/4)  
シルトの2次堆積。(ピット掘方)
16. にぶい黄褐色土層(10YR5/4)  
砂の2次堆積。黒褐色土(10YR3/1)不定大ブロックを含む。(ピット掘方)
17. にぶい黄褐色土層(10YR5/3)・灰褐色土(10YR4/1)土の混在土層 (P 13)
18. 灰黄褐色土層(10YR4/2) (P 14)
19. 黒褐色土(10YR2/2)・にぶい黄褐色土(10YR6/4)土の混在土層 (P 18・19)
20. 灰黄褐色土層(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR6/4)・黒褐色土(10YR3/2)土の混在土層 (P 21)
21. 黒褐色土層(10YR3/2) 柱痕。(P 20)



第31図 H 21 号住居址

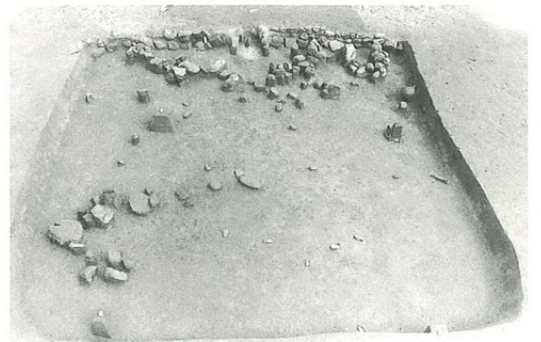
1. 古墳時代



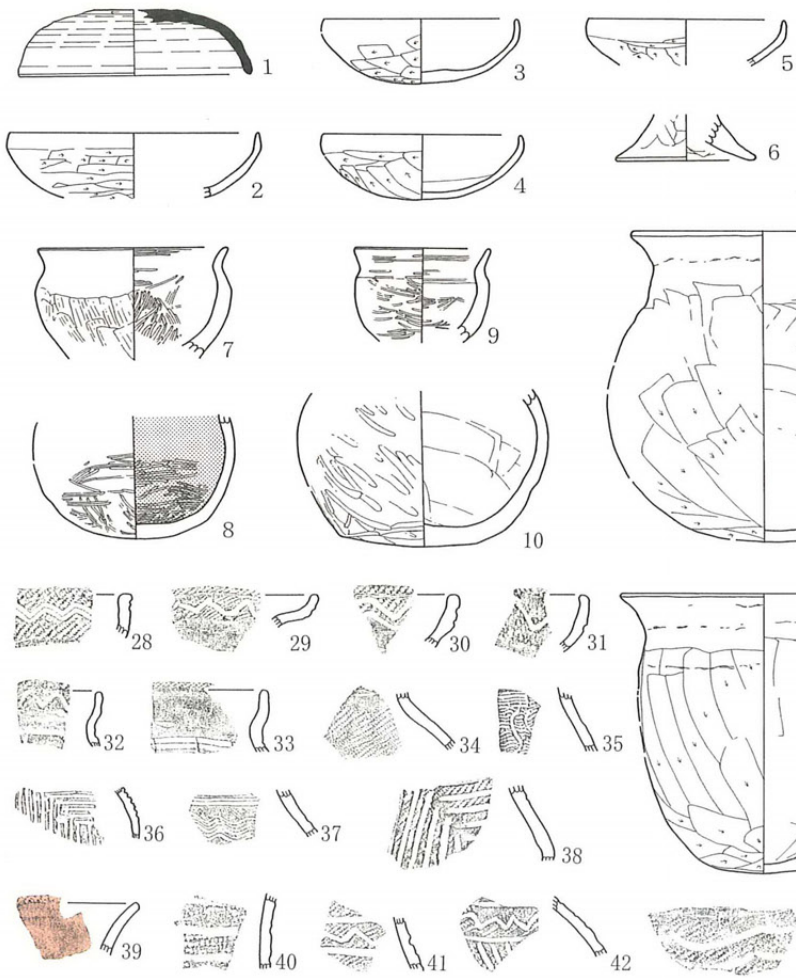
(西より)



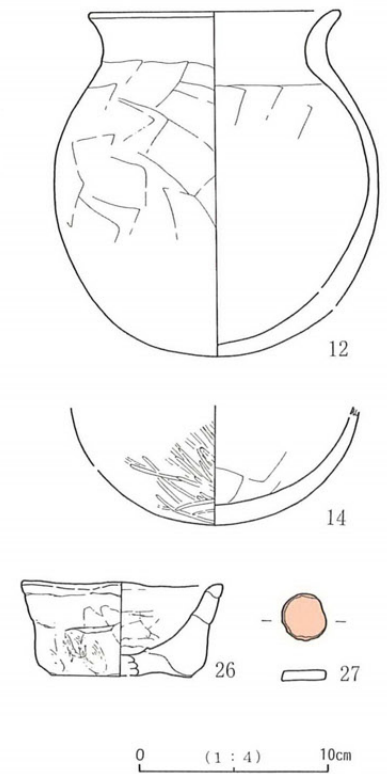
(南より)

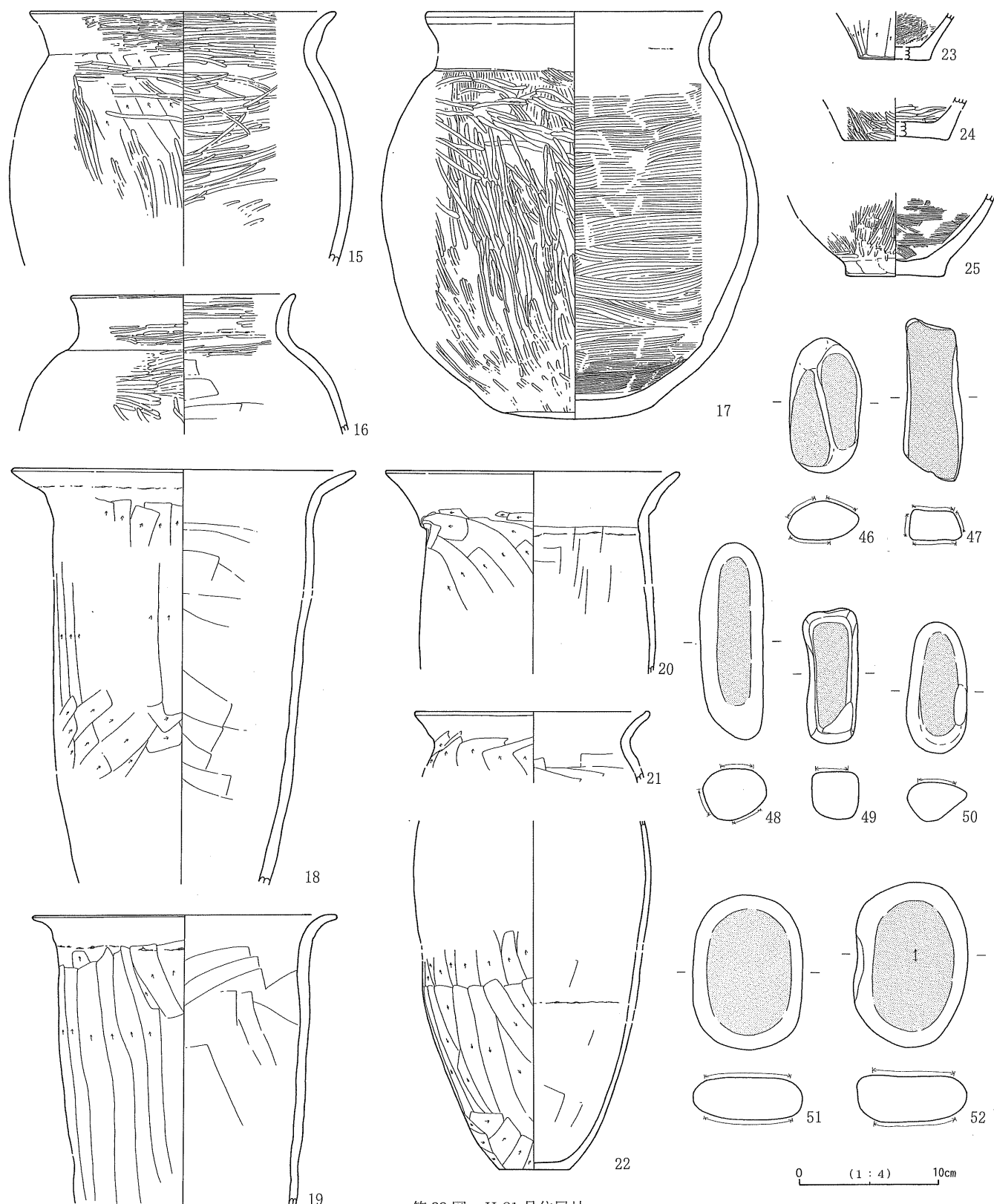


H 21 号住居址石組 (西より)



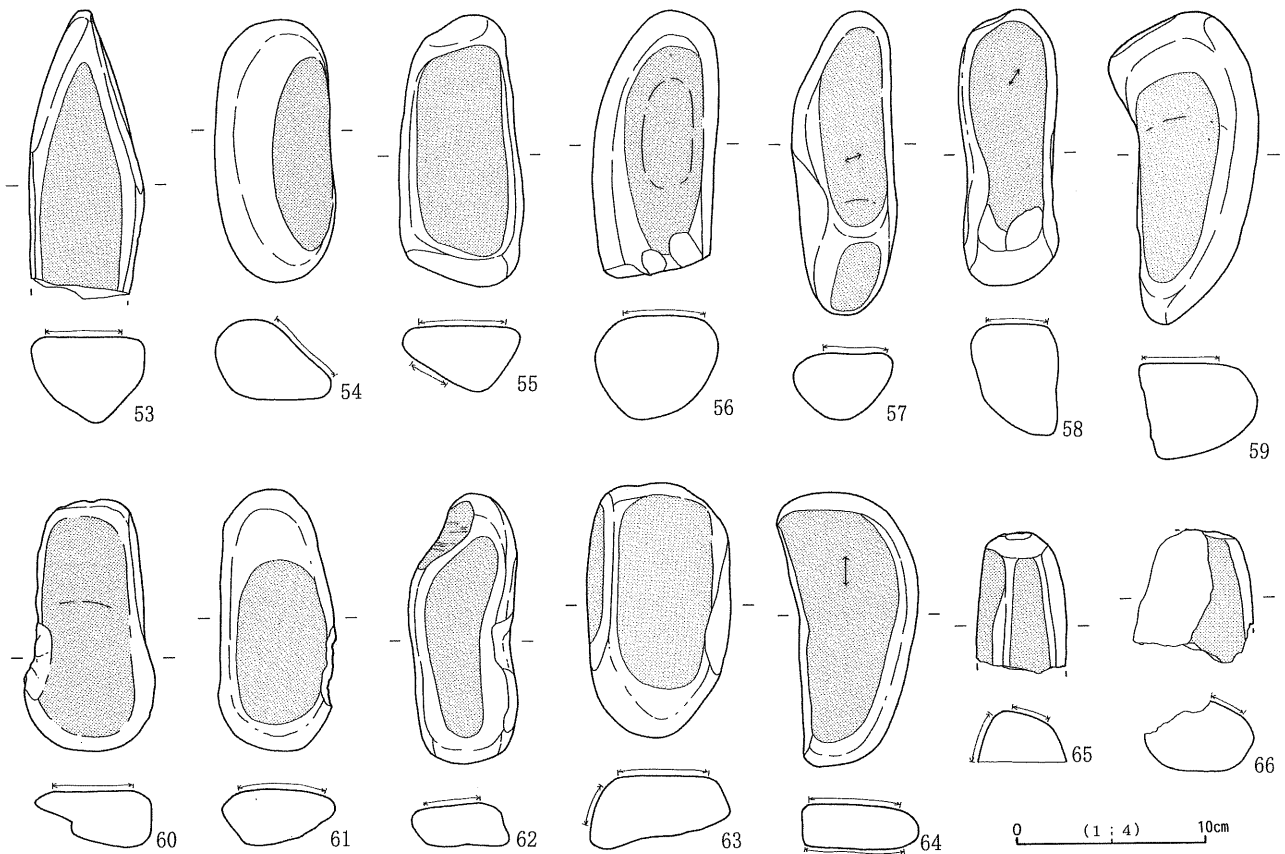
第 32 図 H 21 号住居址





第 33 图 H 21 号住居址

1. 古墳時代



第34図 H 21号住居址

1の須恵器杯身は口縁端部が丸く、底部は破片で明確ではないが回転ヘラ切りのままである。2～5の土師器杯は胎土が粉末質の精製胎土で、器肉が薄く小型である。内面はナデ調整、外面底部はヘラケズリ、口縁は短く内傾し横ナデされている。6の高杯脚部は短脚でハの字に開く。7～8の椀・鉢は重複するH49からの混入品であろう。小型甕は丸胴とそうでない物の2種ある。17の丸胴甕は口縁部横ナデ、内面ハケ、外面ミガキ調整である。長胴甕は18・19がやや厚手で胴部が縦にヘラケズリされ、20・21は武蔵甕で、胴部は薄手の作りとなり、胴上部は斜位にヘラケズリされる。スリ石は安山岩・砂岩・花崗岩などの川原石で、スリ面がある。中央脇がくびれたもの、欠け痕などがあり、編物石としても使用された痕跡を残す。

これらより古墳時代後期の新しい土器群であろうか。

第19表 H 21号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(12.4) — <3.4>	内外 ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ→底部回転ヘラキリ	口縁部1/3残存 N6/0(灰)	1mm以下の白色粒子を含む。 黒色粒子溶出。	Ⅱ区・ Ⅱ区堀方
2	土師器杯	(13.4) — <3.4>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・体部横位ヘラケズリ	口縁部1/3残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。	Ⅱ区
3	土師器杯	(10.5) — 3.4	内外 口縁部横ナデ・みこみ部ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存(内面摩耗) 5Y R 7/6(橙)	緻密。	カマド
4	土師器杯	10.5 — 3.4	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ	ほぼ完形 2.5Y R 6/6(橙)	緻密。	Ⅱ区
5	土師器杯	(10.6) — <2.4>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 2.5Y R 7/4(淡赤橙)	緻密。	カマド

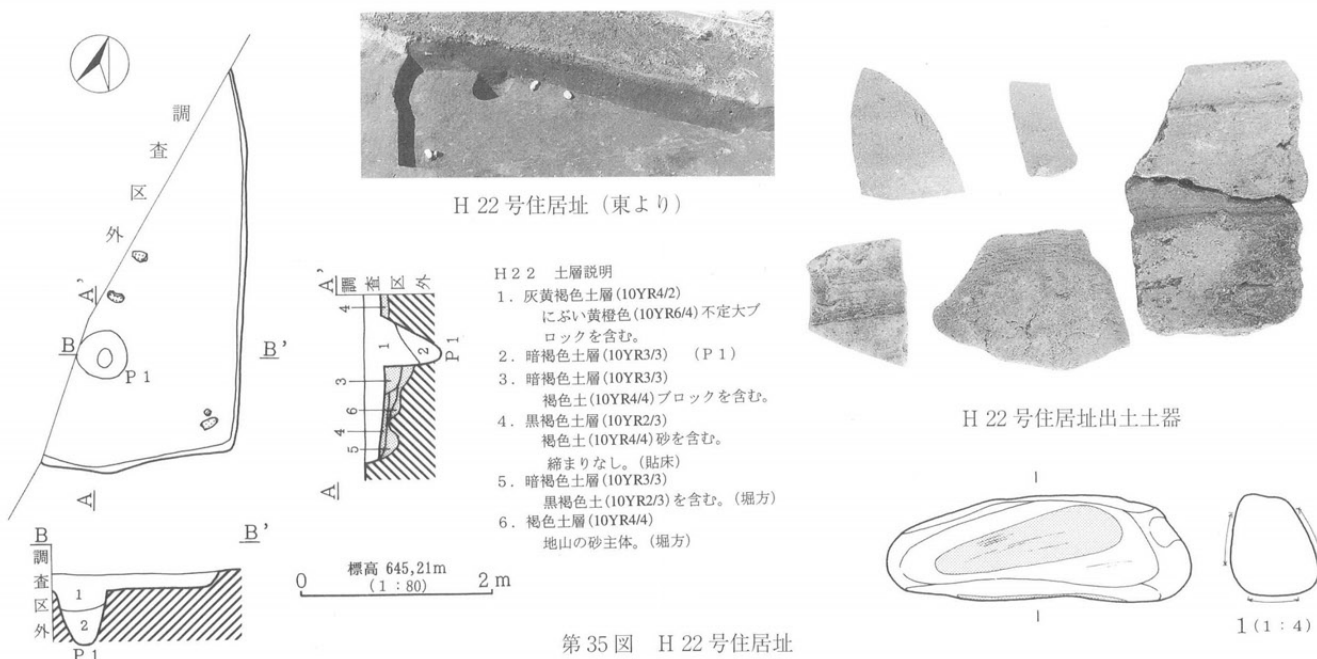


番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
6	土師器 高杯	— (7.4) <2.4>	内外 裾部ナデ 裾部横ナデ→柱部ナデ	底部1/3残存 10 Y R 7/2 (にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 脚部・裾端部不整。	Ⅲ区・検出
7	土師器 椀	(10.1) — <5.8>	内外 体部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部～胴上半横ナデ→縦位ヘラケズリ	口縁部約1/2残存 7.5 Y R 8/6 (浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	カマド
8	土師器 鉢	— <6.4>	内外 ミガキ→黒色処理 ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 内 N2/0 (黒) 外 7.5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子を少量含む。 丸底。	Ⅳ区
9	土師器 椀	(7.2) — <4.9>	内外 体部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ 体部ヘラケズリ・口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を少量含む。	Ⅰ区・検出
10	土師器 鉢	— 8.6 <8.1>	内外 ヘラナデ ナデ→雑なミガキ	底部完形 7.5 Y R 8/4 (浅黄橙)	2mm以下の赤色粒子・1mmの白色粒子を少量含む。歪みあり。内面黒く焼けている。 緻密。	Ⅳ区
11	土師器 小型甕	14.0 8.0 16.3	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラケズリ	口縁部ほぼ完形 7.5 Y R 8/3 (浅黄橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。小石を含む。 緻密。	Ⅲ区・Ⅳ区
12	土師器 小型甕	(13.5) — 18.0	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 7.5 Y R 8/4 (浅黄橙)	1mmの赤色粒子・黒色粒子・小石を含む。 緻密。	Ⅱ区・Ⅲ区
13	土師器 小型甕	15.2 6.9 14.6	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラケズリ	ほぼ完形 5 Y R 7/6 (橙)	5mm大の小石を含む。	Ⅰ区・検出
14	土師器 丸胴甕	— <6.2>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を少量含む。 小型品。	
15	土師器 丸胴甕	(21.9) — 18.2	内外 ナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部ほぼ完形 5 Y R 7/6 (橙)	1mmの白色粒子を多量含む。	Ⅰ区検出・Ⅳ区 Ⅲ区・Ⅳ区検出
16	土師器 丸胴甕	(15.2) — <9.9>	内外 口縁部ミガキ・胴部ナデ 口～頸部横位ミガキ・胴部横位ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/4残存 5 Y R 7/4 (にぶい橙)	赤色粒子・白色粒子を含む。	Ⅲ区検出
17	土師器 丸胴甕	(21.2) 11.0 29.1	内外 胴～底部ハケメ・口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・胴上半横位ヘラケズリ→ミガキ・底部磨耗	口縁部1/2・底部完形 5 Y R 7/2 (明褐灰)	きめ細かい。 赤色粒子・白色粒子を含む。	
18	土師器 甕	(24.5) — <29.7>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部上半縦位ヘラケズリ・胴下半斜位ヘラケズリ	口縁部1/2残存 5 Y R 6/3 (にぶい橙)	小石を含む。	Ⅱ区・ Ⅱ区検出
19	土師器 甕	21.5 — <20.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部ハケメナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部ほぼ完形 7.5 Y R 8/3 (浅黄橙)	3mm大の小石を多量含む。	
20	土師器 甕	21.0 — <14.4>	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部斜位ヘラケズリ	口縁部7/8残存 5 Y R 7/4 (にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子・3mm以下の赤色粒子を含む。武蔵型甕。	Ⅰ区・Ⅳ区
21	土師器 甕	16.9 — <5.1>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ナデ 口縁部横ナデ→胴部斜位ヘラケズリ	口縁部ほぼ完形 5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	Ⅲ区検出
22	土師器 甕	— 5.0 <24.9>	内外 横位ヘラナデ 底部周縁横位ヘラケズリ・胴部縦位ヘラケズリ。	底部完形 5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・2mmの赤色粒子・小石を含む。底部に木葉痕あり。武蔵型甕。	P1・P11
23	弥生土器 壺	(5.2) — <3.4>	内外 ハケメナデ ヘラナデ	底部1/3残存 7.5 Y R 6/4 (にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を多量含む。	堀方
24	弥生土器 甕	(7.6) — <3.0>	内外 ミガキ ミガキ	底部1/2残存 7.5 Y R 6/2 (灰褐)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区
25	弥生土器 甕	(7.2) — <5.9>	内外 ハケメ 胴部ハケメ後ミガキ・底部ナデ	底部完形 10 Y R 8/2 (灰白)	1mmの白色粒子を少量含む。 緻密。	堀方 P2
26	土師器 手捏	(10.8) (7.6) 4.9	内外 ヘラナデ ナデ・未調整	底部1/4残存 10 Y R 8/4 (浅黄橙)	緻密。	Ⅱ区
27	土製円版	2.4 0.5	内外 赤色塗彩 赤色塗彩	完存 10 R 4/8 (赤)	両面共に赤色塗彩。 弥生土器二次利用。	Ⅲ区

20) H 22 号住居址 (第35図、図版十五・四十九)

7き1グリットにあり、調査区の西端で南東隅だけ調査し、大半は区域外である。住居址の規模はわからないが深さは20cmを測る。南東の主柱穴P1を検出した。円形で径52cm、深さ56cmを測る。

出土遺物の土器は破片のみで、須恵器・土師器と弥生式土器がある。須恵器は丸底で口縁端部が丸い。土師器杯も丸底で内面ミガキ調整されている。甕は縦ヘラケズリの長胴甕胴部片、甌か鉢の口縁部片がある。これらは古墳時代後期の土器群であろうと推測される。実測したスリ石は安山岩でスリ面が3面ある。



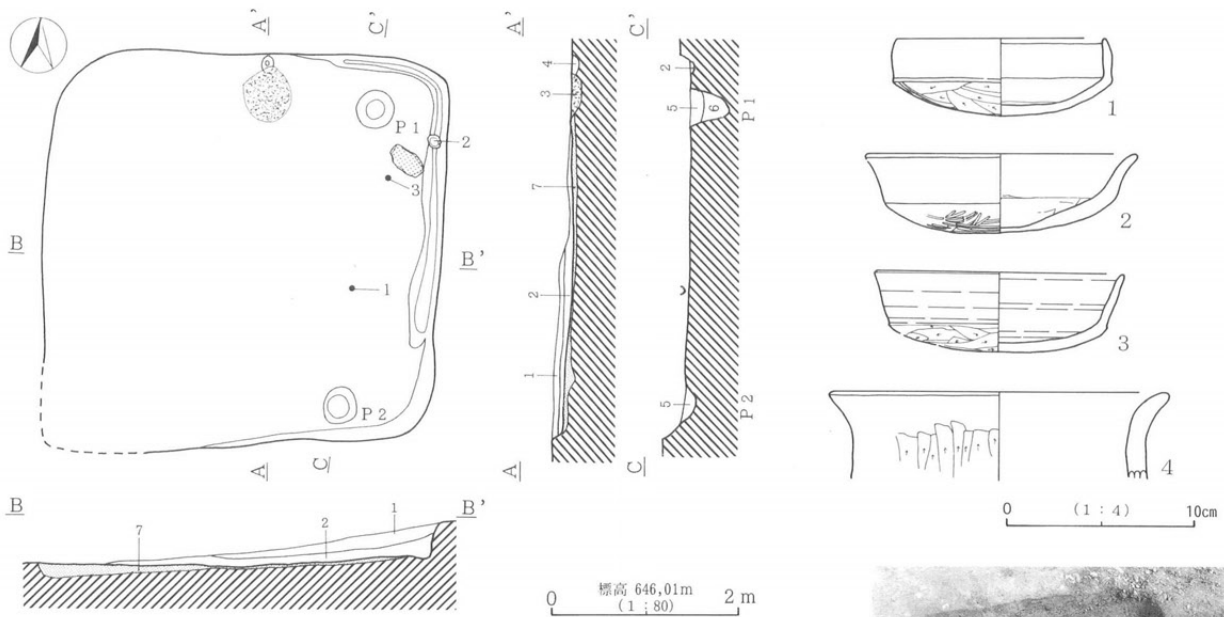
21) H 23号住居址 (第36図、第20表、図版十五・四十九)

6こ2グリットで検出された。規模は南北408cm、東西420cmで深さは傾斜地のため西側の壁がなく、0~8cmを測り、東西に長い方形を呈す。北壁下中央に焼土範囲が残り、カマドの跡と推測される。主軸方位はN-0°で北を指す。西壁側に主柱穴P1・P2が検出され、円形で径40cm、深さ40・12cmを測る。

掲載遺物には土師器杯(1~3)、甕(4)がある。土師器杯1・3は須恵器模倣杯で、緻密な胎土、内面ナデ調整される。2は厚手で器肉も均一でなく、底部と口縁の稜も曖昧になり、口縁部横ナデ、底部外面ヘラケズリ後、雑なミガキ調整が施される。内面にわずかにミガキがある。4の甕は小型の長胴甕であろう。古墳時代後期の土器群であろう。

第 20 表 H 23 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	11.2 — 4.1	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部3/4残存 5Y R 5/1 (褐灰)	緻密。	
2	土師器杯	(14.6) — 4.2	内外 みこみ部ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ→部分的にミガキ	口縁部3/4残存、底部完形 2.5Y R 6/4・6/3 (にぶい橙)	1mm~2mmの白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	
3	土師器杯	13.4 — 4.2	内外 横ナデ 口縁部ロクロナデ→底部ヘラケズリ	口縁部完形 7.5Y R 6/3 (にぶい褐)	緻密。	
4	土師器甕	(18.2) — <4.6>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/6残存 2.5Y R 7/4 (淡赤橙)	1mmの赤色粒子・小石を含む。	1区・堀方



H23 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR3/1) にぶい黄橙色土層(10YR6/4)の混在土層  
シルト質土を含む。φ2cm以下のバミスを少量含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄橙色(10YR6/4)シルト質砂粒を少し含む。
3. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。
4. 明褐色土層(7.5YR5/6) にぶい黄橙色土(10YR6/4)を含む。
5. 黒色土層(10YR2/1) シルト質土を少量、炭化物含む。(ピット)
6. 黒褐色土層(10YR3/2) シルト質土・砂、炭化物を微量含む。(P1)
7. 黒褐色土層(10YR3/1) 粘質土。にぶい黄橙色(10YR6/4)砂粒を多く含む。(堀方)

第36図 H23号住居址

H23号住居址(西より)

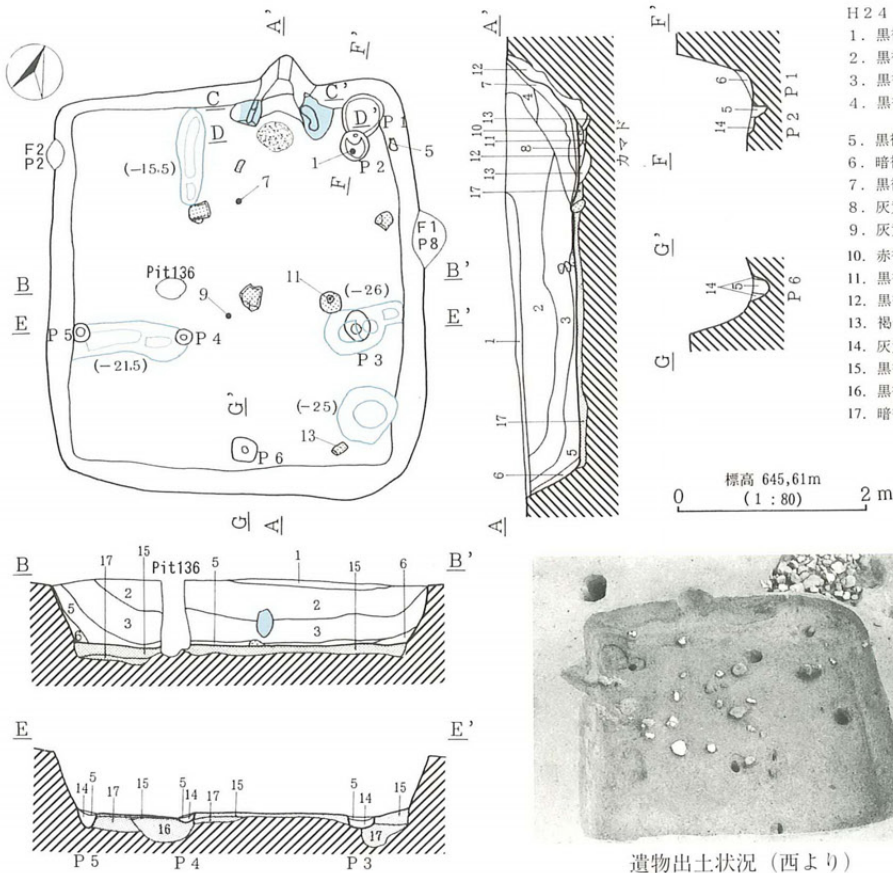
22) H24号住居址(第37図、第21表、図版十五・四十九)

3う8グリットにあり、F1・F2・単独ピットP136に切られ、弥生時代のH52・D9・D20を切っている。南北382cm、東西347cm、深さ73cmを測り、やや南北に長い方形を呈す。カマドは北壁の中央よりやや東寄りにあり、主軸方位はN-20°-Wを測る。カマド堀方で旧カマドの堀方が確認された。柱穴はP2~6が検出されるが小規模である。明確な主柱穴は確認されていない。間仕切りの溝が3カ所ある。

出土遺物には土師器杯(1~4)・罎(5)・小鉢(6)・丸胴甕(7)、弥生式土器(8・9)、黒耀石製石鎌(10)、安山岩製凹石(11)、軽石製スリ石(12)、編物石(13)がある。1は橙色杯で、粉末質薄手、内面ナデ調整される。2は厚手で外面底部ヘラケズリし体部はナデ、口縁部は明確な稜を持たずに横ナデされ外反する。3・4は胎土は精製され、浅い丸底からわずかな稜を持って外傾する。全体に磨耗が著しいのでわからないがミガキが施されていたようである。5の罎は体部中央に穴を明け、外面ミガキ、口縁部内面はミガキ黒色処理される。7の丸胴甕は口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリされる。これらより、古墳時代後期の土器群であろう。

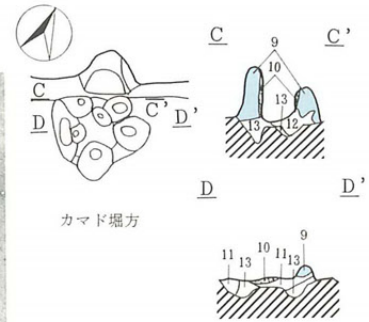
第21表 H24号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.2) — <4.0>	内外 口縁部横ナデ・ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/3残存(摩耗) 10R6/4(にぶい赤橙)	緻密。	Ⅲ区・P2
2	土師器杯	(13.6) (8.0) 4.6	内外 ナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 5YR6/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	Ⅲ区・Ⅳ区
3	土師器杯	(13.0) — 4.5	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ→暗文風 ミガキ→黒色処理? 外 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/2残存(摩耗) 7.5YR6/1・7/1(褐灰・明褐灰)	緻密。	カマド

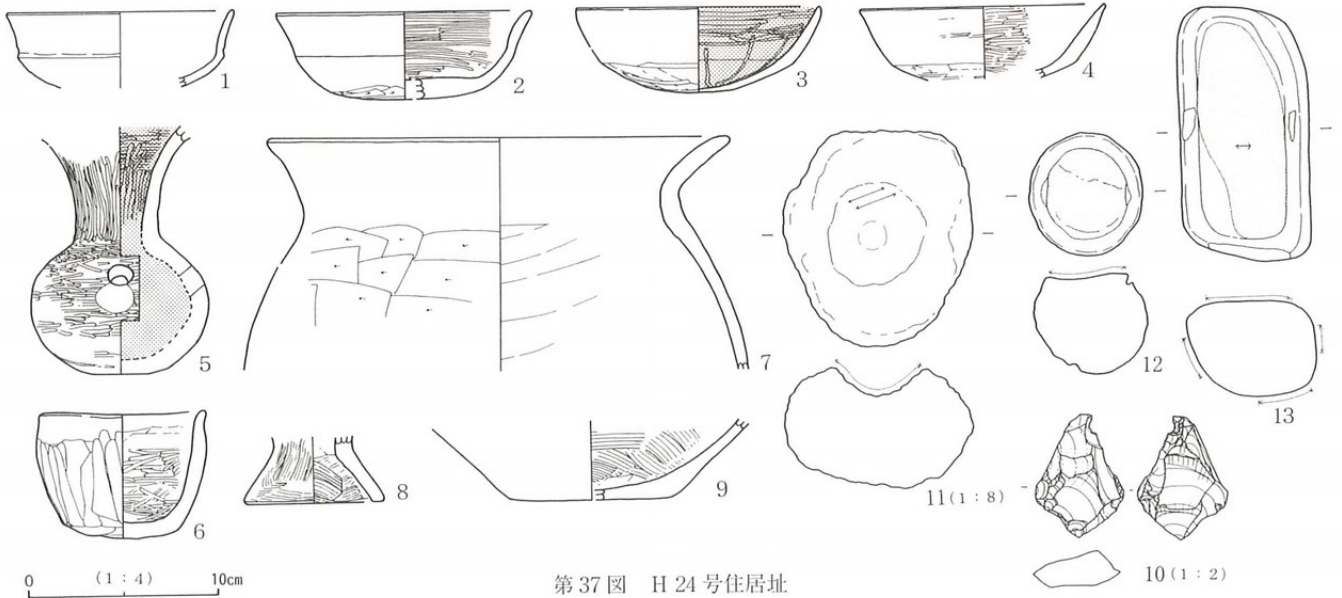


H 2 4 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3) 暗褐色(10YR3/3)砂を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/3) 1層より黒褐色土を多く含む。
3. 黒褐色土層(10YR3/2) 暗褐色(10YR3/3)地山の砂を多量に含む。
4. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 粘質土を多く含む。パミス0.5~1cm大を含む。
5. 黒褐色土層(10YR2/2) (カマド天井崩壊層)
6. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山の暗褐色土(10YR3/3)を多量に含む。
7. 黒褐色土層(10YR3/2) にぶい黄褐色(10YR7/3)粘土主体。
8. 灰黄褐色土層(10YR5/2) 上面に炭化物層、下に灰層。
9. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 粘土主体(内側に焼け込む)。
10. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。(カマド構築土)
11. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土の下は焼けている。(カマド堀方)
12. 黒褐色土層(10YR2/3) シルト質土。(カマド堀方)
13. 褐色土層(10YR4/4) 砂に黒褐色土(10YR2/2)・シルト質土を含む。
14. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 砂主体。(P 2) (旧カマド堀方)
15. 黒褐色土層(10YR2/3) シルト質土を含む。(貼床)
16. 黒褐色土層(10YR2/3) シルト質土を含む砂質。(床下溝)
17. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂。(床下溝)



遺物出土状況(西より)



第37図 H 24 号住居址

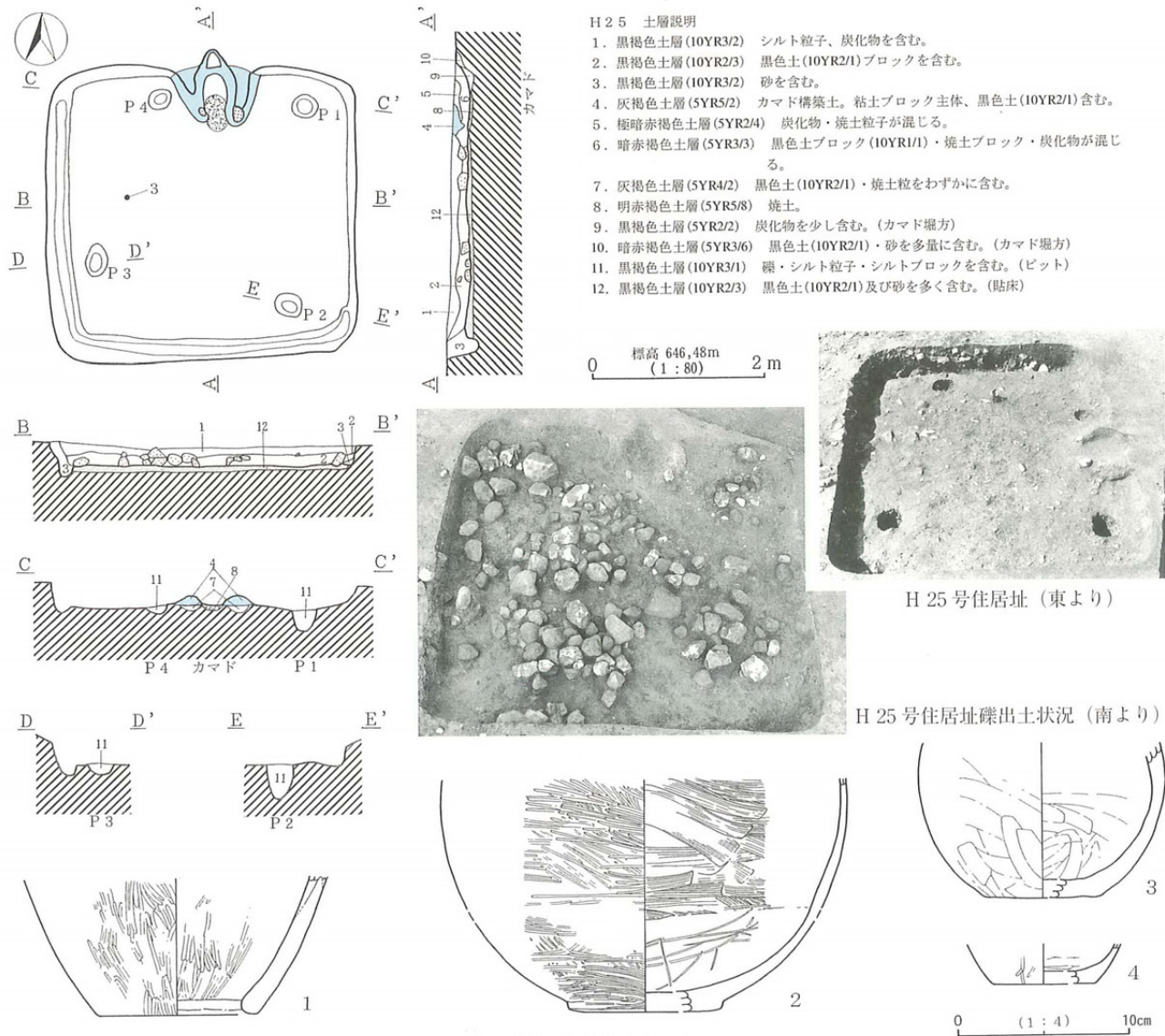
第21表 H 24 号住居址出土遺物一覧表(2)

4	土師器杯	13.2 — <3.8>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ?	口縁部1/3残存(外面摩耗) 7.5Y R6/1(褐灰)	緻密。	IV区
5	土師器罌	— 4.9 <13.0>	内外 口縁部ミガキ→黒色処理 ミガキ	底部完形 内 N2/0(黒) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子・黒色粒子を含む。	

6	土師器 小鉢	8.8 6.1 6.7	内 口縁部横ナデ→体部～底部横位ヘラナ デ→ミガキ 外 口縁部横ナデ→体部縦位ヘラナデ・底部 ヘラナデ	完形 7.5Y R5/2・6/3 (灰褐・にぶい褐)	1mm以下の白色粒子を多く 含む。	Ⅲ区
7	土師器 丸胴甕	24.5 — <12.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラケズリ	口縁部1/2残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、1～3 mmの赤色粒子・小石を含む。	カマド・ Ⅳ区・検出
8	弥生土器 台付甕	— (7.4) <3.5>	内外 ハケナデ ハケナデ	底部1/3残存 10Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅱ区
9	弥生土器 壺	— (8.6) <4.2>	内外 ハケメ ナデ→ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、1～3 mmの赤色粒子を含む。	

23) H 25 号住居址 (第38図、第22表、図版十六・四十九)

6き5グリットにあり、H60を切る。南北300cm、東西323cm の方形を呈す。壁残高は31cm。北壁中央にカマドがあり、主軸方位はN-8°-Wである。覆土には大小多くの礫が入り込んでいた。主柱穴はP1～P4で径24cm～28cm、深さ13～36cmと小規模である。周溝は西、南壁下に検出された。



1. 古墳時代

掲載遺物には土師器甑(1)・丸胴甕(2)・小型甕(3)、弥生式土器(4)がある。甑は1孔で大型の物であろうか、丸胴甕の外側は丁寧にミガキが施される。3は厚手で、口縁を欠損しているのかわからないが鉢であるかもしれない。古墳時代後期の土器群である。

第22表 H25号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 甑	— (9.2) <7.8>	内外 縦位ミガキ ナデ→縦位ミガキ(粗雑なミガキ)	底部1/4残存 7.5Y R6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を少量、 小砂粒を含む。粘土帯にヘ ラによる刻みを入れてある。 (接合痕)	Ⅳ区
2	土師器 丸胴甕	— (9.0) <13.3>	内外 胴下半～底部ナデ→部分的にミガキ 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を少量、 3mm以下の赤色粒子を多量 含む。	Ⅰ区
3	土師器 甕	— (7.2) <8.9>	内外 ヘラナデ ヘラナデ	底部2/3残存 7.5Y R6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅱ区・床
4	弥生土器 壺	— (6.0) <2.3>	内外 ヘラナデ ナデ→一部ミガキ	底部1/3残存 10Y R7/2(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区

24) H26号住居址(第39・40図、第23表、図版十七・十八・四十九・五十)

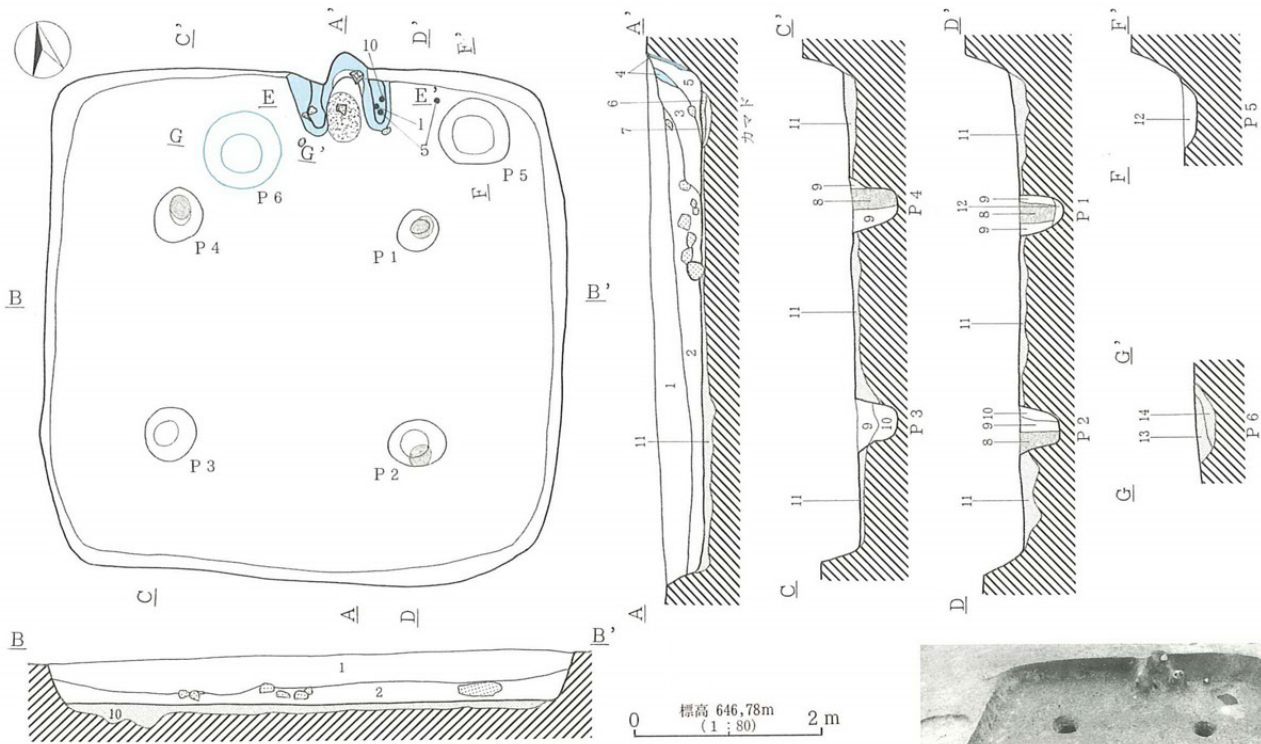
6お5グリットにあり、古墳時代のH54・55を切る。南北512cm、東西528cm、深さ56cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-18°-Eを測る。カマドは袖の内側に最高で4段の石を積み、粘土を貼っている。覆土には多量の大小礫が入り込んでいた。主柱穴はP1～P4で、P1～P3で柱痕が検出された。柱穴は径44～54cm、深さ40～52cmを測る。カマドの東に円形で径72cm深さ12cmを測り、焼土・炭化物を含む浅いピットがある。堀方ではカマドの西にも円形で径84cmのピットが検出された。

掲載遺物は須恵器杯蓋(1)、土師器杯(2・3)、鉢(4～6)、小型甕(7・8)、甑(9・10)、長胴甕(11)、丸胴甕(12～14)、手捏(32)、黒耀石製石鏃・剥片(36・33)、安山岩製スリ石(34)、鉄製品(刀子?36)がある。

1の須恵器杯蓋は扁平で、口縁端部は内傾し、口縁と天井部の境は沈線が廻る。天井部は弱いナデの様な手持ちヘラケズリが施されている。TK10号窯型式あたるもので、6C中頃とされている。土師器杯は全体に内湾するもので、内面ミガキ黒色処理。2の外側は口縁上部横ナデ、底部の下側はヘラケズリされるが中間は未調整のままである。4・5の鉢は内面黒色処理されるがミガキは施されない。外面はヘラケズリである。4の鉢は内面ミガキ黒色処理で外面もミガキ調整。8は橙色の精製された胎土の小型甕である。甑は単孔と多孔の両者がある。長胴甕は胴部に最大径を持っているがかなり長胴化している。丸胴甕は内外面にミガキ調整が施される。

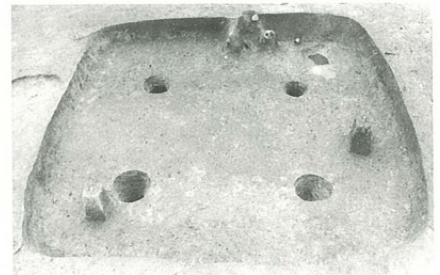
第23表 H26号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(13.2) 8.0 4.0	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラ切り→天 井部手持ちヘラケズリ	口縁部1/2残存 N5/0(灰)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	
2	土師器 杯	(13.4) (6.8) 4.3	内外 横位ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・体部ナデ→底部ヘラケズ リ	口縁部一部残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R7/2(にぶい黄橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子 を含む。	Ⅱ区
3	土師器 杯	(15.0) (6.6) 4.9	内外 ヘラミガキ→黒色処理 ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/8残存 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子を含む。	Ⅳ区
4	土師器 鉢	(13.3) (5.5) 9.0	内 胴部～底部横位ヘラナデ→口縁部横ナ デ→黒色処理 外 胴部ナデ・底部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部～底部3/4残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅰ区・カマド
5	土師器 鉢	10.6 6.5 10.3	内 口縁部横ナデ→胴～底部横位ヘラナデ →黒色処理 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ→底部ヘ ラケズリ	完形 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	1mmの黒色粒子・赤色粒子 を含む。	Ⅰ区・Ⅱ区 カマド
6	土師器 鉢	11.7 — 11.4	内外 横位ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・胴～底部横位ミガキ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R6/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子を少量含む。	Ⅰ区・Ⅲ区
7	土師器 小型甕	(13.2) — <6.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 胴部横位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/3残存 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量、 1mmの黒色粒子を少量含む。	カマド
8	土師器 小型甕	(9.6) — <4.6>	内外 胴部ヘラナデ→口縁部横ナデ 胴部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 5Y R7/4(にぶい橙)	精製品。 緻密。	Ⅲ区・Ⅳ区



H26 土層説明

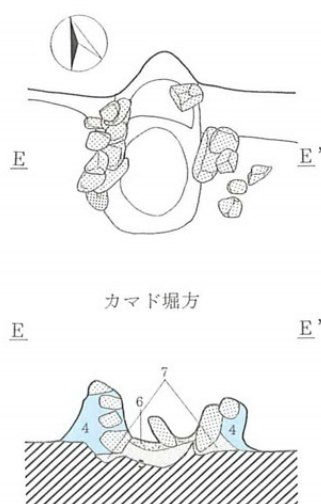
1. 黒色土層(10YR2/1) シルト・炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2) パミス・シルト粒子を含む。炭化物をわずかに含む。
3. にぶい赤褐色土層(5YR5/3) 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子・焼土ブロックを多量に含む。(カマド崩壊層)
4. にぶい黄褐色土層(10YR5/4) 粘土。黒褐色土(10YR3/1) ブロックを少し含む。(カマド構築土)
5. 暗赤褐色土層(5YR3/6) 焼土ブロック・炭化物を含む。
6. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。
7. 暗褐色土層(10YR3/4) (カマド堀方)
8. 黒褐色土層(10YR2/2) 炭化物粒子を含む。(柱痕)
9. 黒褐色土層(10YR3/2) 褐色砂(10YR4/4)・ブロックを含む。(ピット堀方)
10. 褐色土層(10YR4/4) 地山の砂主体。(P2)
11. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山の砂・砂ブロックを多く含む。黒褐色土(10YR2/2)ブロックを含む。(貼床)
12. 黒褐色土層(10YR3/1) 焼土・炭化物を多量に含む。(P5)
13. 暗褐色土層(10YR3/3) 黒色土(10YR2/1)ブロックと地山砂粒ブロックを多く含む。(P6)
14. 黒色土(10YR2/1) 地山の砂粒ブロックを含む。(P6)



H 26 号住居址 (南より)



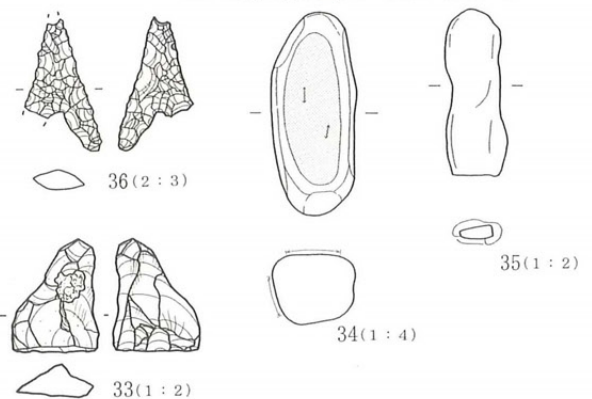
H 26 号住居址礎出土状況 (南より)



H 26 号住居址カマド (南より)

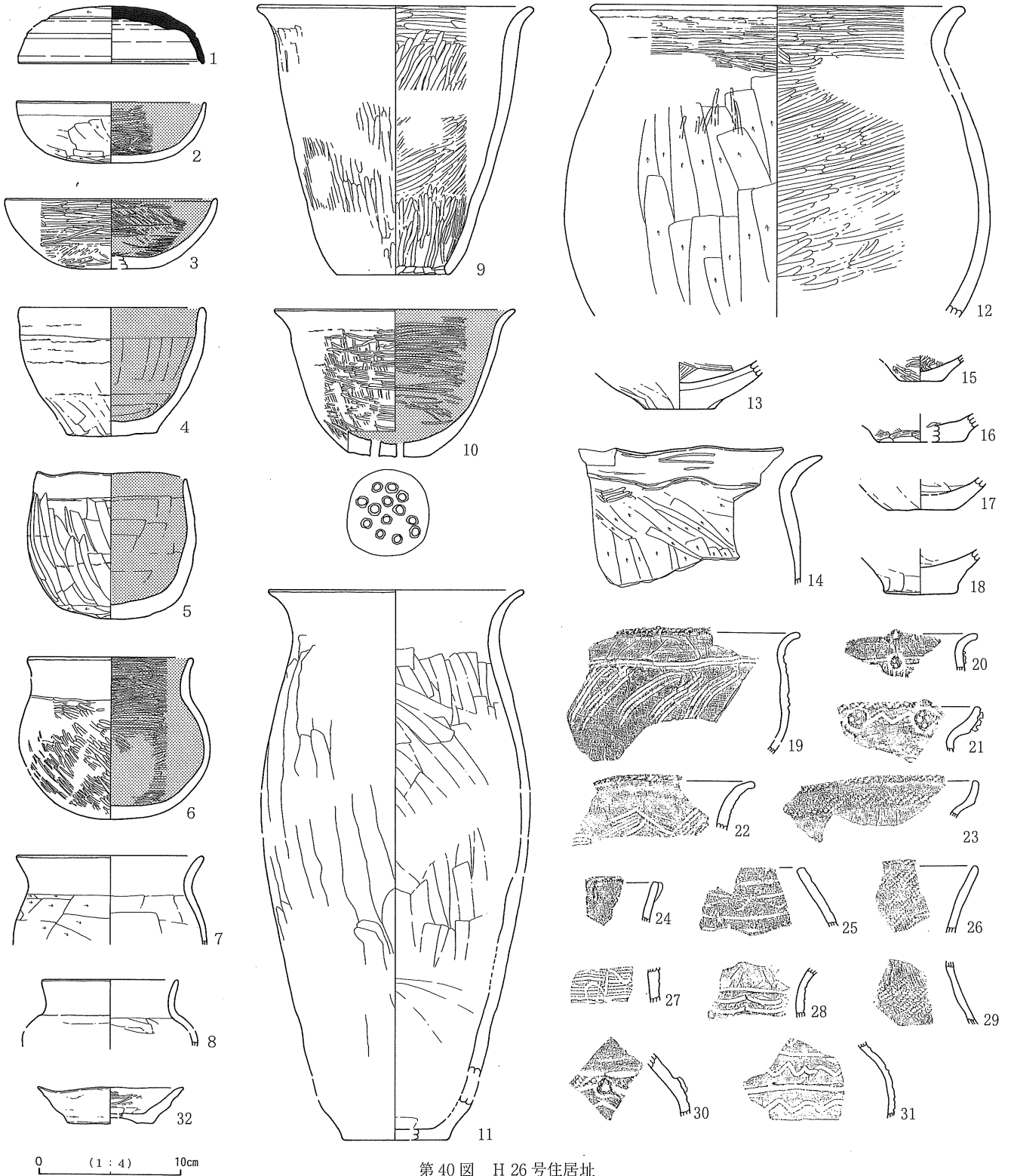


H 26 号住居址カマド掘方 (南より)



第 39 図 H 26 号住居址

1. 古墳時代



第40图 H 26号住居址



第23表 H26号住居址出土遺物一覧表(2)

9	土師器 甑	19.6 8.0 18.8	内外 口縁部横ナデ・胴部縦位ミガキ 口縁部横ナデ→胴部縦位ミガキ	口縁部一部欠損、底部完形 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm前後の赤色粒子を含む。 磨耗。	I区・II区 カマド
10	土師器 甑	17.1 5.7 10.3	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ→ 縦位ミガキ→横位ミガキ。底部に焼成 前に13孔をあける	ほぼ完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R 8/2(灰白)・5Y R 8/4(淡橙)	赤色粒子を少量・小石を含む。	I区・カマド
11	土師器 甕	18.0 7.5 38.7	内外 口縁部横ナデ→胴部～底部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R 8/4(淡橙)・2.5Y R 6/4 (にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子を少量含む。	I区・II区・ IV区
12	土師器 丸胴甕	(26.6) <21.8>	内外 横位ミガキ 口縁部横位ミガキ・胴部縦位ミガキ	口縁部1/4残存(外面磨耗) 5Y R 7/6(橙)	1mmの白色粒子多量含む。	H26 II区・III 区・IV区・H29
13	土師器 甕	— (5.0) <3.3>	内外 ハケナデ ヘラケズリ	底部1/2残存(磨耗) 10R 6/6(赤橙)	1mmの白色粒子を含む。	III区
14	土師器 丸胴甕	— <9.9>	内外 口縁部横ナデ・胴部ナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→部分 的にミガキ	口縁部1/5残存 7.5Y R 7/6(橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子 を含む。 口縁部の歪み大きい。	I区
15	土師器 ?	— (3.0) <1.9>	内外 ミガキ ミガキ	底部2/3残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	小石を少量含む。	II区
16	土師器 甕	— (6.0) <2.0>	内外 ナデ ナデ(工具使用)	底部1/3残存 7.5Y R 6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子、2m m以下の赤色粒子を含む。	I区
17	土師器 甕	— 5.0 <2.3>	内外 ヘラナデ ナデ	底部3/4残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子を含む。	IV区
18	土師器 甕	— (5.3) <3.2>	内外 ヘラナデ ナデ	底部1/4残存 5Y R 4/2(灰褐)	2mm以下の白色粒子を少量 含む。	IV区
32	土師器 手捏	(10.2) (6.0) 2.6	内外 ナデ後ミガキ ナデ	底部1/4残存 10Y R 7/4(にぶい黄橙)	小石・1mmの黒色粒子・白 色粒子含む。	IV区

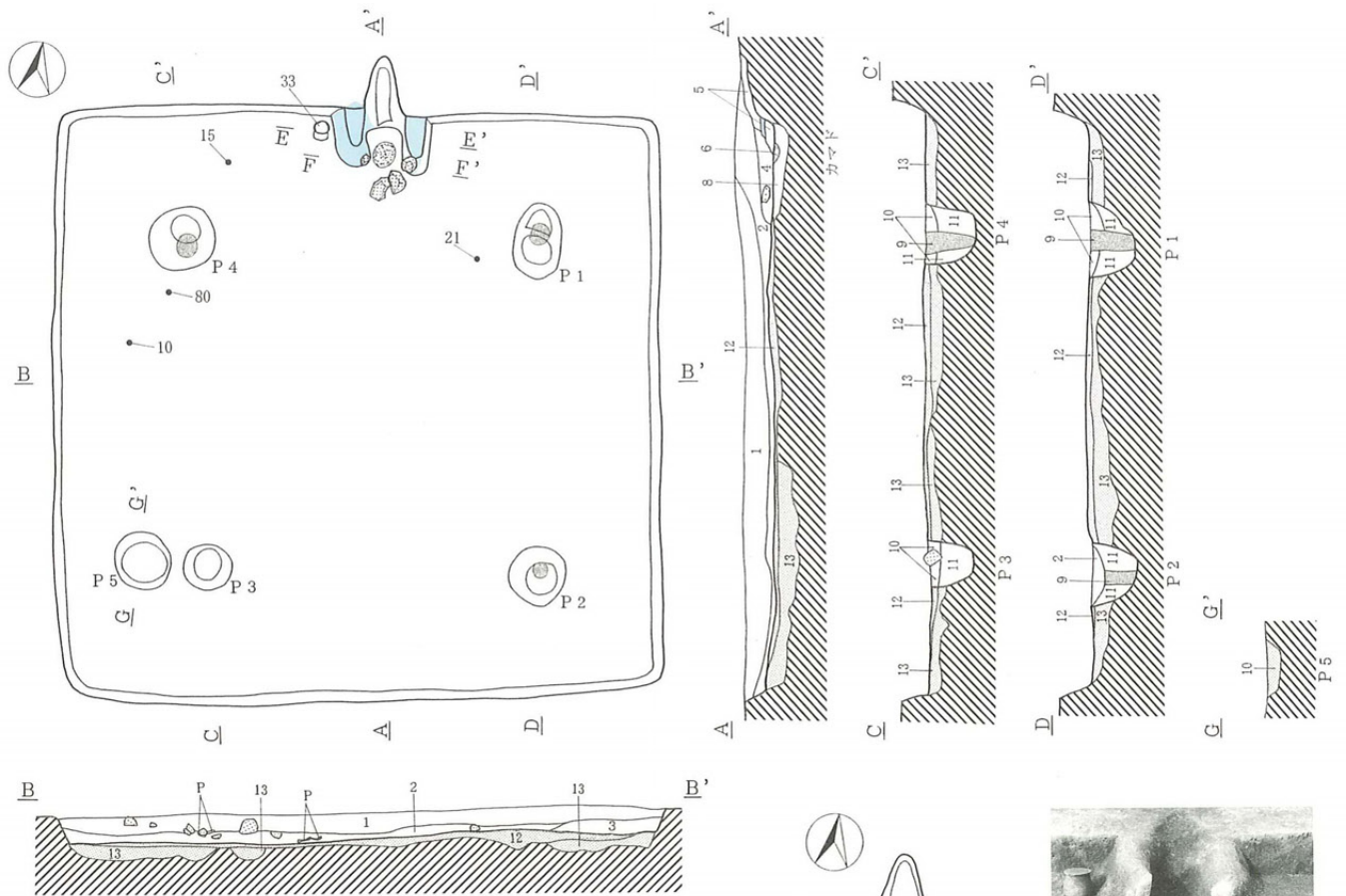
## 25) H27号住居址(第41・42・43・44図、第24表、図版十八・十九・五十・五十一・五十二)

6い7グリットにあり、古墳時代のH54・弥生時代のH59を切る。南北612cm、東西622cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-9°-Wを測る。カマドの袖は地山を掘り残して、袖芯としている。袖先には礫を立て焚口を作っている。主柱穴はP1~P4であり、P1が楕円、他は円形で、短径50~68cm、深さ48・54cmを測る。径16~25cmを測る柱痕がP3を除いて確認された。またP3の西隣に径64cm、深さ16cmの浅いピットがある。

出土遺物は土器が多数出土している。土師器杯(1~17)・高杯(28)・鉢(18~24)・小型甕(25)・丸胴甕(34~39)・長胴甕(33・40~43)、須恵器円版(29)、弥生式土器(26・27・30~32)、鉄製刀子(80)、凝灰岩製砥石(81)がある。

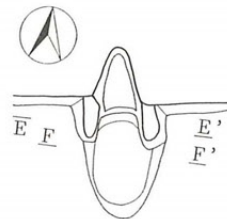
土師器杯は1~3が須恵器模倣杯で器肉が薄く精製された胎土である。1は口縁部がわずかに段をなしている。4・12・13・15・16は厚ぼったく、器肉も不均一である。内面ミガキ調整されるが外面は口縁部横ナデ、体部はナデないしヘラケズリである。6・7・8・9・17は口縁部が外稜を持って直線的に外傾し、外面はミガキとそうでないものがあり、内面ミガキ黒色処理される。丁寧な作りの土器である。11・12・14は底部から曖昧な稜を持って口縁部が外反し、内面ミガキ黒色処理される。33はカマドの西脇に置かれて当初から胴下部を欠損した長胴甕である。最大径が胴部にあり、胴部の調整もヘラナデ調整である。40・42の長胴甕は長胴化し、最大径は口縁部にある。胴部はヘラケズリされる。43は内外面ハケ調整の長胴甕である。34・38の丸胴甕完形品は胴部外面がミガキ調整され、口縁部内外はナデ、内面はハケないしナデ調整のままである。37・35などは口縁部または内面にミガキが施される。古墳時代後期の土器群であろう。

1. 古墳時代

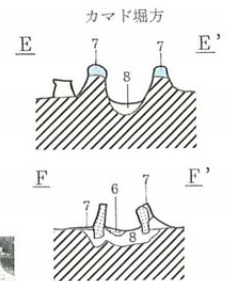


H 27 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/1) ロームブロック(砂)を多く含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)・黒色土(10YR2/1)の混在土層
3. 灰褐色土層(10YR4/2) ローム粒子(砂)ロームブロックを多く含む。
4. 暗赤褐色土層(5YR3/3) 焼土粒子・炭化物を含む。
5. 褐灰色土層(5YR4/1) (カマド崩壊層)
6. 暗赤褐色土層(5YR3/4) 焼土粒子・灰・炭化物を含む。
7. にぶい黄褐色土層(10YR7/2) 粘土。(カマド構築土)
8. 褐灰色土層(10YR4/1) (カマド堀方)
9. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 柱痕。
10. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) 黄褐色土(10YR5/6)砂粒を多く含む。(ピット堀方)
11. 黒褐色土(10YR3/1)・黄褐色土(10YR5/6)の混在土層 (ピット堀方)
12. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂粒・パミスを含む。(貼床)
13. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山の砂粒・砂ブロックを多く含む。パミスを含む。黒褐色土(10YR2/2)ブロックを含む。(堀方)



H 27号住居址カマド(南より)



H 27号住居址カマド堀方(南より)

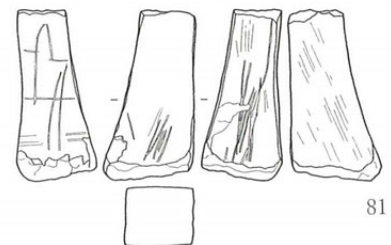
0 標高 646.68m (1:80) 2m



H 27号住居址礫出土状況(南より)

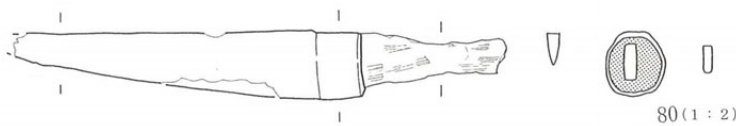


H 27号住居址(西より)



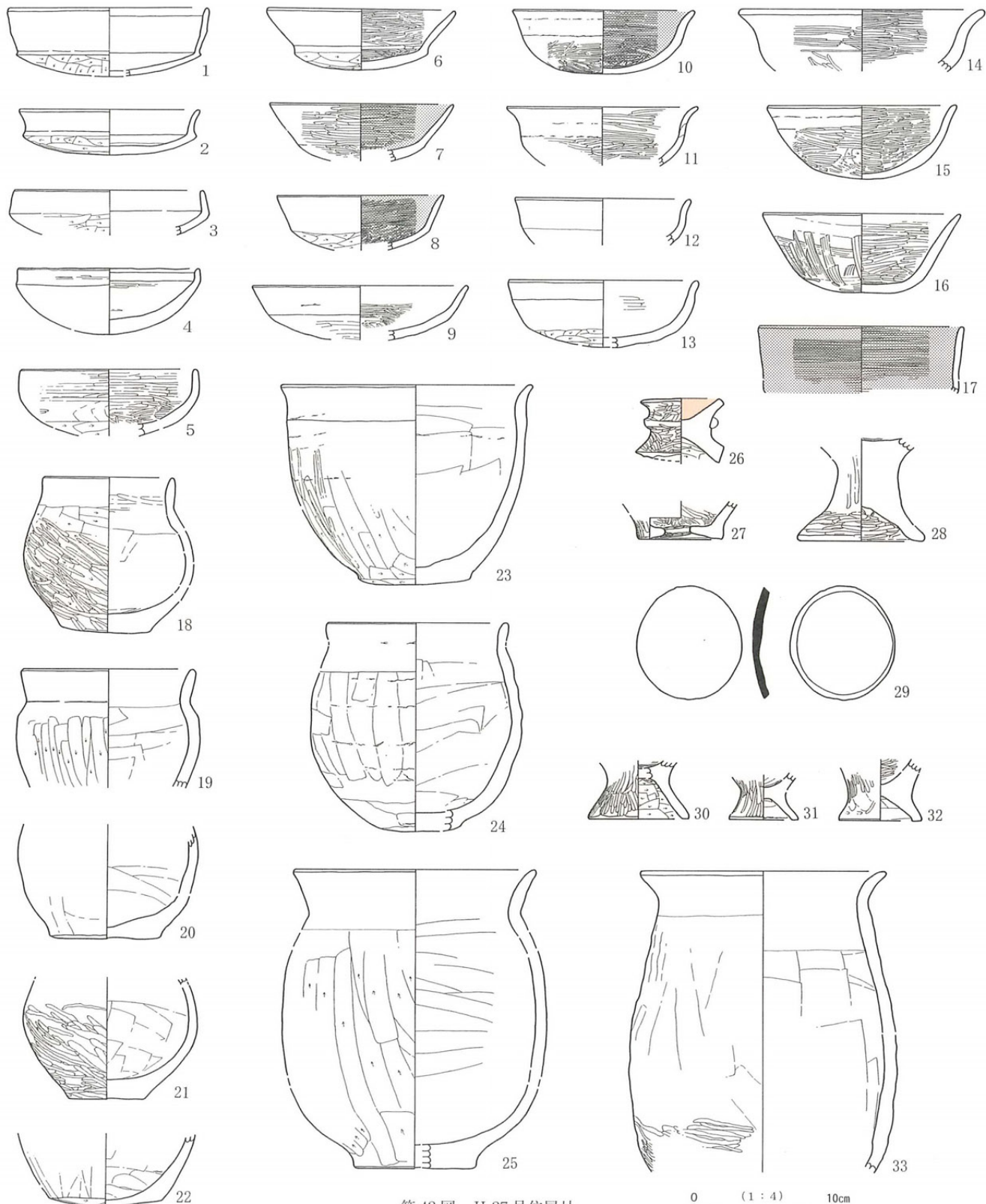
81

0 (1:4) 10cm

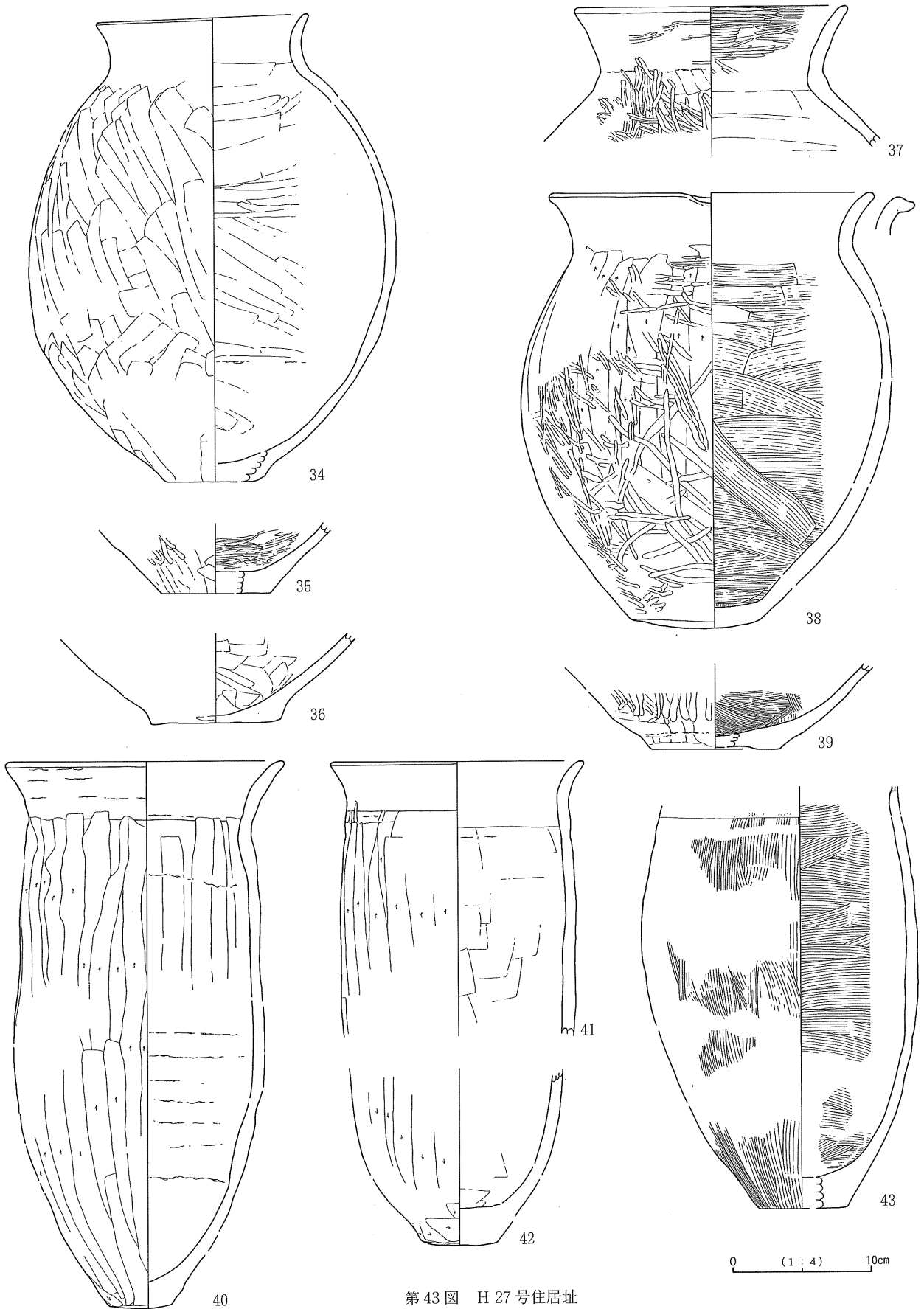


80(1:2)

第41図 H 27号住居址



第42图 H27号住居址



第43图 H 27号住居址



第44図 H27号住居址

第24表 H27号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(14.6) (13.4) <4.85>	内外 横ナデ 底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ	口縁部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	赤色粒子・白色粒子を少量含む。内外面黒色処理？ 有段口縁杯。	Ⅳ区
2	土師器杯	(13.0) (12.6) 3.3	内外 みこみ部ナデ→口縁部・体部横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部2/3残存 2.5Y R7/4(淡赤橙)	赤色粒子少量含む。 内外面黒色処理？	Ⅳ区・床
3	土師器杯	(13.8) (14.4) <3.2>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 7.5Y R4/1(褐灰)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	Ⅰ区
4	土師器杯	13.2 — 4.7	内外共に剥落していて判別しがたいが、一部ミガキが観察される。	口縁部2/3残存(剥落) 2.5Y R7/4(淡赤橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色粒子・白色粒子を少量含む。	Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅳ区
5	土師器杯	(13.0) — <4.7>	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/4残存 10Y R8/3(浅黄橙)	1mmの白色粒子を少量含む。	Ⅱ区
6	土師器杯	13.6 9.5 4.4	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部3/4残存 5Y R4/1(褐灰)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を少量含む。 内面黒色処理か？	Ⅲ区・Ⅳ区 検出
7	土師器杯	(13.2) (9.0) <4.1>	内外 横位ミガキ→黒色処理 横位ミガキ	口縁部1/4、底部1/3残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R6/4(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅱ区
8	土師器杯	(12.0) (10.0) <3.9>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/3残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子を多量含む。	Ⅱ区
9	土師器杯	(15.6) — <3.9>	内外 口縁部横ナデ・みこみ部ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 2.5Y R3/1(暗赤灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
10	土師器杯	13.2 — 4.6	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	Ⅱ区
11	土師器杯	(13.8) — <4.2>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ・体部横位ミガキ	口縁部1/4残存 5Y R6/2(灰褐)	1mmの白色粒子・赤色粒子を少量含む。	Ⅲ区

1. 古墳時代

12	土師器 杯	(12.8) — <3.3>	内外 横ナデ→わずかにミガキ 体部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子を含む。	IV区
13	土師器 杯	13.8 — 4.8	内外 横位ミガキ(ただし、磨滅著しく一部の み判別) 口縁部横ナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存(磨滅) 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	III区
14	土師器 杯	(17.8) — <4.4>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ・体部ナデ→横位ミガキ	口縁部1/5残存 2.5Y R 5/3(にぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。 内外面黒色処理か?	III区
15	土師器 杯	13.7 — 5.2	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ→わずかに 横位ミガキ	完形 5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子を含む。	
16	土師器 杯	14.4 — 5.6	内外 横位ミガキ ハケナデ・底部ヘラナデ	口縁部約1/2残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の黒色粒子・赤色 粒子を含む。	IV区
17	土師器 杯	(15.0) — <4.7>	内外 横位ミガキ→黒色処理 横ナデ→黒色処理	口縁部1/4残存 10Y R 3/1(黒褐)	赤色粒子・白色粒子を含む。 黒色土器。 緻密。	II区・III区・ 6え8G検出
18	土師器 鉢	9.6 6.5 11.1	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラナデ・頸部 部分的にヘラナデ→わずかにミガキ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ→胴部・ 底部ミガキ	口縁部1/2残存、底部ほぼ完形 5Y R 8/4(淡橙)	黒色粒子を含む。	III区
19	土師器 鉢	(12.6) — 8.4	内外 口縁部横ナデ胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/2残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	I区・ I区堀方
20	土師器 鉢	— 8.0 <8.1>	内外 横位ナデ ナデ	底部完形 7.5Y R 6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	不明
21	土師器 鉢	— 5.5 <8.6>	内外 ヘラナデ→わずかにミガキ ナデ(成形)→ミガキ	底部完形 5Y R 5/3(にぶい赤褐)	赤色粒子・黒色粒子含む。	I区
22	土師器 鉢	— 8.2 <5.3>	内外 ナデ 胴部・底部ヘラケズリ	底部ほぼ完形 2.5Y R 6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・砂粒 を含む。	I区
23	土師器 鉢	(18.1) 8.0 14.2	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ→ミ ガキ 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ→一部ミ ガキ・底部ヘラケズリ	底部完形 5Y R 6/4(にぶい橙)	1mm～2mmの赤色粒子を 多く含む。	II区
24	土師器 鉢	(13.1) 5.7 14.8	内外 口縁部横ナデ→胴～底部横位ヘラナデ 胴部・底部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子を少量、2 mmの黒色粒子を少量含む。	IV区
25	土師器 甕	(17.5) (8.8) 21.3	内外 口縁部横ナデ→胴部～底部横位ナデ 胴部縦位ヘラケズリ・底部ヘラケズリ→ 口縁部横ナデ	底部1/2残存 5Y R 5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の小石を含む。	III区・IV区
26	弥生土器 高杯	— (8.8) <4.6>	内外 杯部 赤色塗彩・脚部 ヘラケズリ ミガキ	脚部破片 7.5Y R 7/2(明褐灰)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。 高杯を二次利用した器台	IV区
27	弥生土器 甌	— 8.1 <2.7>	内外 ハケナデ→ミガキ ハケナデ→ミガキ	底部完形 10Y R 8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子を含む。	IV区
28	土師器 高杯	— (9.2) <7.3>	内外 杯部ミガキがみられる 脚部ミガキ 裾部ミガキ・柱状部ヘラナデ→ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/6(橙)	1mmの白色粒子を含む。や や砂質。 脚柱部磨滅。歪みあり。	IV区
29	須恵器 円版	8.2 7.5 0.6	内外 ナデ カキ目	完形 N6/0(灰)	提瓶利用?	III区
30	弥生土器 台付甕	— (7.2) <4.1>	内外 杯部ミガキ・台部ヘラケズリ 縦位ミガキ	1/3残存 2.5Y R 7/4(淡赤橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	H59検出
31	弥生土器 台付甕	— 5.0 <3.3>	内外 杯部ミガキ・台部ヘラナデ→裾部横ナデ ナデ→縦位ミガキ	底部3/4残存 5Y R 8/4(淡橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	I区・カマド
32	弥生土器 台付甕	— (6.0) <4.4>	内外 杯部ミガキ 台部ヘラナデ→裾部横ナデ ナデ→縦位ミガキ	底部約1/2残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	IV区
33	土師器 甕	17.8 — <21.4>	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 胴部ナデ→胴下半に横ミガキ→口縁部 横ナデ	口縁部完形 10Y R 8/3(浅黄橙)・7.5Y R 6/3 (にぶい褐)	赤色粒子・白色粒子含む。 きめ細かい。	I区・II区

34	土師器 丸胴甕	15.3 7.3 33.6	内外 口縁部横ナデ→胴部～底部ヘラナデ 胴部ヘラナデ→口縁部横ナデ・底部ヘラ ケズリ	口縁部・底部一部欠損 10Y R 8/3(浅黄橙)	赤色粒子・白色粒子含む。 精選されている。	I区・II区・ III区・IV区
35	土師器 丸胴甕	(8.0) <5.0>	内外 横位ミガキ ナデ→縦位ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/3残存 10Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を少量含む。	III区
36	土師器 丸胴甕	— 9.4 <6.5>	内外 ナデ ミガキ(しかし磨減していて、単位つか めず)・底部ヘラナデ	底部完形 7.5Y R 5/3(にぶい褐)	白色粒子・黒色粒子含む。	IV区
37	土師器 丸胴甕	(19.9) — <10.1>	内外 口縁部横ナデ→横位ミガキ 胴部横位(ヘラ)ナデ 口縁部横ナデ→横位ミガキ 胴部ナデ→縦位ミガキ	口縁部1/4残存 10Y R 8/2(灰白)	1mmの白色粒子を多量含む。	IV区
38	土師器 丸胴甕	23.5 9.2 31.3	内外 口縁部横ナデ・胴～底部ハケ状工具によ るナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ・底 部ヘラケズリ→胴部雑なミガキ	口縁部・底部はほぼ完形 5Y R 6/4(にぶい橙)	赤色粒子・白色粒子・黒色粒 子含む。 注ぎ口あり。	II区・ 8え8G検出
39	土師器 丸胴甕	— 9.5 <6.1>	内外 ハケナデ ナデ→ミガキ・底部ヘラナデ	底部3/4残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。 緻密。	II区・III区・ IV区検出
40	土師器 甕	19.9 4.5 39.3	内外 口縁部横ナデ→胴～底部(ヘラ?)ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ・底 部ヘラケズリ	底部完形 口縁部1/2残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	2～3mmの小石を多量に含 む。	I区・II区
41	土師器 甕	(18.3) — <19.6>	内外 胴部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/2残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。 胴部ススが厚く附着する。	I区・II区
42	土師器 甕	— 5.2 <12.7>	内外 ヘラナデ 胴部縦位ヘラケズリ→胴下半横位ヘラ ケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 7.5Y R 3/2(黒褐) 7.5Y R 3/1(黒褐)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	不明
43	土師器 甕	— 6.3 <30.3>	内外 ハケナデ(横位) 胴部ハケナデ(縦位)→口縁部(頸部)横 ナデ	底部3/4残存 10R 6/3(にぶい赤橙)	小石を含む。 外面にススが厚く附着する。 歪みが大きい。	I区・II区・ カマド

## 26) H 28号住居址 (第45図、第25表、図版十九・五十二)

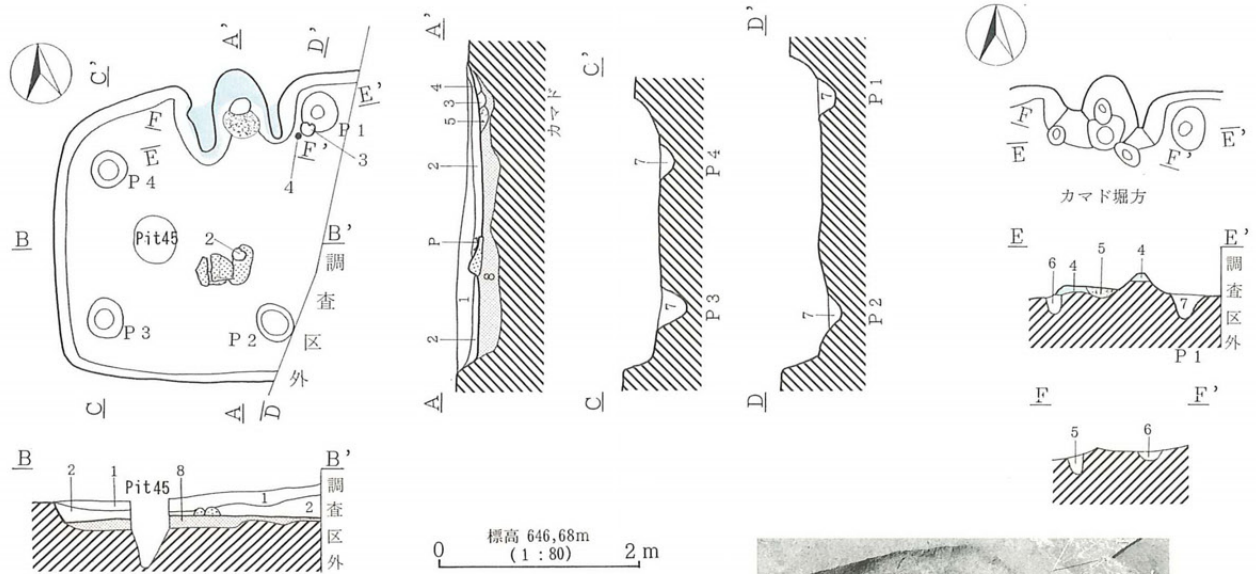
6い8グリットにあり、東側は調査区域外で、調査できなかった。単独ピットP45に切られる。南北272cm、深さ28cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-4°-Wである。カマドは袖と焼土範囲が残り、袖は地山を掘り残して、粘土を貼っている。主柱穴はP1～P4で径32～40cm、深さ16～28cmを測る。

掲載資料は土師器杯(1～4)、鉢(5)、小型丸底壺(6)がある。1・2の土師器杯は素縁で口縁部全体が内湾し、内外面ミガキ調整、3・4は浅い丸底から外稜を持って口縁が長く外傾外反する。内面はミガキ黒色処理。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第25表 H 28号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(11.3) — 5.3	内外 ミガキ ミガキ	底部1/2残存 5Y R 5/3(にぶい赤褐)	1mmの赤色粒子・黒色粒子、 1mm以下の白色粒子を含む。	II区・III区
2	土師器 杯	12.3 5.7 5.2	内外 ミガキ ミガキ	ほぼ完形(内面磨減) 5Y R 7/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子を含む。	
3	土師器 杯	12.7 8.8 4.0	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部7/8、底部完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量含 む。	
4	土師器 杯	(13.0) (8.6) <4.6>	内外 横位ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 N5Y 3/1(オリーブ黒) 外 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒 子を含む。	I区
5	土師器 鉢	(13.6) — <8.1>	内外 胴部ナデ→口縁部横ナデ→黒色処理 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R 6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒 子を少量含む。	II区・III区・ カマド
6	土師器 小型壺	(11.0) — <4.5>	内外 ミガキ ミガキ	底部1/6残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を少量含 む。	II区

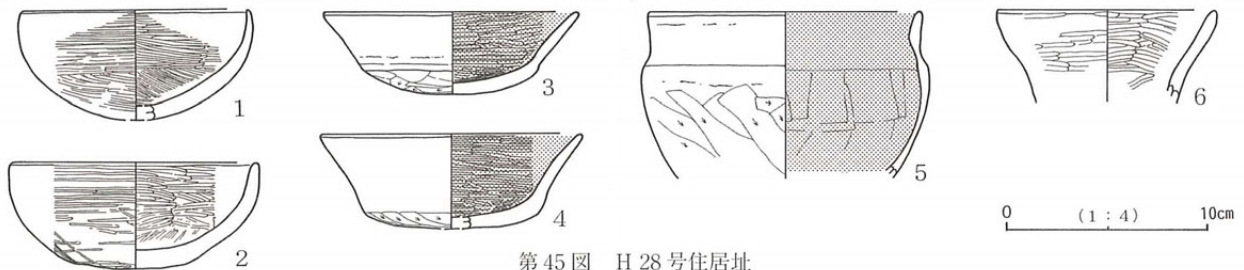
1. 古墳時代



H 28 土層説明

1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 浅黄橙色 (10YR8/4) のローム粒子を少し含む。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 浅黄橙色 (10YR8/4) のローム粒子を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土粒子を含む。
4. 褐灰色土層 (10YR5/1) 粘質土。(カマド構築土)
5. 明赤褐色土層 (5YR5/8) 焼土。
6. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土粒子を含む。
7. 黄橙色土層 (10YR5/6) 黒褐色 (10YR3/1) 粒子・パミス・炭化物を少し含む。
8. 浅黄橙色 (10YR8/4) 砂粒と黒褐色土 (10YR3/1) の混在土層。(堀方)

H 28 号住居址 (東より)



第45図 H 28 号住居址

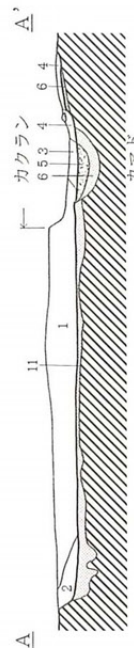
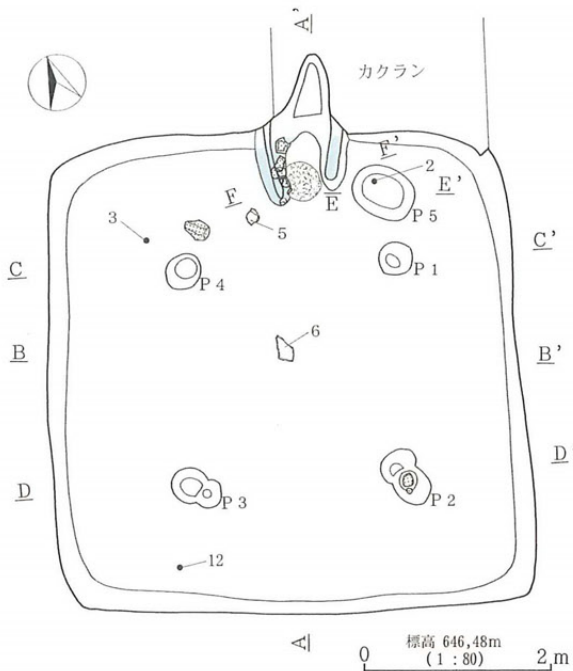
第26表 H 29 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(9.5) — <2.6>	内外 ロクロナデ	一部分のみ残存 N5/0(灰)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	Ⅱ区1層
2	土師器 杯	11.6 7.5 4.7	内 口縁部横ナデ・みこみ部ヘラナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ→体部～底部ケズリ→粗いミガキ	底部完形(外面摩滅) 5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	
3	土師器 杯(手捏)	(10.8) — 4.5	内外 ナデ 体部ナデ・底部ハケナデ	口縁部1/2・底部完形 5Y R 7/2(にぶい黄橙)	白色粒子を含む。(大粒)	
4	土師器 甕? (ミガキ甕)	(4.0) — <2.1>	内外 ミガキ	底部1/2残存 7.5 Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	Ⅱ区2層
5	土師器 甕	(21.2) — <14.1>	内外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/4残存 10Y R 8/2(灰白)	1mmの白色粒子・赤色粒子を少量含む。 小石を含む。緻密。	Ⅱ区1層・ Ⅲ区
6	土師器 甕	(6.0) — <31.3>	内外 横位ヘラナデ 斜位ヘラケズリ	底部一部残存 2.5 Y R 6/2(灰赤)	3mm～5mmの小石を多く含む。	Ⅲ区



27) H 29 号住居址 (第46・47図、第26表、図版二十・五十二)

6か4グリットにあり、弥生時代のH51・53とH60を切る。南北473cm、東西464cmの方形を呈す。北側上面に攪乱が一部あった。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-17°-Eを測る。カマドは内側に河原石を立てて芯材にし粘土を貼ったものである。主柱穴はP1~P4で円形ないし、ひょうたん型を呈し、短径36cm、深さ48~68cmを測る。北東のカマド脇には楕円形の長径68cm、深さ16cmを測る浅いピットがある。

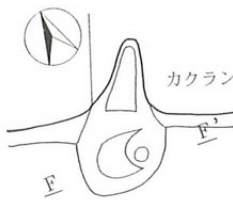
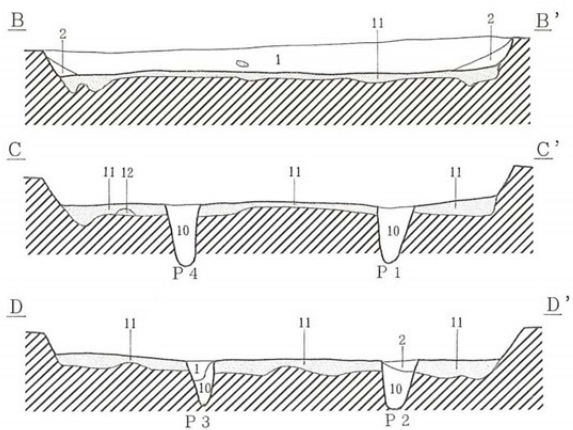


H 29 土層説明

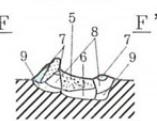
1. 黒褐色土層 (10YR2/1) シルト粒子・炭化物を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルトブロック・砂を含む。
3. にぶい橙色土層 (5YR6/4) 焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
4. 黒褐色土層 (5YR2/1) 粘土ブロック・炭化物を少量含む。
5. 黒褐色土層 (5YR2/1) 焼土粒子を微量に含む。炭化物粒子を含む。(火熱による焼け込み)
6. 黒褐色土層 (10YR3/1) 粘土ブロックを含む。(カマド堀方)
7. 灰褐色土層 (10YR5/2) カマド粘土 (カマド構築土)
8. 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 粘土ブロック・ローム粒子 (砂) を含む。(カマド堀方)
9. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂粒子を多量に含む。(ピット)
10. 黒褐色土層 (10YR3/1) 灰白色 (10YR8/1) 粒子含む。
11. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色 (10YR5/6) シルト質土と黒褐色シルト質土混在土。(堀方埋土)
12. 黄褐色土層 (10YR5/6) シルト質土。



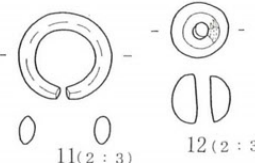
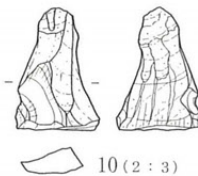
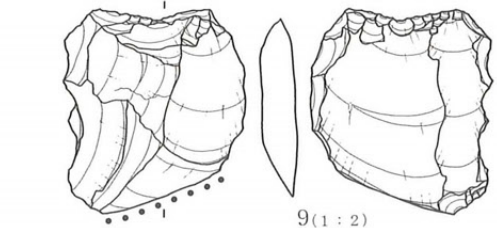
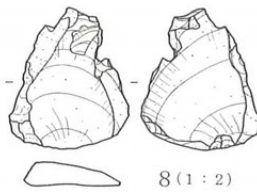
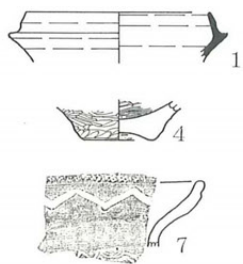
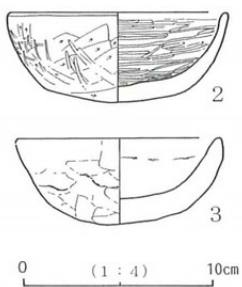
H 29 号住居址 (南より)



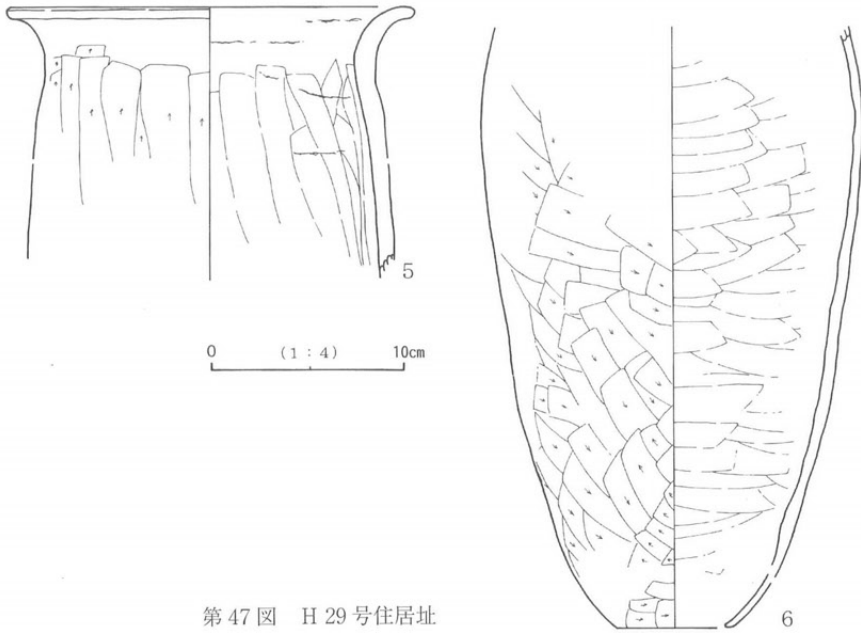
カマド堀方



H 29 号住居址遺物出土状況 (南より)



第46図 H 28 号住居址



第 47 図 H 29 号住居址

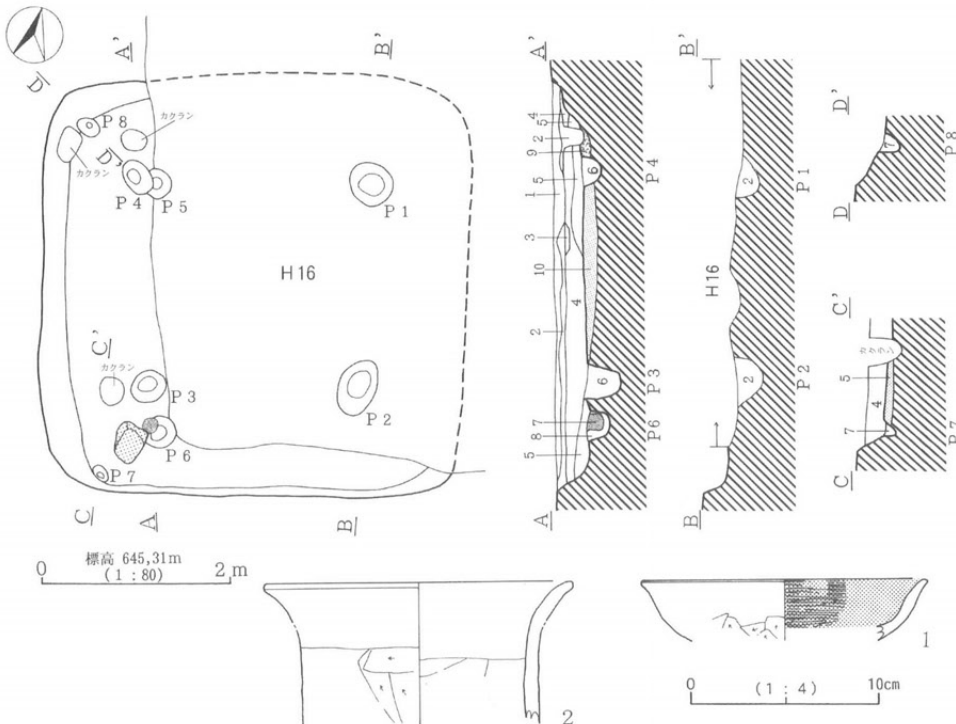
掲載資料は須恵器杯身(1)、土師器杯(2・3)・長胴甕(5・6)・ミガキ甕(4)、青銅製金環(11)、黒色のシルト岩製丸玉(12)、黒耀石の剥片(8・10)、ガラス質黒色安山岩の剥片石器(9)がある。1の須恵器杯身は小片で、器形は明らかではないが、立ち上がりの口縁端部は丸く内傾し短い。TK217号窯型式の形態であり、7C前半中葉の時期が与えられている。2の土師器杯は素焼でミガキ調整、3は成形されず、手捏状である。6の甕は口縁部欠損しているが、武蔵甕である。

これらは古墳時代後期の土器群であろう。

28) H 30 号住居址 (第48図、図版二十一・五十二)

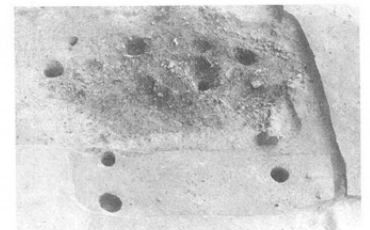
7お1グリットにあり、H16に切られ、H40を切る。南北400cm、東西は推定で390cm の方形を呈す。大半をH16に切られ、カマドは検出されていないが北側セクション面付近に焼土がみられた。P1～P4が主柱穴で、径36～48cm、深さ20～36cmを測る。P3・P4からやや位置をずらしてP5・P6が堀方で検出されたが、旧ピットであろう。

掲載遺物は土師器杯(1)・甕(2)がある。いずれも破片で、良好な資料ではないが、長胴甕、丸胴甕片、弥生式土器がある。土師器杯は丸底から曖昧な稜を持って、わずかに外傾外反する。内外面ミガキ処理される。長胴甕は小破片で不明確だが最大径を口縁に持つ様である。古墳時代後期と推測される。



H 30 土層説明

1. にぶい黄褐色土層(10YR6/4) 灰・焼土・炭化物含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色(10YR6/4)砂粒を含む。
3. 暗褐色土層(10YR3/4) 貼り床が薄くあり。あまり締まりなし。
4. 黒褐色土層(10YR3/2) 焼土・粒子を含む。
5. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山のにぶい黄褐色土(10YR4/3)粒子を含む。
6. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂質土。
7. 黒褐色土層(10YR2/3)
8. 暗褐色土層(10YR3/3)
9. 明赤褐色土層(10YR5/8) 焼土層。 H40住カマド。
10. 黒褐色土層(10YR2/2)



H 30 号住居址 (西より)

第 48 図 H 30 号住居址

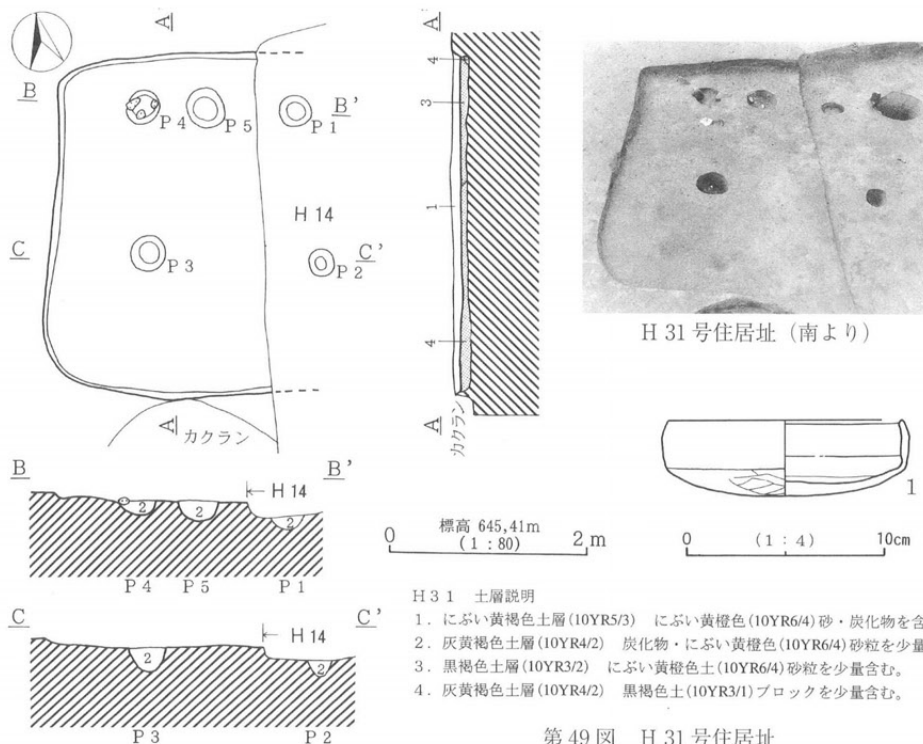
第27表 H 30号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(15.2) — <3.2>	内 横位ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ→体部ケズリ	口縁部1/8残存 内 5Y R3/1(黒褐) 外 7.5Y R6/2(灰褐)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黒色粒子含む。	東
2	土師器甕	(16.6) — <7.6>	内 胴部ヘラナデ→口縁部横ナデ 外 胴部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/6残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	緻密。 1mmの白色粒子・黒色粒子含む。	西

29) H 31 号住居址 (第49図、第28表、図版二十一・五十二)

7お2グリットにあり、H14に切られ、H40を切る。南北326cmで東西はわからない。深さ14cmと浅い。カマドは検出されていない。柱穴はP1～P4が主柱穴かと推測される。

実測資料は土師器杯(1)1点である。破片にはハケ目の甕、長胴甕胴部片、内面黒色処理鉢片など20点がある。1の土師器杯は須恵器杯蓋の模倣で、口縁部は扁平な底部から外稜を持って内傾気味に直立する。古墳時代後期の土器である。



H 31 土層説明

1. にぶい黄褐色土層(10YR5/3) にぶい黄褐色(10YR6/4)砂・炭化物を含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 炭化物・にぶい黄褐色(10YR6/4)砂粒を少量含む。
3. 黒褐色土層(10YR3/2) にぶい黄褐色土(10YR6/4)砂粒を少量含む。
4. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 黒褐色土(10YR3/1)ブロックを少量含む。

第28表 H 31号住居址出土遺物一覧表

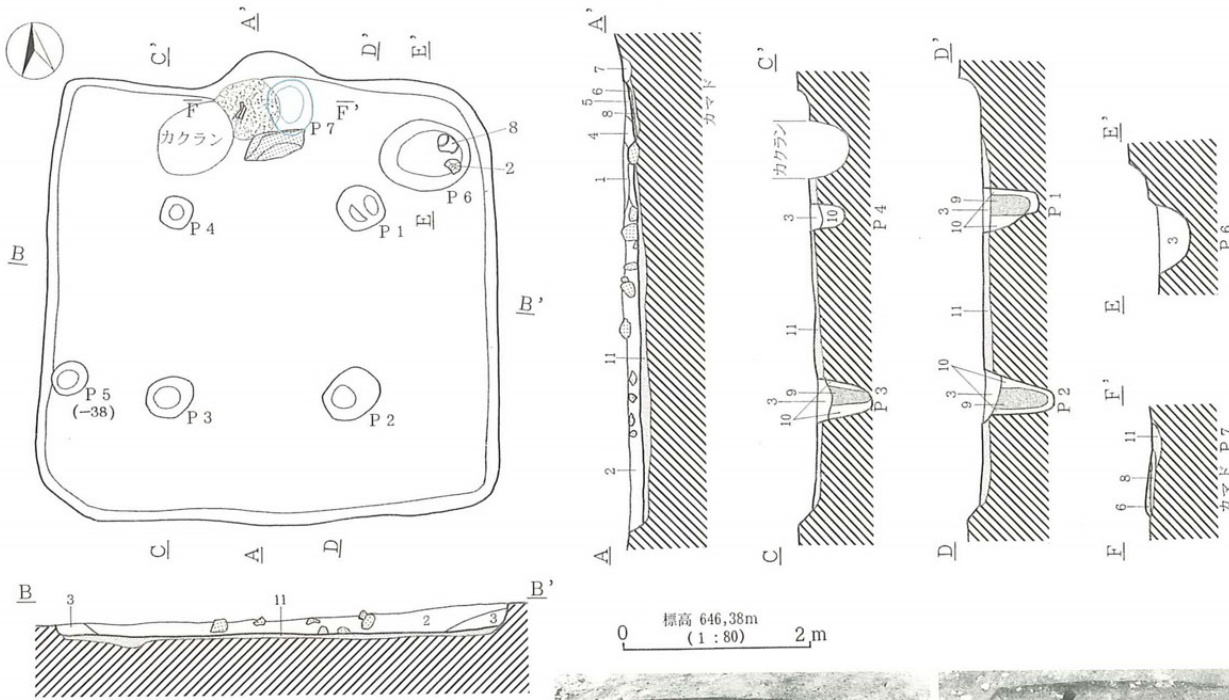
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(11.8) (12.0) 3.8	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ	口縁部1/3残存 5Y R5/2(灰黄褐)・2.5Y R7/4 (淡赤橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子をわずか含む。	東

30) H 32 号住居址 (第50図、第29表、図版二十一・五十三)

6く6グリットにあり、南北427cm、東西452cm、壁残高25cm の方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、N-7°-Eを指す。カマドは火床と、落下した焚口の框石が残っていた。覆土中からは多量の礫が出土している。主柱穴はP1～P4が検出され、円形ないし楕円形を呈し、短径36～48cm 深さ36～78cm を測る。住居址北東には上面に甕と杯が置かれたP6があり、楕円を呈し、長径50cm、深さ32cmを測る。

掲載遺物は土師杯(1～3)・高杯(4)・甌(6・7)・小型甕(5)・長胴甕(8)がある。1と3は橙色杯

で、粉末質胎土の薄手タイプ、2は厚手、扁平に近い浅い丸底部から口縁は外稜を持って外傾、中位に段を持っている。内面ミガキ黒色処理される。8の長胴甕は口縁部に最大径を持ち胴部外面は縦にヘラケズリされる。古墳時代後期の土器群であろう。

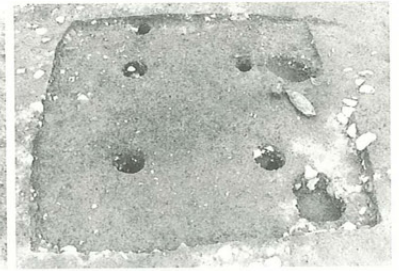


H32 土層説明

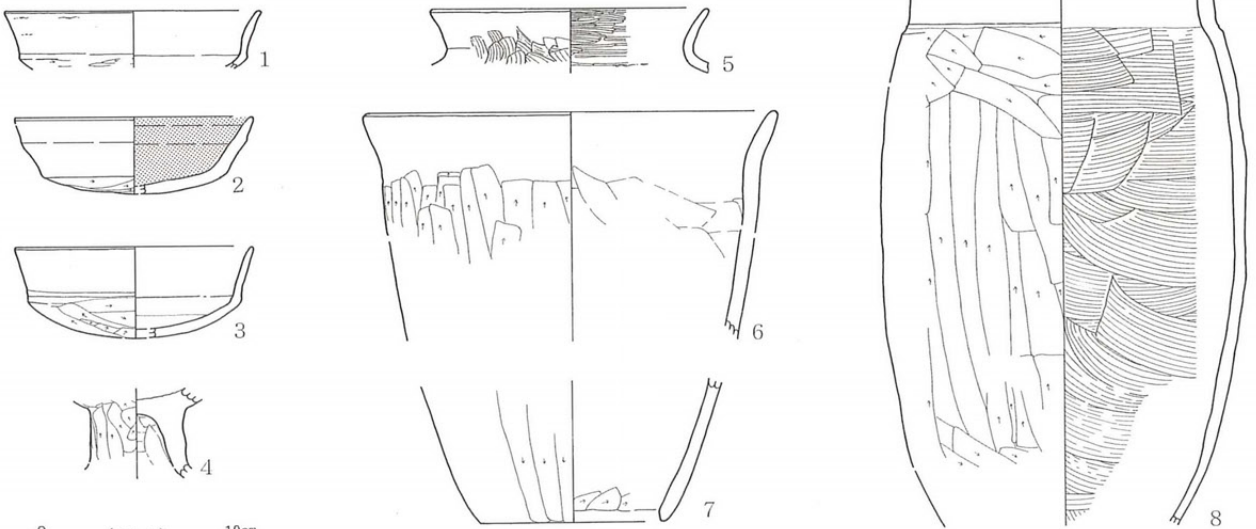
1. 暗褐色土層 (5YR3/4) 粘土ブロック・焼土粒子を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子を多量に含む。
3. 黒色土層 (10YR2/1) シルト質土粒子を含む。
4. 暗褐色土層 (5YR2/1) 焼土粒子・焼土ブロックを含む。
5. 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 灰・炭化物・焼土ブロックを含む。
6. にぶい赤褐色土層 (5YR4/4) 焼土。
7. 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 焼土粒子を少量含む。
8. 黒褐色土層 (5YR2/2) 焼土粒子・シルト質粒子を含む。(カマド掘り方)
9. 黒褐色土層 (10YR2/1) シルト質土粒子・砂を少量含む。(柱痕)
10. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂粒子多く含む。(ピット掘方)
11. 黒褐色土層 (10YR3/2) 小石・砂・シルト質土ブロックを含む。(堀方)



H 32 号住居址礫出土状況 (東より)



H 32 号住居址 (東より)



第 50 図 H 32 号住居址

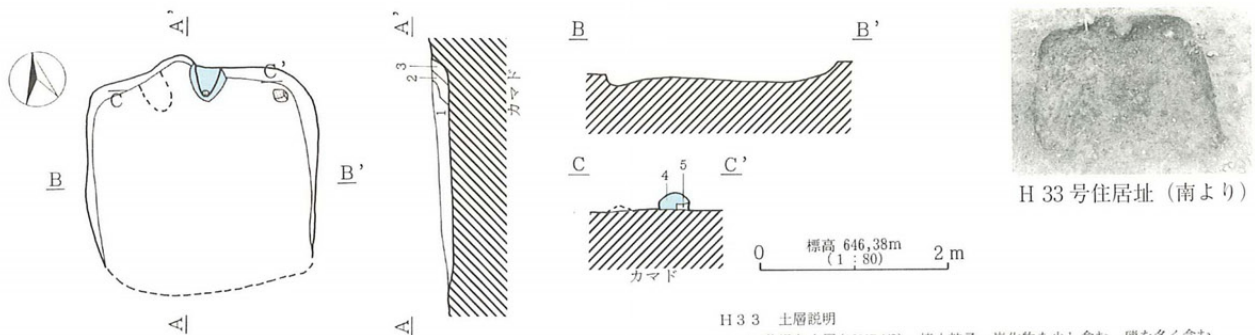
第29表 H 32号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(13.6) (12.0) <3.0>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 2.5Y R7/4(淡赤橙)	緻密。	Ⅳ区
2	土師器杯	12.6 9.8 4.0	内外 口縁部横ナデ→ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部3/4残存(摩滅) 内 10Y R4/1(褐灰) 外 10Y R7/1(灰白)	赤色粒子多量含む。	Ⅰ区
3	土師器杯	(12.6) (11.2) 4.8	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 2.5Y R7/4(淡赤橙)	緻密。	検出
4	土師器高杯	— — <4.6>	内 ヘラナデ(横位ヘラナデ→部分的に、縦位ヘラナデ) 外 縦位ヘラケズリ	脚部のみ残存 5Y R8/3(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色粒子を含む。	Ⅰ区
5	土師器小型甕	(14.8) — <3.4>	内外 口縁部横位ミガキ・胴部ナデ 口縁部横ナデ→頸部～ハケナデ	口縁部1/5残存 10Y R4/1(褐灰)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子を含む。 緻密。	検出
6	土師器甕	(12.0) — <11.9>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部2/3残存 5Y R8/4(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。 7と同一個体。	カマドⅢ区
7	土師器甕	— (9.8) <7.4>	内外 ナデ→底部周縁ヘラケズリ 縦位ヘラケズリ	底部1/6残存 5Y R8/3(淡橙)	2mm以下の赤色粒子・黒色粒子、1mm以下の白色粒子を含む。 6と同一個体。	カマド
8	土師器甕	(20.2) — <30.1>	内外 胴部横位ハケナデ→口縁部横ナデ 胴部縦位および斜位ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部3/4残存 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子、1～2mmの赤色粒子を含む。	Ⅰ区

## 31) H 33号住居址 (第51図、図版二十二)

6き9グリットにあり、小型の住居で、南北228cm、東西227cm、壁残高23cmの方形を呈す。北壁中央にカマドがあり、主軸方位はN-10°-Eを指す。柱穴等は検出されていない。

出土遺物はいずれも破片で、土師器・弥生式土器がある。土師器杯は丸底、素縁で内外面ミガキがある。丸胴甕片は大型品で外面胴部ヘラケズリ後ミガキ調整される。実測資料はない。破片は古墳時代後期のものである。



H 33号住居址 (南より)

## H 33 土層説明

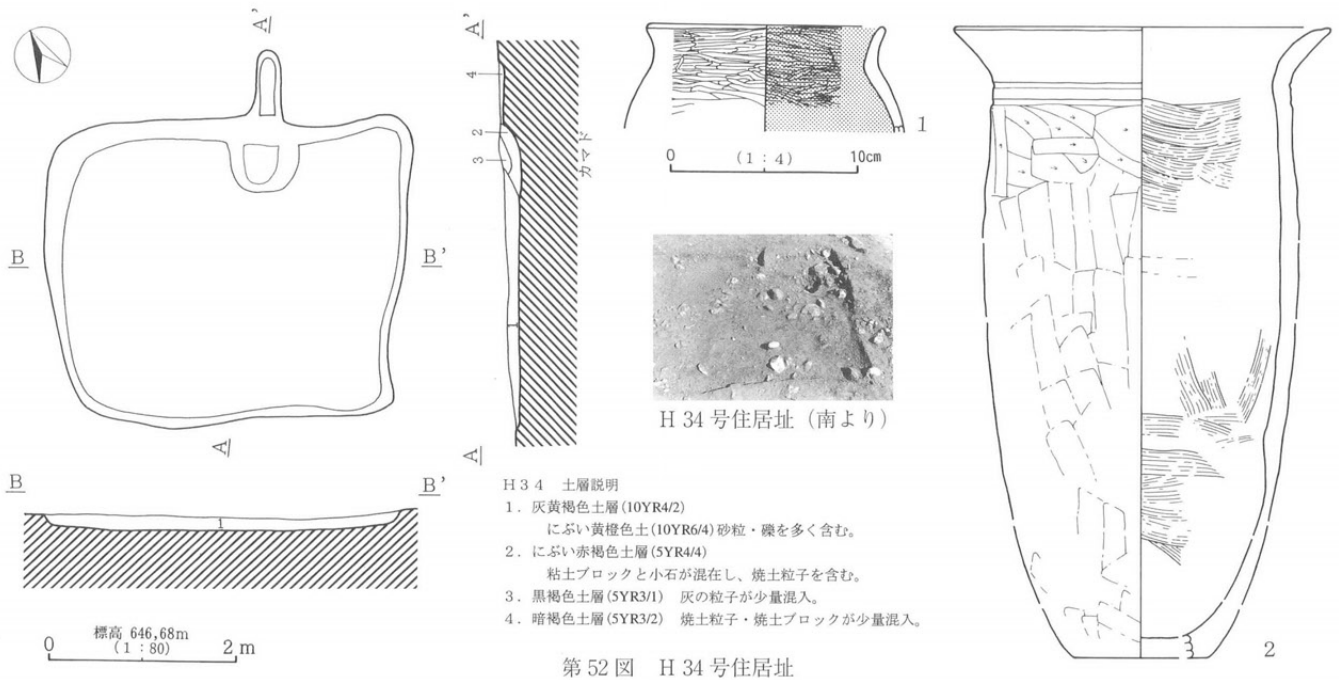
1. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 焼土粒子・炭化物を少し含む。礫を多く含む。
2. 黒褐色土層(5YR2/1) 炭化物・灰を少量含む。
3. 灰褐色土層(5YR2/4) 炭化物・焼土粒子・焼土ブロックを含む。
4. 褐灰色(5YR4/1)・灰褐色(5YR2/4)混在土層 焼土粒子・粘土ブロックが混在。
5. 黒褐色土層(5YR3/1) 砂粒子混入。

第51図 H 33号住居址

## 32) H 34号住居址 (第52図、第30表、図版二十二・五十三)

6え9グリットにあり、F13を切る。南北291cm、東西352cmと東西に長い長方形を呈する。カマドは北壁中央にある。ピットは検出されていない。

掲載資料には土師器鉢(1)、長胴甕(2)がある。鉢は内面ミガキ黒色処理、外面ミガキの甕形の鉢である。2の長胴甕は口縁部に最大径を持ち、底部径が比較的大きい。胴部外面はヘラケズリされる。これらは古墳時代後期の土器群であろうか。



H 34 土層説明  
 1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)  
 にぶい黄橙色土 (10YR6/4) 砂粒・礫を多く含む。  
 2. にぶい赤褐色土層 (5YR4/4)  
 粘土ブロックと小石が混在し、焼土粒子を含む。  
 3. 黒褐色土層 (5YR3/1) 灰の粒子が少量混入。  
 4. 暗褐色土層 (5YR3/2) 焼土粒子・焼土ブロックが少量混入。

第 52 図 H 34 号住居址

第 30 表 H 34 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器鉢	(12.8) — <5.6>	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R8/3(淡橙)	緻密。	検出
2	土師器甕	(20.0) (7.0) <33.5>	内 口縁部横ナデ→胴～底部ハケ状工具によるナデ 外 口縁部横ナデ→胴部・底部ナデ→胴上半ヘラケズリ	口縁部1/7、底部1/3残存 7.5Y R5/2(灰褐)	口縁部に2条のヘラ描沈線あり。 緻密。	I区・検出

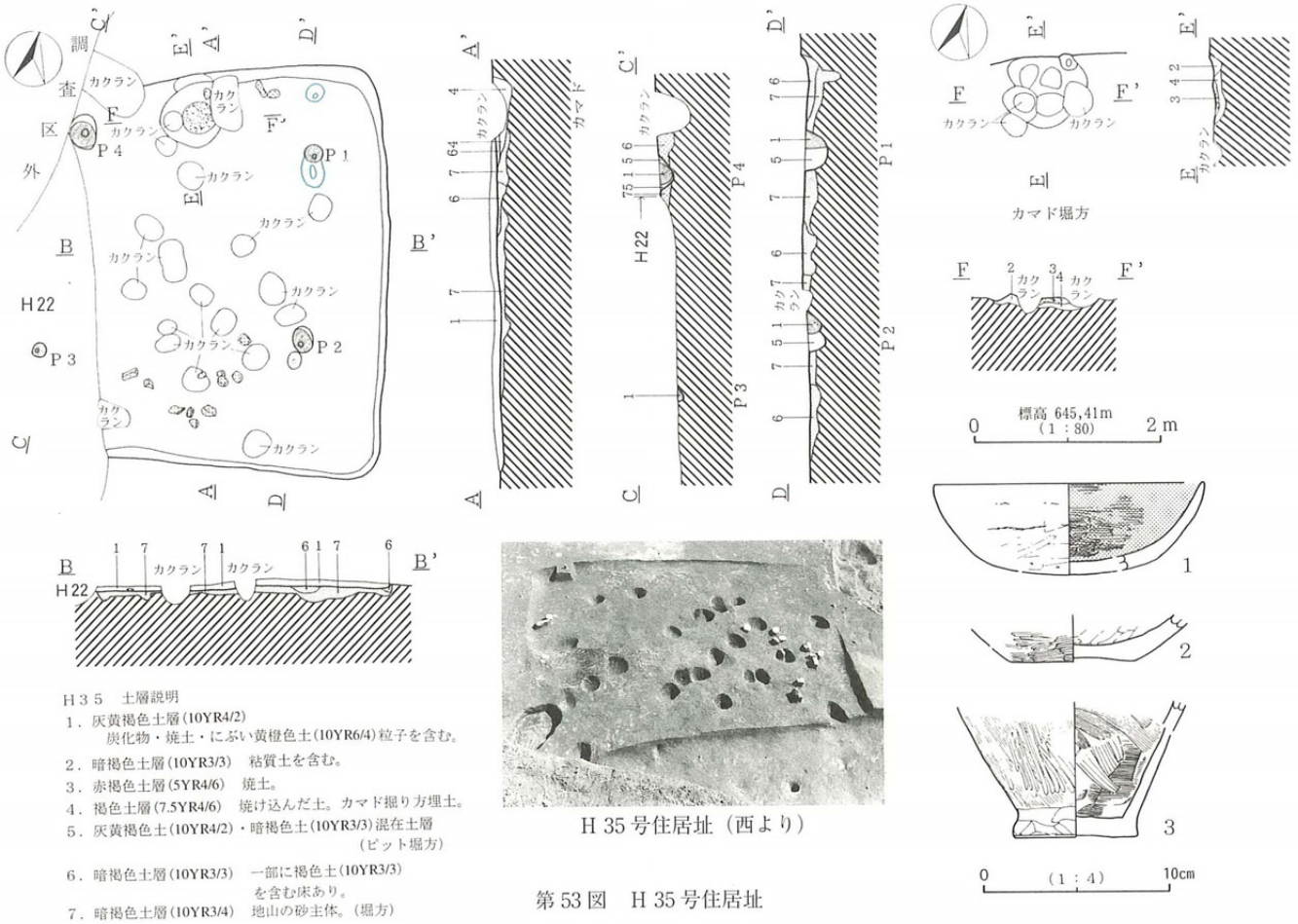
33) H 35 号住居址 (第53図、第31表、図版二十二・五十三)

7き1グリットにあり、古墳時代のH22に切られ、古墳時代のH40・弥生時代のH42・M3を切る。南北405cm、H22に切られ東西はわからない。深さは11cmと浅い。カマドは北壁にあり、主軸方位はN-13°-Wを指す。遺構面は浅いピット状の攪乱が多くあった。主柱穴はP1～P4であろうが、いずれも浅い。

掲載遺物は土師器杯(1)、弥生式土器(2・3)である。1の土師器杯の口縁は素縁で、全体に内湾外傾し、内面ミガキ黒色処理される。土師器破片数は23点と少ない。弥生式土器の赤色塗彩された、杯ないし鉢片が割に多く混入している。

第 31 表 H 35 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(14.6) — <4.65>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→体部ナデ	口縁部1/6残存 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を多く含む。	II区
2	弥生土器甕	— 6.6 <2.4>	内外 ナデ ミガキ	底部3/4残存 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。	I区堀方
3	弥生土器甕	— 6.7 <7.2>	内外 ハケ状工具によるナデ ハケ状工具によるナデ→部分的にミガキ	底部完形 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	I区・ I区堀方



34) H36号住居址 (第54図、第37表、図版二十二・五十三)

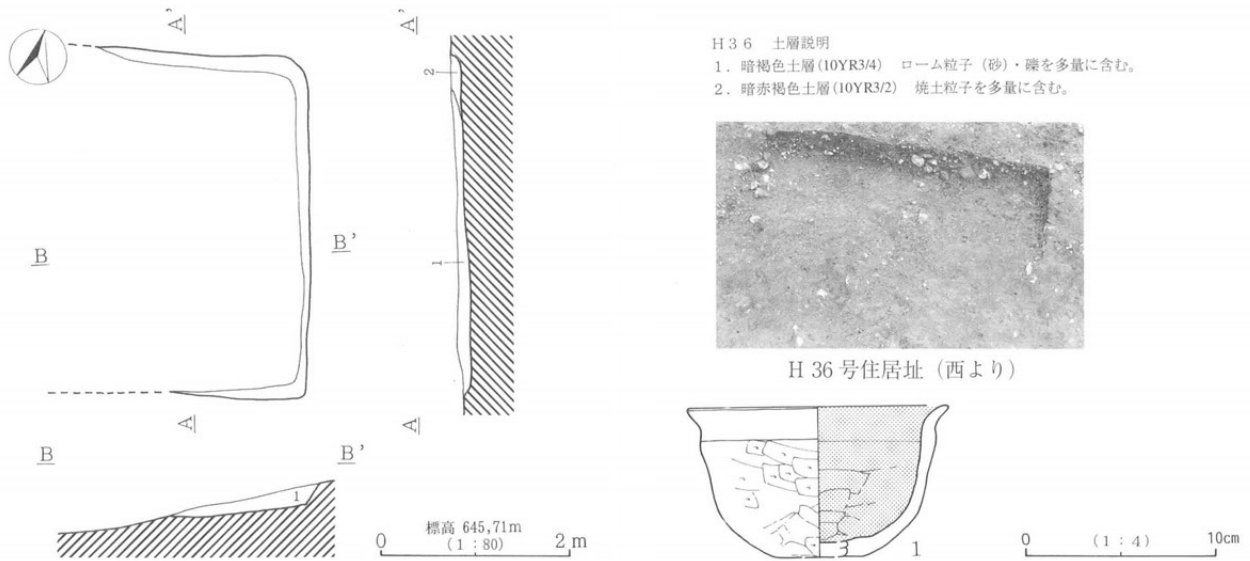
7あ6グリットにあり、傾斜地のために、西側はなかった。南北334cm、深さ0~30cmを測る。方形基調の形態であろうか。カマド・柱穴は検出されていない。主軸方位はN-14°-Wを測る。

掲載遺物は土師器鉢(1)で、内面ナデ黒色処理、外面胴部はヘラケズリされる。他に土器破片では、古墳時代後期の土師器杯・長胴甕片、弥生式土器片がある。1点だけ平安時代の鍋甕に近い破片がある。口縁端部が短く外方に折れ、厚手の破片である。実測された鉢は古墳時代後期のもので、破片も古墳時代後期のものが32片中24片を占めている。

第37表 H36号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器鉢	(13.8) (4.6) 7.8	内 へらナデ→口縁部横ナデ→黒色処理 外 胴部・底部ケズリとナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/6残存 内 N2/0(黒) 外 5YR5/2(灰褐)・10YR6/6(赤橙)	赤色粒子・1mm以下の白色粒子含む。	I区

1. 古墳時代



第 54 図 H 36 号住居址

35) H 38 号住居址 (第55・56・57図、第33表、図版二十三・五十三・五十四)

5 け 1 グリットにあり、排水溝により攪乱され、カマドや壁の一部が壊されている。南北710cm、東西676cm、壁残高31cmの南北に長い方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-2°-Wを指す。主柱穴はP 1~P 4で円形で径68cm、深さ52~68cmを測る。いずれにも柱痕がみられた。カマドの東には隅丸長方形のピットがあり、長さ96cm、深さ44cmを測る。間仕切り溝が壁からP 2・P 3へ、P 4の北側と3カ所確認された。

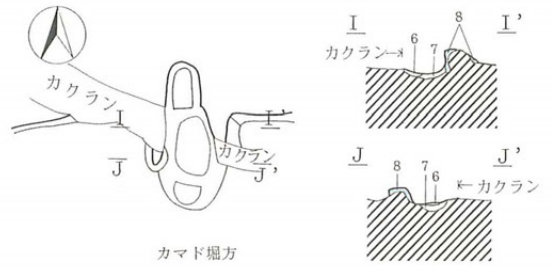
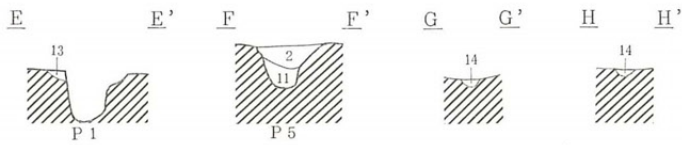
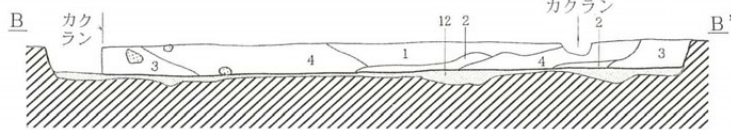
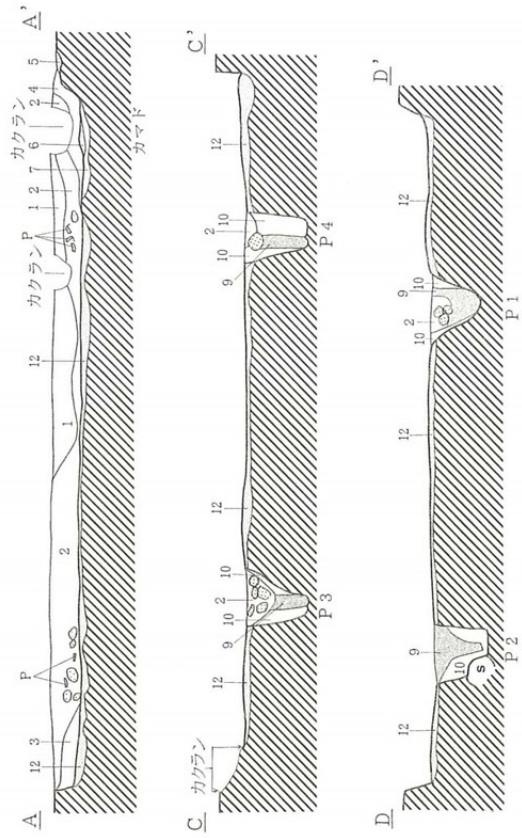
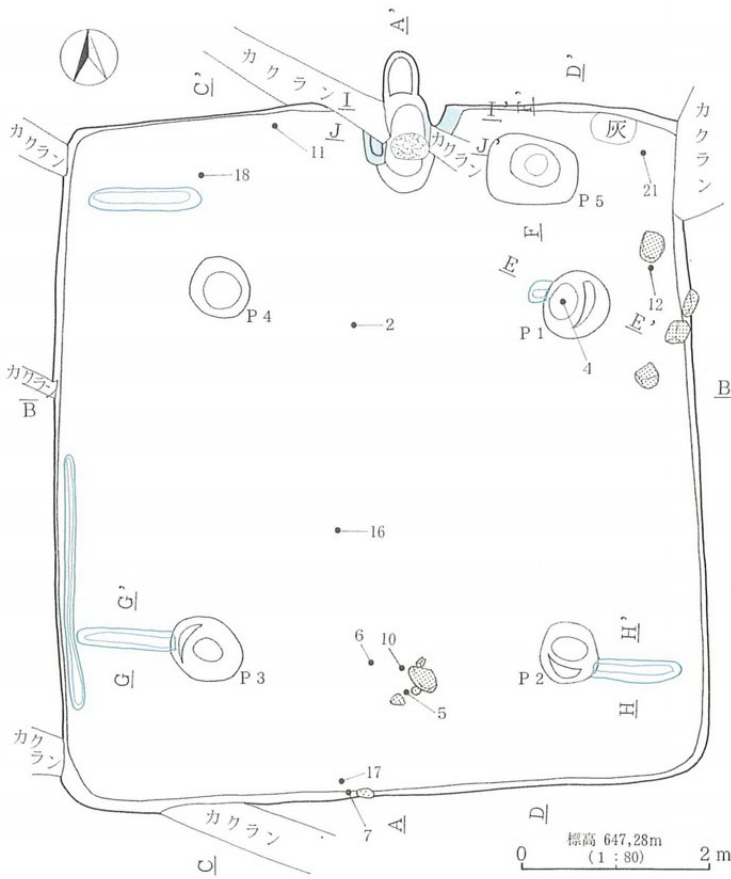
掲載遺物は土師器杯(1~9・19)、高杯(18)、甑(10・29)、鉢(11~14・16・17・21・22・24)、丸胴甕(23)長胴甕(25~28)、弥生式土器(30~40)、黒耀石製石鏃(42)、安山岩製スリ石(44)、ガラス質黒色安山岩製剥片石器(43)がある。1の土師器杯は須恵器杯身模倣杯で器肉が薄く精製品である。3の器形は模倣杯であるが分厚く内面はミガキ調整される。4・6・7は器高が比較的深く厚ぼったい作りで、丸底から口縁部は横ナデで曖昧な稜を作り、口縁は外反気味である。内面はミガキ黒色処理される。5は浅い皿形で類似する。2は明確な外稜が中位にあり、外反し端正である。8は扁平で素口縁で底部との外稜を待たず内湾して、外方に開く。内外面ミガキ調整される。9は浅い丸底から下方に外稜を持って長く口縁を延ばし、内面ミガキ黒色処理、外面ミガキ調整である。19は内外面ミガキであるが外面は赤色塗彩された痕跡がある。長胴甕は口縁部の外反はそれほど強くなく、最大径が口縁・胴部ともにある。底部は厚く台状である。28は胴部ヘラケズリ後ミガキ調整される。これらの土器群は古墳時代後期のものであろう。

また弥生時代中期後半の土器が多く出土しており、掲載した。

第 33 表 H 38 号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.1) - 4.3	内外 横ナデ 底部ケズリ・口縁部横ナデ	口縁部1/2残存(底部剥離) 5Y R8/4(淡橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子含む。小石含む。	Ⅲ区
2	土師器杯	12.7 - 12.0 4.8	内外 みこみ部ナデ→口縁部横位ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	完形 7.5 Y R8/3(浅黄橙)	赤色粒子を多量(1mm以下)・白色粒子を少量含む。外面にスス附着。	
3	土師器杯	(14.2) - 4.4	内外 ミガキ 口縁部横ナデ(工具使用)・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 7.5 Y R7/3(にぶい橙)	厚手。 緻密。	I区
4	土師器杯	14.1 - 5.7	内外 体部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ→黒色処理 体部ナデ→底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部ほぼ完形(内面摩滅) 内 N2/0(黒) 外 10R5/6(赤)	白色粒子・赤色粒子含む。	I区・P1・ I区堀方・ H43
5	土師器杯	15.6 - 5.0	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	完形 7.5 Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子含む。	
6	土師器杯	13.8 - 5.6	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ・体部ナデ→ミガキ(わずかに)	口縁部2/3残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	白色粒子を多量含む。	



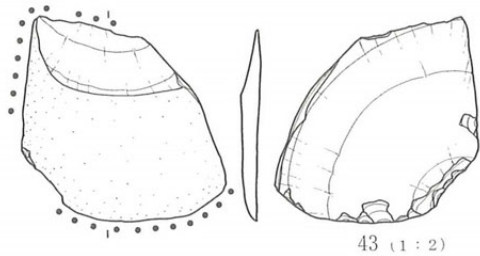
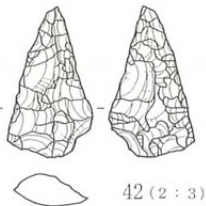
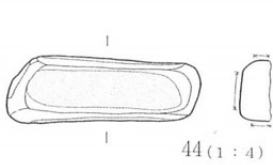


H38 土層説明

1. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色(10YR6/4) 砂粒を多量に含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) バミス少量含む。
3. にぶい黄褐色土層(10YR5/3) 砂の二次堆積。バミス少量含む。
4. 1層と同一。にぶい黄褐色土(10YR6/4)が1層との境界に帯状に堆積する。
5. 灰褐色土層(7.5YR4/2) 焼土ブロック・粘土ブロックを含む。
6. 明赤褐色土層(5YR5/6) 焼土。
7. 明赤褐色土層(5YR5/6) 地山の中に、若干の焼込み。黒色土・粘土ブロックが混在。
8. 褐色土層(7.5YR4/3) 粘質土。内側は焼け暗赤褐色(5YR3/4)を呈す。
9. 褐灰色土層(10YR4/1) 柱痕。
10. 灰黄褐色・黄褐色(10YR5/6)・黒褐色(10YR3/1)の混在土層。(ピット掘方)
11. 褐灰色土層(10YR5/1) 黄褐色(10YR5/6)シルト質土粒子を少量含む。(P5)
12. 褐色土層(10YR4/4) 地山の砂粒・砂ブロックを多量に含む。(貼床)
13. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂質土層。地山のブロックを多量に含む。(P1西ピット)
14. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂質土層。地山の砂粒・石のブロックを含む。(間仕切溝)



H38号住居址(南より)

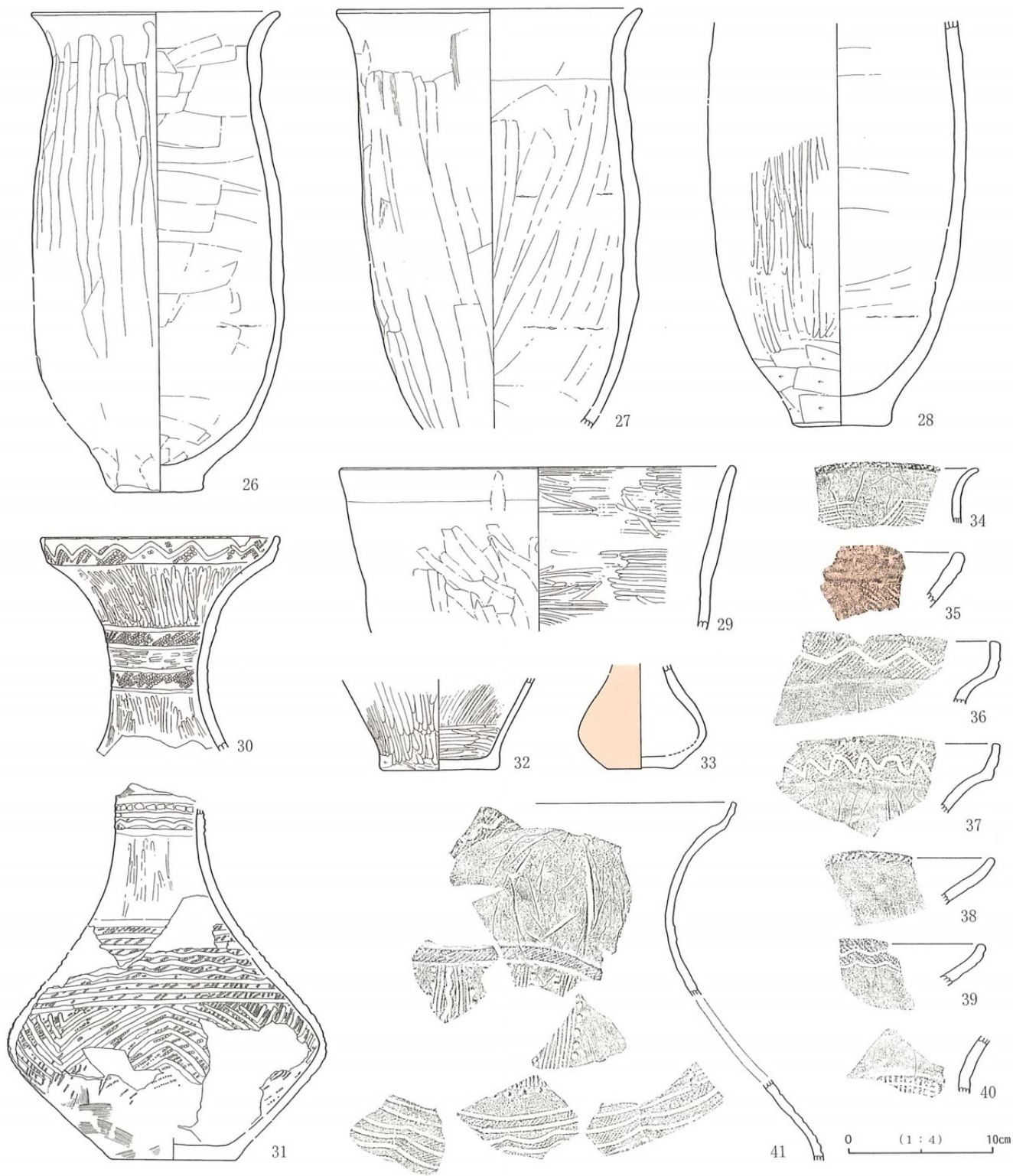


第55図 H38号住居址

1. 古墳時代



第56図 H38号住居址



第57图 H38号住居址

第33表 H 38号住居址出土遺物一覧表(2)

7	土師器 杯	(13.6) — 5.6	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R5/1(褐灰)	赤色粒子・白色粒子含む。	
8	土師器 杯	(14.3) — 4.0	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/3残存 10Y R8/2(灰白)	緻密。	Ⅳ区
9	土師器 杯	15.0 6.5 4.1	内外 ミガキ→黒色処理 横ナデ→ミガキ	口縁部1/2残存・底部完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R6/6(橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	Ⅳ区
10	土師器 甌	— 8.0 <11.1>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部外周ほぼ完形 5Y R7/6(橙)	1mmの赤色粒子・1mm以下の白色粒子を多量含む。多孔から単孔に変こうか?	Ⅲ区
11	土師器 鉢	(16.1) — 8.8	内外 ミガキ ミガキ(雑なミガキ)	口縁部1/3残存 5Y R8/2(灰白)	緻密。	カマド
12	土師器 杯	14.0 — 7.3	内外 口縁部横ナデ→体部~底部ヘラナデ 口縁部横ナデ・体部ヘラナデ→底部ヘラケズリ	ほぼ完形 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。	H43 Ⅰ区
13	土師器 鉢	— 8.6 <4.3>	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキが見られるが、単位つかめない。	底部1/3残存 内 N2/0(黒) 外 2.5Y R6/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
14	土師器 鉢	(15.0) — <4.9>	内外 横ナデ 胴部ケズリ→一部ミガキ→口縁部横ナデ	口縁部1/6残存 7.5Y R4/2(灰褐)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・砂粒を含む。	Ⅳ区
15	土師器 杯 手捏	(6.6) 4.4 4.5	内外 (指頭)ナデ ナデ	底部1/4、口縁部一部残存 10Y R8/1(灰白)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。 緻密。	Ⅱ区
16	土師器 鉢	11.7 6.4 9.8	内 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘラナデ→黒色処理 口縁部横ナデ→胴部ナデ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 N2/0(黒) 外 2.5Y R6/4(にぶい橙)	2mm以下の赤色粒子・1mm以下の白色粒子を多く含む。	
17	土師器 鉢	13.8 6.0 12.8	内外 口縁部横ナデ→ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・胴部ナデ→ミガキ	口縁部・底部完形 内 N2/0(黒) 外 5Y R7/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子含む。	
18	土師器 高杯	(18.2) — <5.7>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→一部ミガキ	口縁部1/4残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	
19	土師器 杯	(14.6) — <4.7>	内外 ミガキ 口縁部~体部・底部ヘラケズリ→ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/4残存 7.5Y R5/4(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。 緻密。	Ⅳ区
20	土師器 小壺	12.2 — <4.0>	内 口縁部横ナデ・胴部ハケメ→口縁部横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケメ	口縁部1/8残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の黒色粒子を含む。 緻密。	Ⅲ区
21	土師器 鉢	— 5.0 <9.6>	内外 横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部斜位ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 2.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	
22	土師器 鉢	— (7.0) <11.9>	内外 ミガキ→黒色処理 ヘラケズリ	底部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 2.5Y R6/6(橙)	1mm~3mmの白色粒子を含む。	Ⅲ区
23	土師器 丸胴甕	(21.0) — 35.0	内 口縁部横ナデ→胴~底部横位ヘラナデ→底部ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴~底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/2(灰褐)	1mmの赤色粒子・黒色粒子・1mm以下の白色粒子を含む。	検出
24	土師器 鉢 (把手付)	14.4 — <14.4>	内外 横位ミガキ→黒色処理(口縁部のみか?) ミガキ	口縁部3/4残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R8/3(淡橙)	白色粒子含む。	Ⅲ区・Ⅳ区
25	土師器 中型甕	(19.0) (5.3) 25.8	内外 口縁部横ナデ→胴~底部ハケメ 口縁部横ナデ→胴・底部ヘラケズリ	口縁部1/5残存 7.5Y R6/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子含む。	Ⅱ区
26	土師器 甕	17.1 6.2 33.1	内外 口縁部横ナデ→胴部~底部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘラナデ	口縁部2/3残存・底部完形 2.5Y R7/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
27	土師器 甕	21.1 — <24.0>	内外 胴部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→縦位ヘラナデ	口縁部1/2残存 7.5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。 外面に付着物あり。	Ⅲ区
28	土師器 甕	— 6.8 <27.8>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ→縦位ミガキ	底部完形 5Y R5/4(にぶい赤褐)	1mmの白色粒子多量含む。 粒子粗い。	Ⅱ区
29	土師器 甌	(27.6) — <11.2>	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ヘラナデ	口縁部1/3残存 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。	Ⅳ区

30	弥生土器壺	16.5 — <14.6>	内 口縁部ミガキ・頸部ハケナデ・胴上部ヘ ラナデ 外 口唇部横ナデ・口縁部縦位ミガキ・頸部 横位ミガキ・胴部縦位ミガキ 文 口唇部・頸部にL R縄文 口縁部ヘラ描山形文・頸部4条のヘラ描 横走平行線文	口縁部完形 7.5Y R8/4(浅黄橙)	ミガキは施文後。 緻密。	I区・II区
31	弥生土器壺	— 8.5 <25.9>	内 胴部～底部ハケナデ・頸部ナデ 外 口縁部・胴下半ハケナデ・頸部縦位ミガ キ 文 頸部L R縄文・ヘラ描刺突文・ヘラ描横 走平行線文・ヘラ描波状文 胴部中位L R縄文・3条のヘラ描横走平 行線文・3条のヘラ描波状文・3条 のヘラ描横走平行線文・ヘラ描連続 三角文	底部完形 10Y R8/2(灰白)・10Y R5/2 (灰黄褐)	1mm以下の白色粒子を含む。	II区
32	弥生土器壁	— (8.2) <6.2>	内 ミガキ 外 縦位ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 内外共にスス付着。	II区
33	弥生土器壺	— 4.5 <7.1>	内 ナデ 外 ミガキ→赤色塗彩・底部ナデ	底部完形 10R4/8(赤色)	緻密。	I区

## 36) H 40 号住居址 (第58図、第34表、図版二十四・五十五)

7お1グリットにあり、H14・H15・H16・H30・H31・H35に切られ、H42を切る。重複が激しく、調査時は十分に把握できなかった。南北700cm、東西712cmの方形を呈し、壁残高は12cmの方形を呈す。カマドは北壁に焼土範囲が残っており、カマドと推測される。主軸方位はN-7°-Wを測る。主柱穴はP1～P4で径58～80cm、深さ58～80cmと規模が大きい。P2で柱痕が認められた。壁際には壁柱穴がある。

掲載遺物は須恵器杯蓋(1)、弥生式土器甕(2)、軽石製スリ石(3)がある。1の口縁端部は丸く、天井部との境に短い凸線がみられる。内外面口クロ横ナデされ、天井部外面はヘラケズリされる。他に破片は小片が37点と少なく、土師器杯(56図2と同タイプ)・鉢(内面ミガキ黒色)・甕がある。須恵器杯蓋はMT15号窯型式と平行するものとみられ、6C前半中頃に位置づけられている。

第34表 H 40 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器蓋	(14.2) — <3.9>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	口縁部1/4残存 10Y7/1(灰白)	精選されている。	P4 IV区1層
2	弥生土器甕	— (11.2) <6.2>	内 横位ミガキ 外 縦位ミガキ	底部1/4残存 10Y R7/2(にぶい黄橙)	内面黒色(黒色処理ではない) 緻密。	

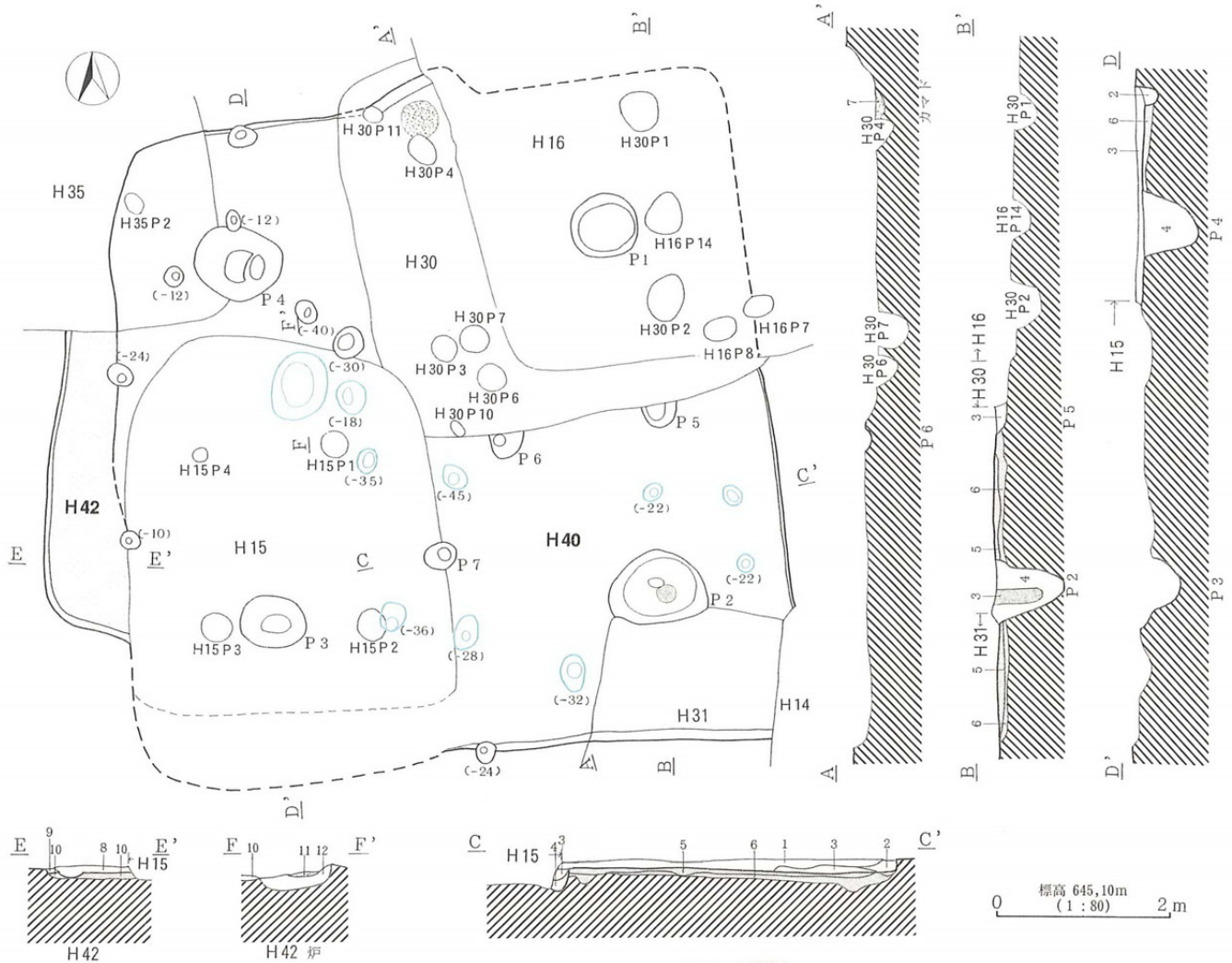
## 37) H 42 号住居址 (第58図、第35表、図版二十四・五十五)

7き2グリットにあり、H15・H35・H40に切られ、南西端隅が残るだけである。深さ23cmを測る。規模・形態・主軸はわからない。

掲載遺物には土師器杯(1)がある。比較的大振りで厚みがあり、内面はミガキ調整される。外面はヘラナデ程度の緩い調整後、口縁部を横ナデしわずかに外反させ、雑なミガキをしている。他は土師器杯片2点があるのみである。これらは古墳時代後期の土器である。

第35表 H 42 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(13.7) (6.6) 5.2	内 ヘラミガキ 外 体部ナデ・口縁部横ナデ→雑なミガキ	口縁部3/4残存(内面剥離) 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・小石含む。 緻密。	南側



H40 土層説明

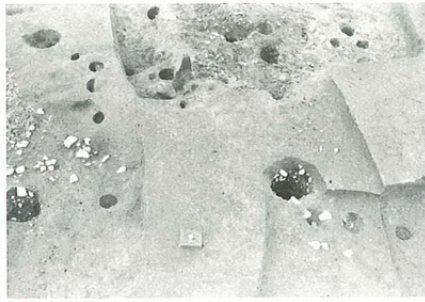
1. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) 焼土・炭化物粒子を含む。
2. 褐色土層(10YR4/4) 地山の砂を含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/3) シルト質土・炭化物粒子を含む。
4. にぶい褐色土層(10YR4/3) シルト質土を含む。
5. 黒褐色土層(10YR3/2)  
縮まりあまりなし。シルト質土と黒褐色土(10YR2/2)ブロックを含む。(貼床)
6. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山の砂主体。
7. 明赤褐色土層(5YR5/8) 焼土。

H42 土層説明

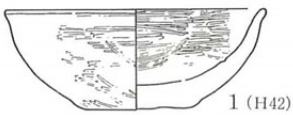
8. 暗褐色土層(10YR3/3)
9. 暗褐色土層(10YR3/4) にぶい黄褐色土(10YR4/3)粒子を含む。
10. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山のにぶい黄褐色土(10YR4/3)主体。縮まりなし。



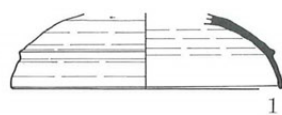
H42号住居址(南より)



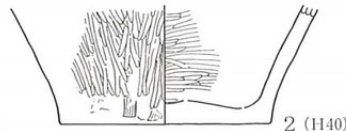
H40号住居址(南より)



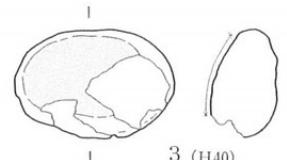
1 (H42)



1 (H40)



2 (H40)



1 3 (H40)

第58図 H40・42号住居址

0 (1:4) 10cm

## 38) H 43 号住居址 (第59図、第36表、図版二十四・二十五・五十五)

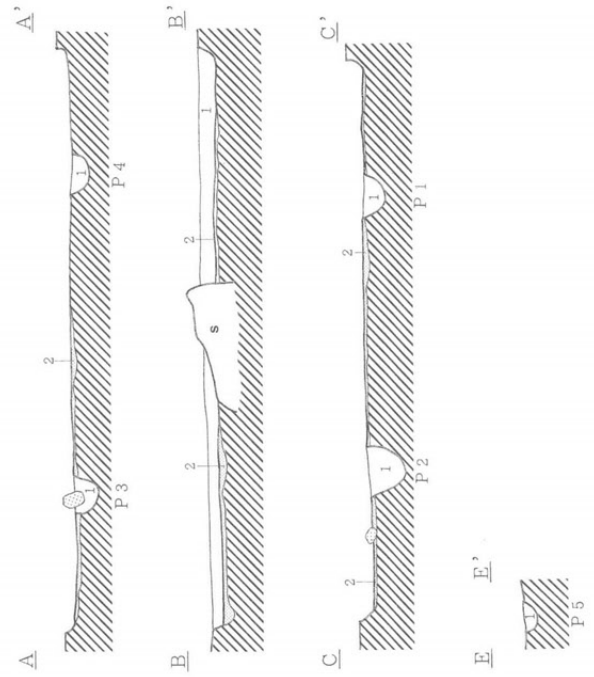
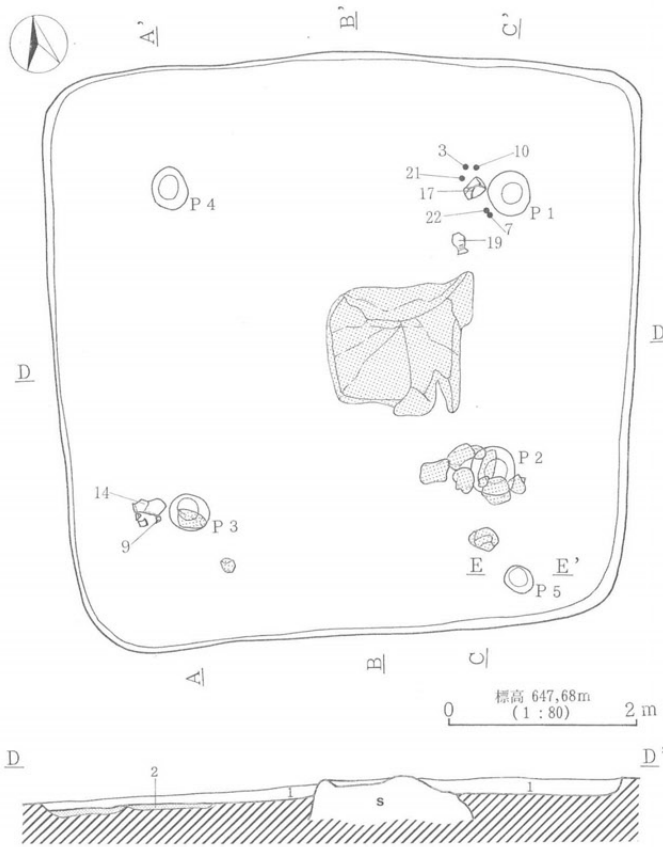
5き1グリットにあり、F16を切る。南北594cm、東西604cm、壁残高23cmの方形を呈す。この住居址は中央に150×136cmの石が床面から突きだして検出されている。竈穴住居址の中央に、大きな石がそのままある例をみたことがなく、一般的な住居址かどうかは判断に迷う。火処は検出されていない。P1～P4の主柱穴が4本ある。円形で径40～48cm、深さ24～44cmを測る。

掲載遺物には土師器杯(1～9)、椀ないし鉢(10)、鉢(11)、壺(13)、甕(12)、黒耀石の剥片(23・24)がある。土師器杯は6が橙色の須恵器の模倣杯。粉末質の胎土で内面ナデ調整される。1・2・4は内外面ミガキ、口縁部は外稜を持って外反する。5は端正な作りで、浅く小さい底部が下方にあり、外稜を持って口縁が長く外傾する。内面ミガキ黒色処理、外面ミガキ調整である。3・7～10は分厚く、調整も甘く雑にヘラミガキされる。12は「くの字口縁甕」といわれる、外面にハケ目を残す甕口縁で、古墳時代前期の混入品であろう。長胴甕14は口縁部が強く外反し、17はわずかに外傾する。ともに口縁部に最大径を持つ。15は胴部ヘラナデ後ミガキ調整され、胴部に最大径がある。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第36表 H 43 号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.0) — 5.3	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部ミガキ→底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存(内外面摩耗) 内 10Y R4/1(褐灰) 外 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む。	検出
2	土師器杯	(12.0) — 4.0	内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	Ⅲ区
3	土師器杯	11.7 6.0 4.5	内 横ナデ(ササラ状工具使用?)→横位ミガキ 外 体・底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ→横位ミガキ	ほぼ完形 5Y R5/3(にぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	
4	土師器杯	13.6 — <3.0>	内 横ナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/4残存 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	検出
5	土師器杯	(15.5) 7.8 4.7	内 横位ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ→口縁部部分的に横位ミガキ	口縁部1/3残存・底部完形 内 7.5Y R6/3・N2/0(にぶい褐・黒) 外 7.5Y R6/4(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	検出
6	土師器杯	(15.8) — <5.6>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 2.5Y R7/6(橙) 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少量含む。 粉末質胎土。 緻密。	検出
7	土師器杯	14.6 — 5.3	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁部5/6残存 7.5Y R6/4(にぶい橙)	白色粒子・黒色粒子を含む。	
8	土師器杯	(14.5) — 4.2	内 横位ミガキ 外 口縁部横位ミガキ	口縁部3/4残存(外面摩耗) 10Y R8/3・8/4(浅黄橙)	1mm以下の黒色粒子・赤色粒子を含む。	I区
9	土師器杯	(13.0) — 4.9	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁部1/3残存 10R5/6(赤) 5Y R5/6(明赤褐)	3mm以下の白色粒子・黒色粒子を多く含む。	Ⅱ区
10	土師器杯	(12.7) — 8.0	内 ナデ→ミガキ 外 ヘラケズリ・口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/3残存(摩滅) 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・小石を含む。	
11	土師器鉢	(25.4) (8.8) 13.2	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ・胴部と底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/4・底部1/3残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R7/3(にぶい黄橙)	2mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
12	土師器甕	(18.0) — <6.3>	内 口縁部ハケメ→縦位～斜位ミガキ・胴部ナデ 外 ハケメ→口縁上部横ナデ	口縁部1/5残存 7.5Y R6/3(にぶい褐) 10Y R7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	検出
13	土師器壺	(15.2) — <12.7>	内 口縁部横ナデ→わずかにミガキ・胴部ナデ 外 口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/8残存(外面摩耗) 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子を含む。	Ⅱ区・検出
14	土師器甕	(20.3) 3.8 33.0	内 口縁部横ナデ→縦位ナデ 外 口縁部横ナデ→縦位ヘラケズリ	口縁部2/5残存 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	Ⅱ区
15	土師器甕	(17.4) — <19.6>	内 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラナデ→縦位ミガキ	口縁部1/4残存 2.5Y R6/4(にぶい橙)	赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	Ⅳ区・検出
16	土師器甕	— 6.9 <9.9>	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	底部完形 2.5Y R6/3(にぶい橙)・2.5Y R4/1(赤灰)	赤色粒子を含む。	I区・検出

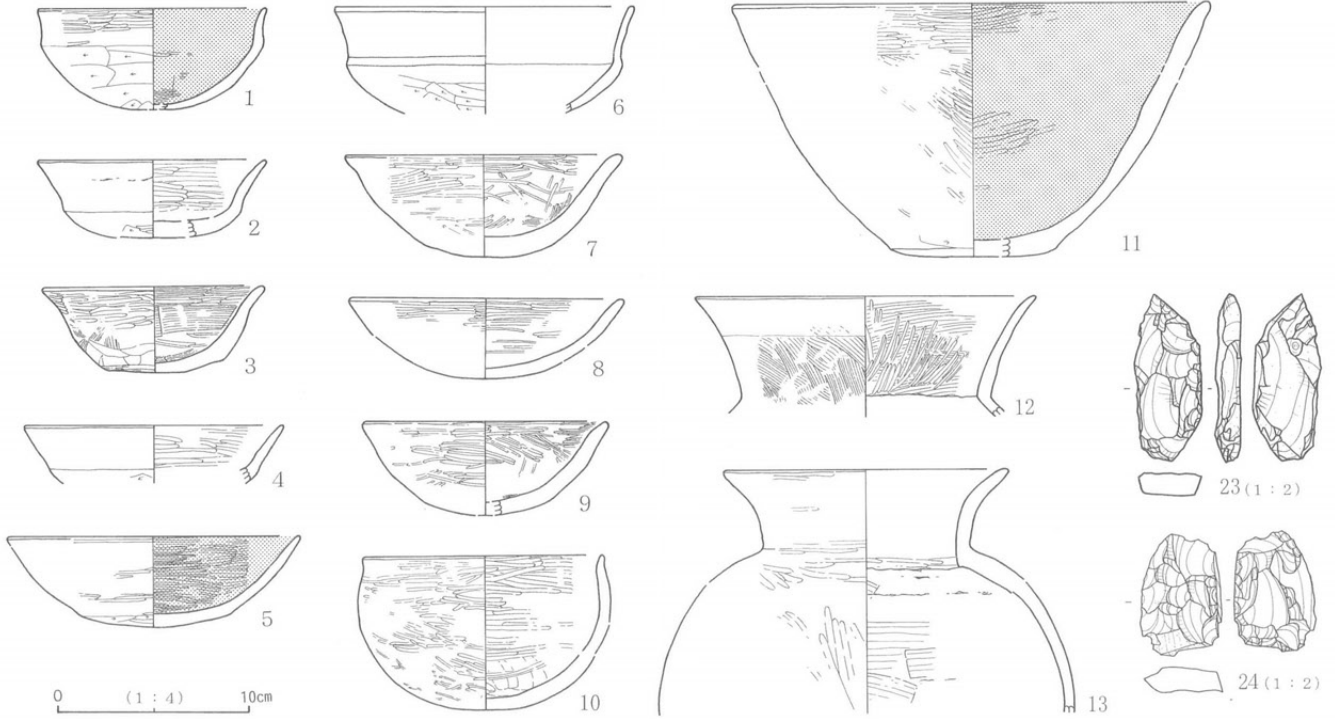
1. 古墳時代



H 43号住居址 (南より)

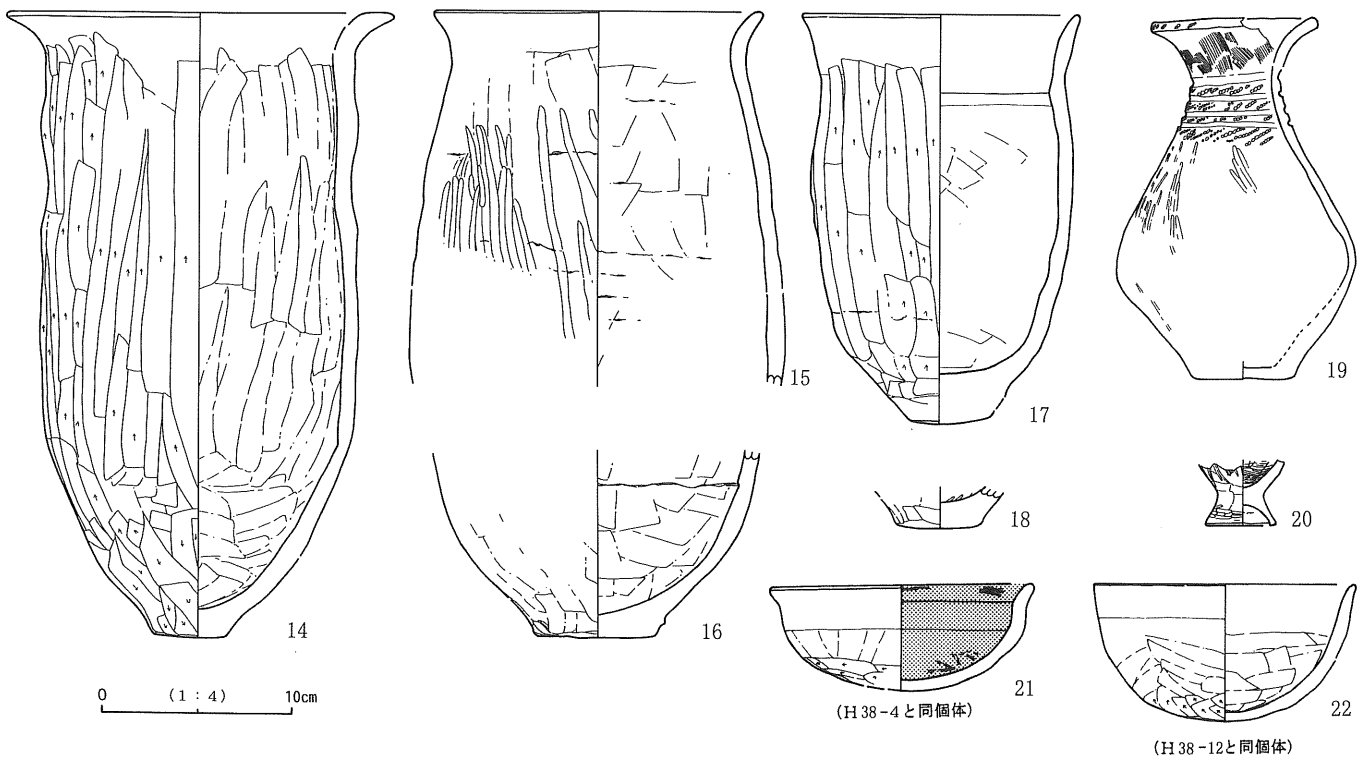
H 43 土層説明

1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 浅黄橙色土 (10YR8/4) 砂粒粒子・不定大ブロックを含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂粒混入。



第 59 図 H 43 号住居址





第60図 H43号住居址

第36表 H43号住居址出土遺物一覧表(2)

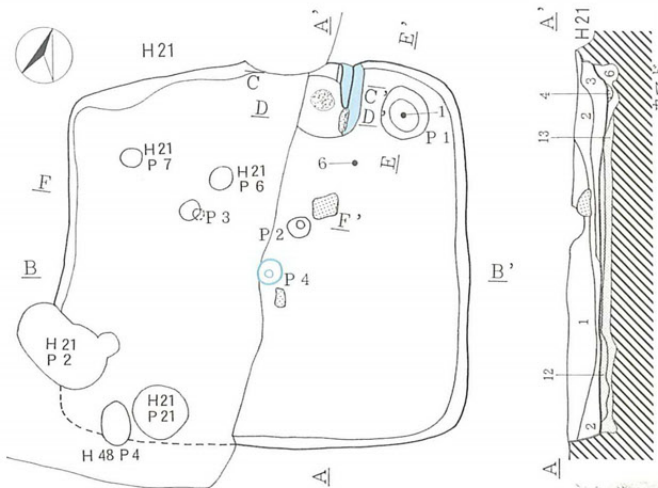
17	土師器 甕	14.7 4.3 21.5	内外 胴~底部ヘラナデ→口縁部横ナデ 胴部・底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部2/3残存、底部完形 5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	
18	土師器 甕	- 4.6 <2.2>	内外 ナデ→一部ミガキ ナデ	底部完形 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	Ⅲ区
19	弥生土器 (小型)壺	(8.9) 5.4 <18.9>	内 口縁部ハケナデ・ナデ→ミガキ(胴部は不明) 外 口縁部ハケナデ・胴部縦位ミガキ 文 口唇部縄文。頸部、縄文を地文として、4条のヘラ描横走平行線文を施す。	底部完形、口縁部1/3残存 7.5Y R7/4(にぶい橙) 7.5Y R8/3(浅黄橙)	緻密。	
20	弥生土器 台付甕	- (3.7) <3.4>	内外 甕部ハケナデ・台部ナデ 文 台裾部ミガキ・その他ナデ 「コ」の字重文様あり。	底部1/2残存 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を含む。 緻密。	Ⅲ区

39) H49号住居址 (第61図、第37表、図版二十五・五十五・五十六)

7あ1グリットにあり、H21に切られH48を切る。南北387cm、東西404cm、壁残高40cm の方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、西袖はH21に壊される。主軸方位はN-18° -Wを指す。主柱穴はP2とP3であろうか。カマドの東、南東隅に径48cm、深さ32cm の円形ピットP1があり、粘土・炭化物を含んでいる。床下中央には径24cm、深さ24cm を測るP4がある。

掲載遺物は土師器杯(1)・鉢(2)・小型甕(3)・丸胴甕(5)・長胴甕(6・7)・手捏(4)がある。1の土師器杯は浅く底径が大きく、外稜を持って外傾する。内外面ミガキ調整。丸胴甕は内外面ミガキ調整。長胴甕は最大径は胴部であろうか。H21号住居址よりは古いが、これらも古墳時代後期の土器群であろう。

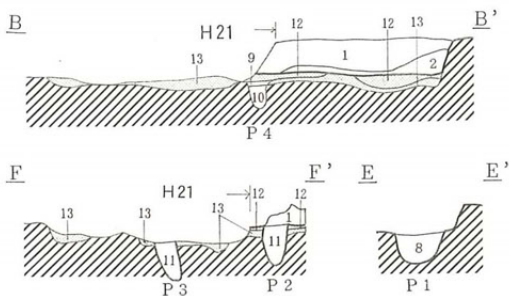
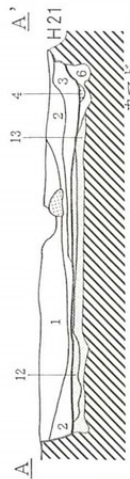
1. 古墳時代



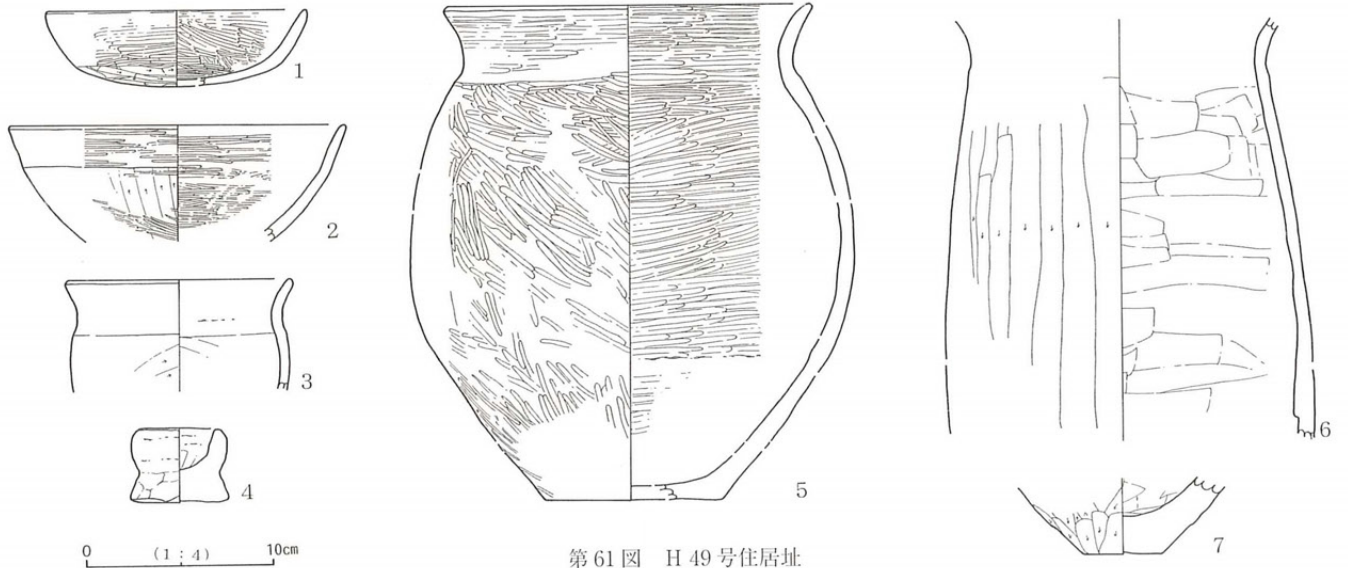
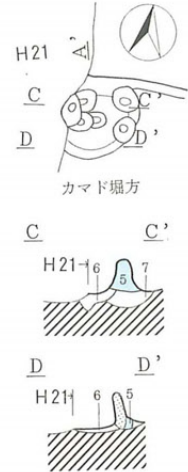
H 49 土層説明

1. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土ブロックを含む。
2. 灰黄褐色土層(10YR4/2) にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土ブロックが1層よりも少ない。
3. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 多量の灰・焼土・炭化物を含む。(カマド崩壊層)
4. 明赤褐色土層(5YR5/8) 焼土。
5. 黄褐色土層(10YR5/6) 粘土。(カマド構築土)
6. 黒褐色土層(10YR3/1) 黄褐色(10YR5/6)粘土粒子を少し含む。(カマド堀方)
7. 褐灰色土層(10YR4/1) 黄褐色(10YR5/6)粘土粒子を少し含む。(カマド堀方)
8. 黒褐色土層(10YR2/2) にぶい黄褐色(10YR7/3)粘土・炭化物を含む。(P 1)
9. 褐色土層(10YR4/4) シルト質土ブロック・黒色土(10Y2/1)が混在。(P 4)
10. 黒褐色土層(10YR3/1) シルト質土粒子・シルト質土ブロック混在。(P 4)
11. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂質土層、細かい砂粒を含む。(P 2・P 3)
12. 黒褐色土層(10YR2/3) シルト質土ブロック・炭化物混入。(貼床)
13. にぶい黄褐色土層(10YR3/4) 地山の砂粒子多量混入。(堀方)

標高 645.51m  
(1:80) 2m



H 49 号住居址 (北東より)



第61図 H 49号住居址

第37表 H 49号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.0) (11.0) 4.0	内外 ミガキ 底部ヘラケズリ→ミガキ(外面摩耗)	口縁~底部1/4残存 7.5Y R7/1(灰白)	1mm以下の赤色粒子含む。	P1
2	土師器 鉢	(18.0) -<6.1>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/8残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子・黒色粒子、 1mm以下の白色粒子少量含む。	I区
3	土師器 甕	(12.2) -<5.9>	内外 口縁部横ナデ・胴部ナデ 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ	口縁部1/4残存(外面摩滅) 2.5Y R6/4(にぶい橙)	2mm以下の赤色粒子を多量、 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	III区

4	手捏	(5.0) (5.2) 3.9	内 ナデ・ヘラナデ 外 ナデ	底部1/2残存 10Y R5/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	カマド
5	土師器 丸胴甕	19.6 (9.3) 26.3	内 横位ミガキ(下半はナデ調整残る) 外 ミガキ	口縁部1/2残存 底部1/6残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を多量 1mm以下の赤色粒子を少量 含む。	H21 I区検出 H49 III区・ IV区・堀方
6	土師器 甕	— <22.2>	内 口縁部横ナデ→胴部横位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	胴部のみ1/2残存 5Y R6/3(にぶい橙)	小石含む。	
7	土師器 甕	(4.0) <4.0>	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	底部1/2残存 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	I区

## 40) H 54 号住居址 (第62・63・64図、第38表、図版二十六・五十六・五十七)

6う5グリットにあり、H26・H27に切られる。南北591cm、東西602cm、壁残高34cmの方形を呈す。焼失家屋で多くの炭化材が残されていた。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-6°-Wである。カマドは焚口は石で囲い、粘土を貼って構築され、煙道が長く伸びる。主柱穴はP1~P4で楕円形を呈し、短径で40~60cm、深さ52~76cmを測る。北東のカマド東には楕円形の長径84cm、深さ20cmの粘土ブロック・炭化物を含むピットがある。堀方で南側中央に2カ所の落ち込みが検出された。(D1・D2)

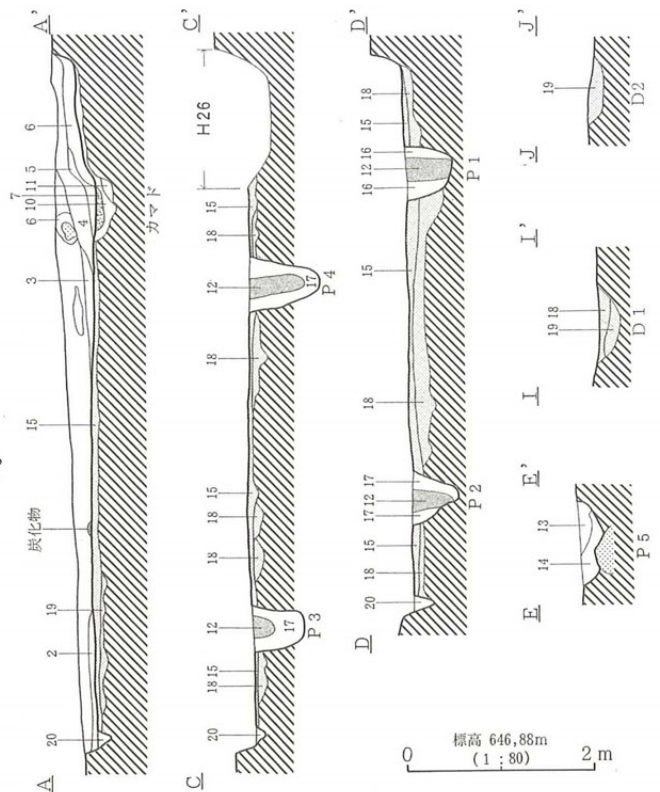
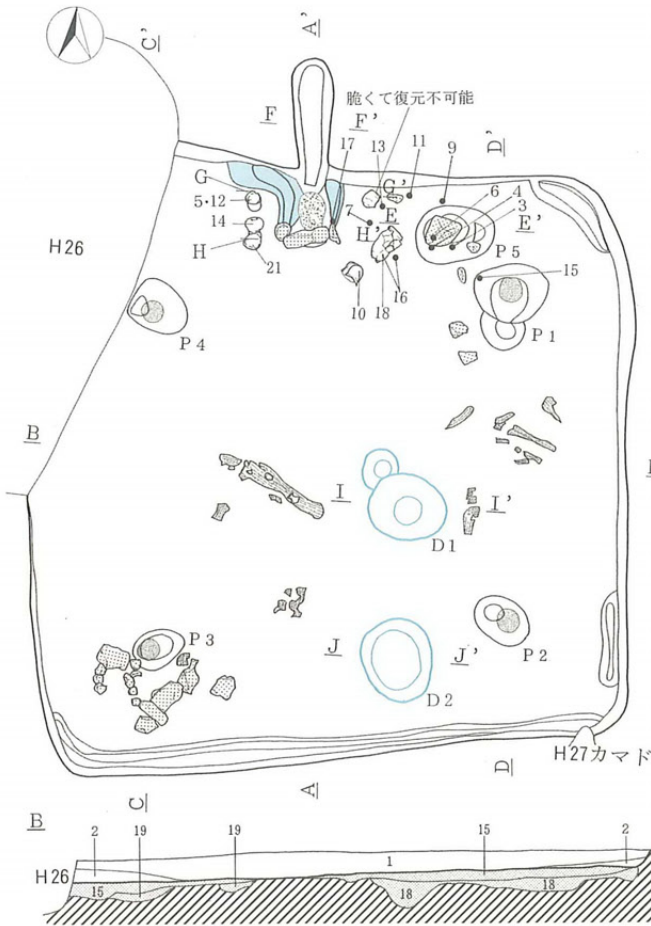
掲載遺物は土師器杯(1~6)・鉢(7・8・10・12)・甌(21)・小型甕(11)・丸胴甕(9・15)・台付甕(13)・長胴甕(16~19)、弥生式土器(20)、黒耀石製石鏃(40)、軽石製凹石(42)、ガラス質黒色安山岩製剥片石器がある。

焼失家屋であるため土器セットが看取された。17の長胴甕はカマドの構築材として使用されており省いて、他はほぼ完形品で使用状態のまま残されていた。カマド付近での土器使用の様子が窺える。

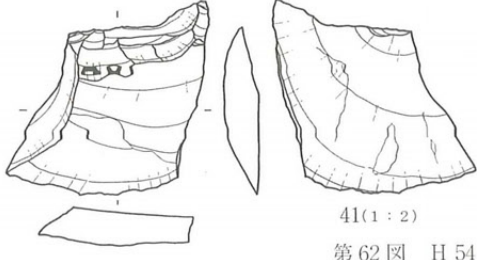
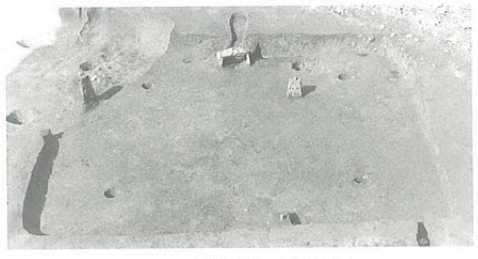
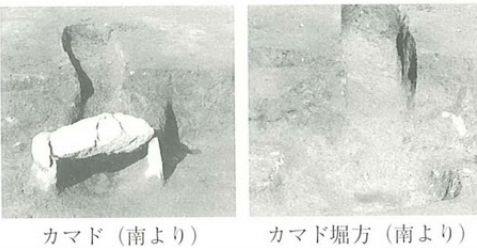
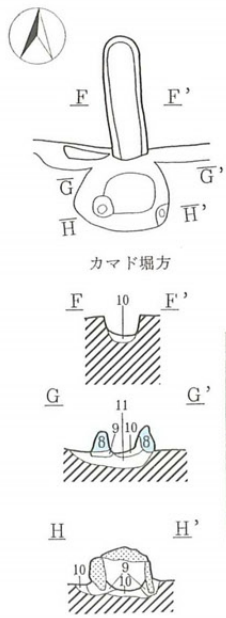
土師器杯はいずれも内面ミガキ黒色処理される。器形は1が深く外稜を持って外傾、2は平底に近く底部が浅く、外稜をもって不明瞭な稜から屈曲をして外傾する。3・4は器形のゆがみが顕著である。4は5・6の平底に近く内稜・外稜を持って長く外傾する杯と似ている。甌は鉢形で多孔。長胴甕は胴部ヘラケズリとハケ調整があり、最大径は口径にある。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第38表 H 54 号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	13.0 — 5.6	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁部4/5残存(外面剥落) 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	I区
2	土師器 杯	(12.8) (11.0) 3.9	内 横位ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ・ナデ	口縁部1/5残存 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子含む。	III区
3	土師器 杯	14.0 10.2 3.6	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部ミガキ・底部ヘラケズリ→ミガキ	完形 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	I区
4	土師器 杯	14.1 5.9 4.1	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ→底部及び底部外周ヘラ ケズリ	口縁部3/4残存 内 N2/0(黒) 外 2.5Y R7/4(淡赤橙)	5mm以下の赤色粒子、2mm 以下の黒色粒子、1mm以下 の白色粒子含む。	I区・表探
5	土師器 杯	15.4 8.1 5.2	内 横位ミガキ→黒色処理 外 横位ミガキ	ほぼ完形(外面摩滅) 内 N2/0(黒) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子含む。	
6	土師器 杯	16.2 7.7 4.4	内 ミガキ→黒色処理 外 ミガキ	完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子を含む。	
7	土師器 鉢	(16.0) 6.0 7.2	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ・体部底部ヘラケズリ→ ミガキ	口縁部3/4残存・底部完形 (外面剥離) 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mmの赤色粒子含む。1mm 以下の白色粒子少量含む。	
8	土師器 鉢	(15.2) — 8.9	内 体部ナデ→口縁部横ナデ→黒色処理 外 体部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 N2/0(黒) 外 5Y R8/4(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子含む。	III区
9	土師器 小型 丸胴甕	13.6 7.3 20.2	内 口縁部横ナデ→胴部底部ヘラナデ→黒 色処理 外 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘラナデ	完形(剥離) 内 N2/0(黒) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。 口縁部に一条の沈線あり。	



- H54 土層説明
1. 黒褐色土層(10YR3/1) バミス・シルト粒子を含む。炭化物を含む。
  2. 暗褐色土層(10YR3/4) 地山(砂)ブロックを含む。
  3. 黒色土層(10YR2/1) 炭化物を多量に含む。
  4. 黒褐色土層(10YR3/2) 炭化物・焼土粒子・粘土ブロックを含む。
  5. 暗赤褐色土層(5YR3/2) 粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物を含む。(カマド崩壊層)
  6. 褐灰色土層(10YR4/1) 粘土ブロック多量に含む。(カマド崩壊層)
  7. 黒褐色土層(5YR2/1) 灰・焼土粒子を含む。
  8. にぶい黄褐色土層(10YR5/3) 粘土主体。(カマド袖構築土)
  9. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 浅黄色(2.5YR7/4)粘土を含む。(カマド堀方)
  10. 黒褐色土層(7.5YR2/2) 焼土・粘土ブロックを含む。内側の燃焼面が焼けている。
  11. 暗褐色土層(7.5YR3/3) やや焼けている。(カマド堀方) (カマド堀方)
  12. 黒色土層(10YR2/1) シルト粒子・炭化物を含む。(柱痕)
  13. 黒褐色土層(10YR3/1) 炭化物を含む。(P5)
  14. 暗褐色土層(10YR3/4) 粘土ブロック・炭化物を多量に含む。(P5)
  15. 黒褐色(10YR2/2)・褐色(10YR4/4)・黄砂ブロック(10YR4/4)・シルト質土ブロック・灰黄褐色(10YR6/2)が混在層 締まりあり。(貼床)
  16. 黒褐色土層(10YR2/2) 黄褐色(10YR4/2)砂を多量に含む。(ピット堀方)
  17. にぶい黄褐色土層(10YR5/4) 黄褐色の砂に暗褐色土を含む。(ピット堀方)
  18. 黒褐色土層(10YR2/1) 地山の灰黄褐色(10YR4/2)砂ブロックを含む。粘性がある。
  19. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂質。20. 暗褐色土層(10YR3/4) (周溝)



第62図 H54号住居址